出来形管理書類作成システム

QuickProject

TS 出来形マネージャ

クイックプロジェクト ティーエス出来形マネージャ

操作マニュアル

株式会社ワイズ

目次

第1章 基本操作 5

1. はじめに 5
システムの特徴 5
作業の流れ 8
画面の見方 9
基本操作方法 11
2. システムの起動と終了およびデータの保存 13
システムを起動する 13
システムを終了する 14
工事データの保存 14
3. メニュー、ツールバー 15

第2章 TS出来形データの読み込み・出力 17

1. 施工管理データを読み込む 17
施工管理データの読み込み 17
読み込んだデータを補正する 19
2. 出来形帳票を印刷する 21
出来形管理図表(PDF)を印刷する 21
3. 施工管理データを出力する 23

第3章 TS出来形データの編集 25

1. 工事データに変換する 25
2. 工事データを編集する 26
工事情報を編集する 26
工事ツリー(工種・種別・細別・検測種別)を編集する 27
測点リストを修正する 27
測定データを入力/修正する 30
3. 出来形管理書類の印刷を行う 32
出来形管理図表などの印刷(Excel出力)を行う 32
出来形管理総括表の印刷(Excel出力)を行う 34

第4章 出来形管理書類作成（情報化施工マネージャと連携しない場合） 36

1. 作業の流れ 36
2. システムを起動する 37

3. 工事データの新規作成・既存のデータを選択する 38
[メニュー(工事選択)]ダイアログの表示 38
新規に工事を作成する 38
既存の工事を開く 39
4. 工事情報を入力する 40
工事情報ダイアログの表示 40
工事件名等 40
発注者/請負者 41
社員 41
測点 42
5. 工事ツリーを作成する 44
工事ツリーの基本 44
工種の追加 45
種別の追加 46
細別の追加 47
検測種別の追加 48
フォルダのコピー・貼り付け 49
フォルダの移動 50
工種・種別・細別のマスタ編集 51
6. 測点リストを作成する 54
測点リストへ測点の一括追加 54
測点リストの編集 55
測点名の一括変更 57
項目別表示に切り替え 58
7. 略図を追加する 59
略図の新規作成 59
略図の編集 59
略図の削除 60
画像貼付 60
構造物集から読み込み 61
外部からの読み込み 62
8. 測定データを入力する 63
測定項目編集 63
実測値入力 67
9. 印刷(Excel出力)を行う 68
Excel出力 68
設定(印刷) 70
出力設定 75
10. システムの設定を行う 76
オプションダイアログの表示 76
入力に関する設定 76
表示に関する設定 77
測点に関する設定 77
単位に関する設定 78
共有に関する設定 78
11. 出来形管理総括表 79
出来形管理総括表の入力 79
印刷(Excel出力) 82

12. 構造物集を管理する 83
構造物集のライセンス認証 83
構造物集の切り替え 83
構造物集の編集画面の表示 84
構造物の管理 84
検測種別の管理 87
測定項目の管理 89
略図の作成、読み込み、編集、削除 90
13. データをチェックする 91
データチェック設定 91
データチェック 91

第 1 章　基本操作

1. はじめに

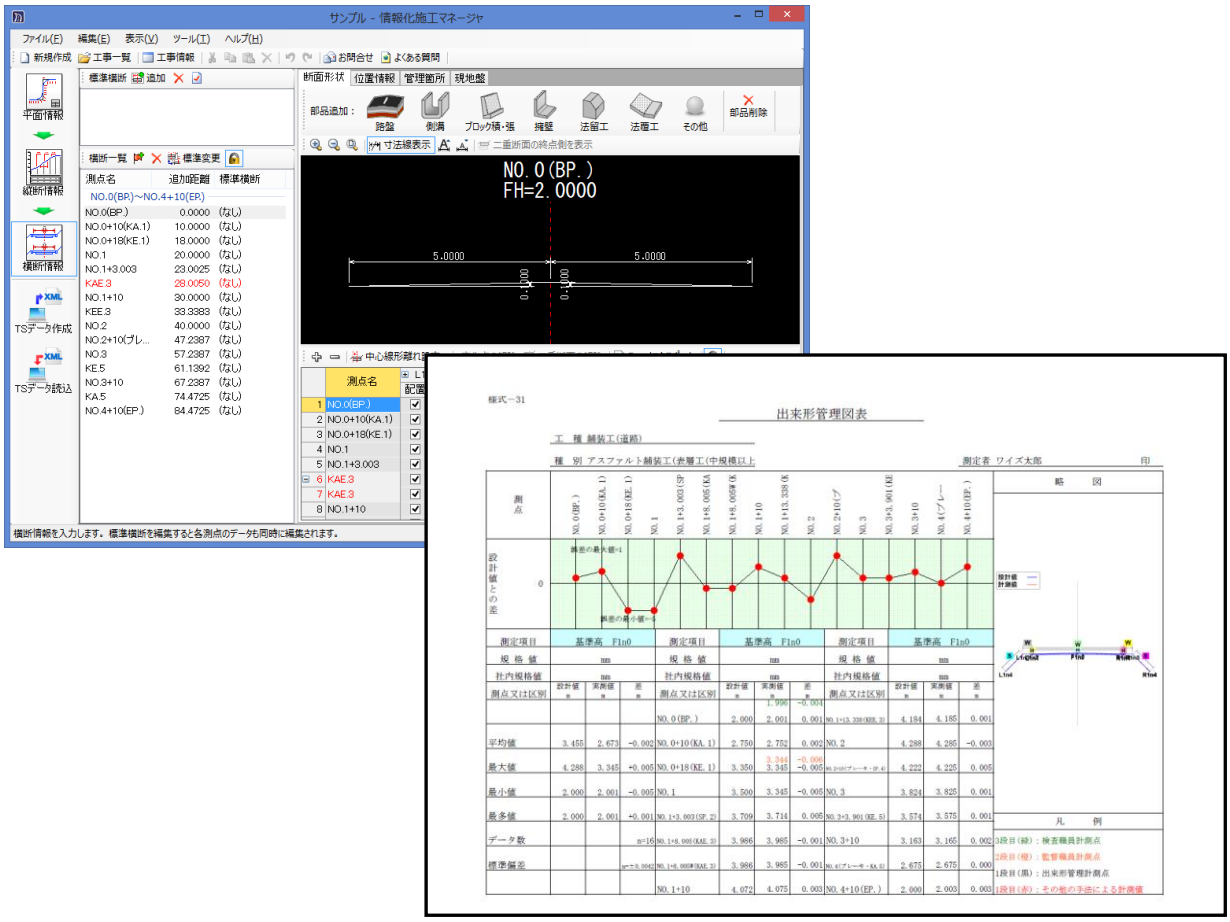
QuickProject　TS 出来形マネージャは、情報化施工マネージャと連携することで TS 出来形用データを読み込み TS 出来形管理帳票を自動作成することができるソフトウエアです。

また、他社ソフトで作成した施工管理データの読み込みや従来の出来形管理（実測値、設計値情報を入力して出来形帳票作成）までサポートしています。

システムの特徴

情報化施工マネージャと連携

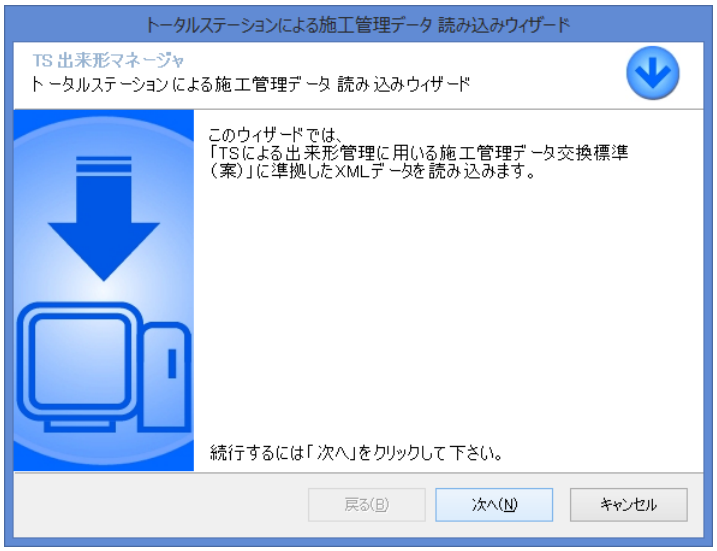
情報化施工マネージャで作成した基本設計データとTS（トータルステーション）で測定したデータと連携し、ボタンひとつで出来形書類を作成できます。帳票の出力するための入力はいっさい不要です。出来形書類作成の時間短縮、転記ミスを防ぐことができます。



施工管理データの読み込み

情報化施工マネージャと連携するだけでなく、他社ソフトで作成した施工管理データの読み込みに対応。
施工管理データから出来形管理書類の作成が行えます。

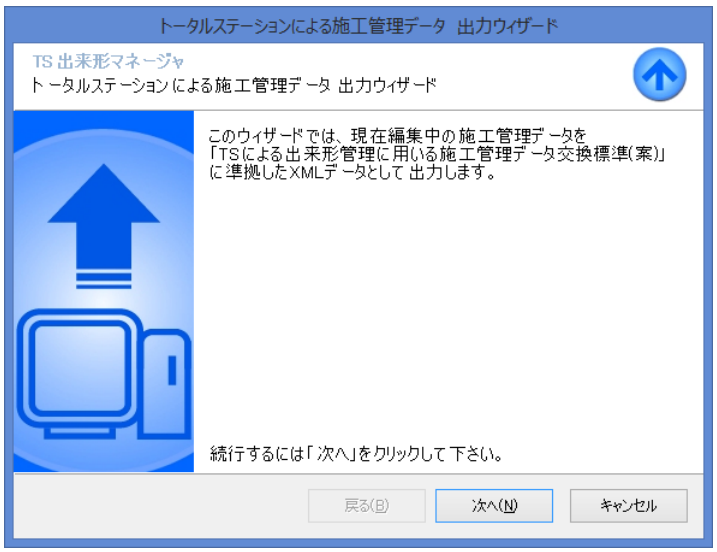
ウィザード形式で操作も簡単です。



施工管理データの出力

「TS による出来形管理に用いる施工管理データ交換標準（案）」に準拠した XML データ出力に対応。
補正後の施工管理データを作成できます。

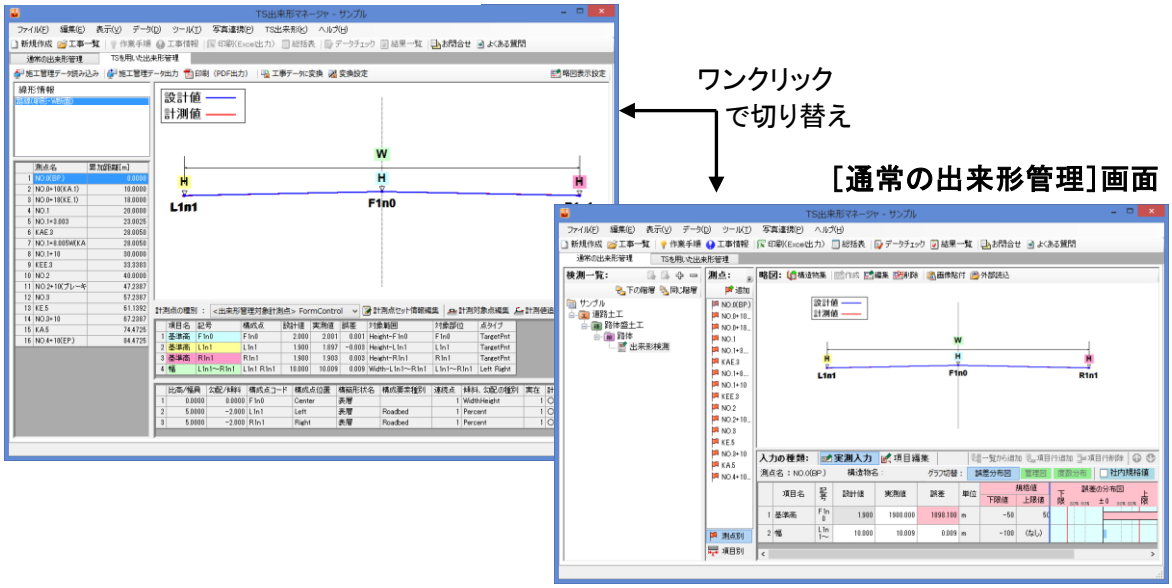
ウィザード形式で操作も簡単です。



連携した TS 出来形データの編集(データ変換機能)

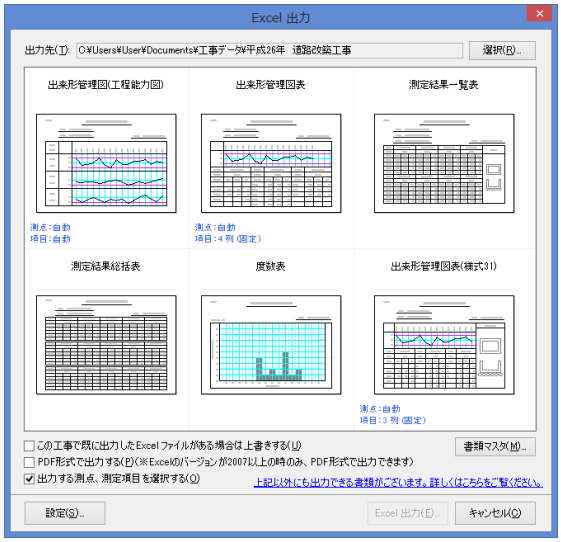
連携した TS データで出来形管理帳票を作成するだけでなく、自由に編集することができます。工種、種別などがツリー表示され、作業状況がわかりやすくなっています。

[TS を用いた出来形管理]画面



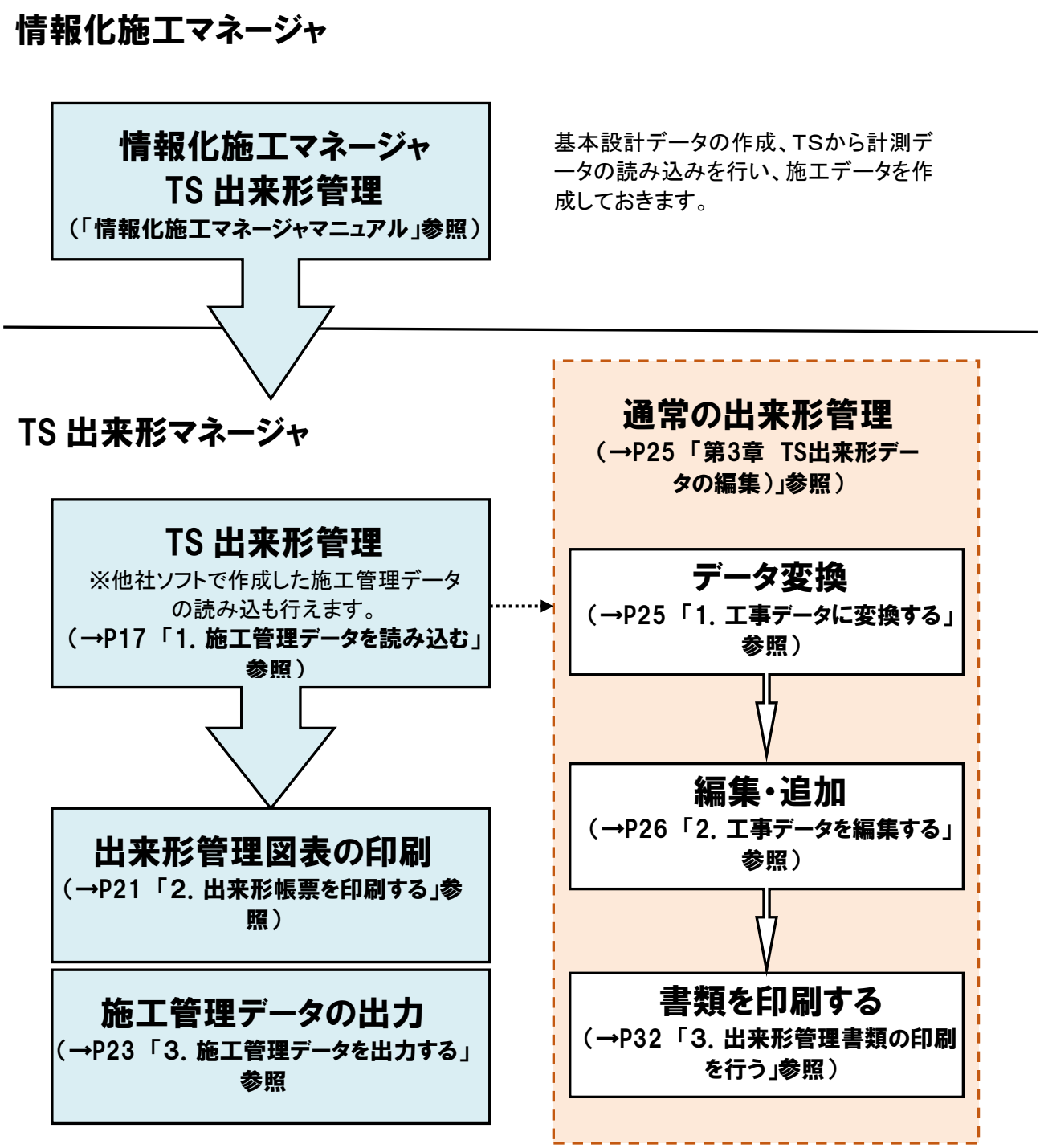
出来形管理図表等の印刷(Excel 出力)機能

出来形管理図(工程能力図)、出来形管理図表、測定結果一覧表、測定結果総括表、度数表、出来形管理図表(様式 31)をExcelへ出力し、印刷することができます。必要に応じて修正を加えることも可能です。



■追加オプションの都道府県構造物集をお買い上げいただくと、都道府県の基準に沿った様式を Excel 出力していただけます。(P83「12. 構造物集を管理する」を参照)

作業の流れ



■情報化施工マネージャと連携せずに出来形書類を作成することもできます。（→P36「第4章　出来形管理書類作成」参照）

画面の見方

「TS　出来形を用いた出来形管理」と「通常の出来形管理」の2画面で構成されます。それぞれの画面で見方が変わります。

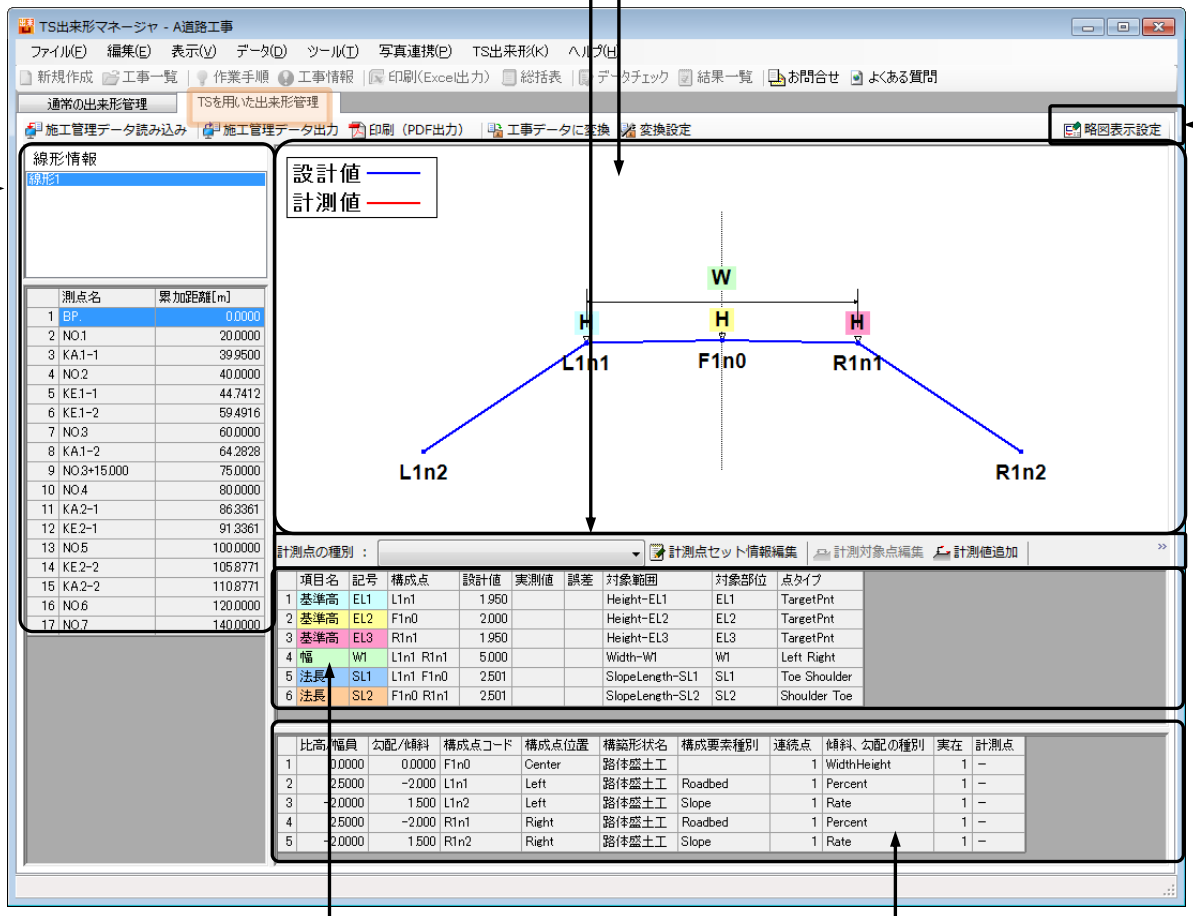
TS 出来形を用いた出来形管理画面

ツールバー
TS　出来形データの編集時に使用する各種ボタンです。
（→P19「読み込んだデータを補正する」参照）

略図
出来形管理を行う横断面が表示されます。

略図表示設定
凡例や項目など略図の表示設定が行えます。

線形リスト/測点リスト



出来形管理対象リスト

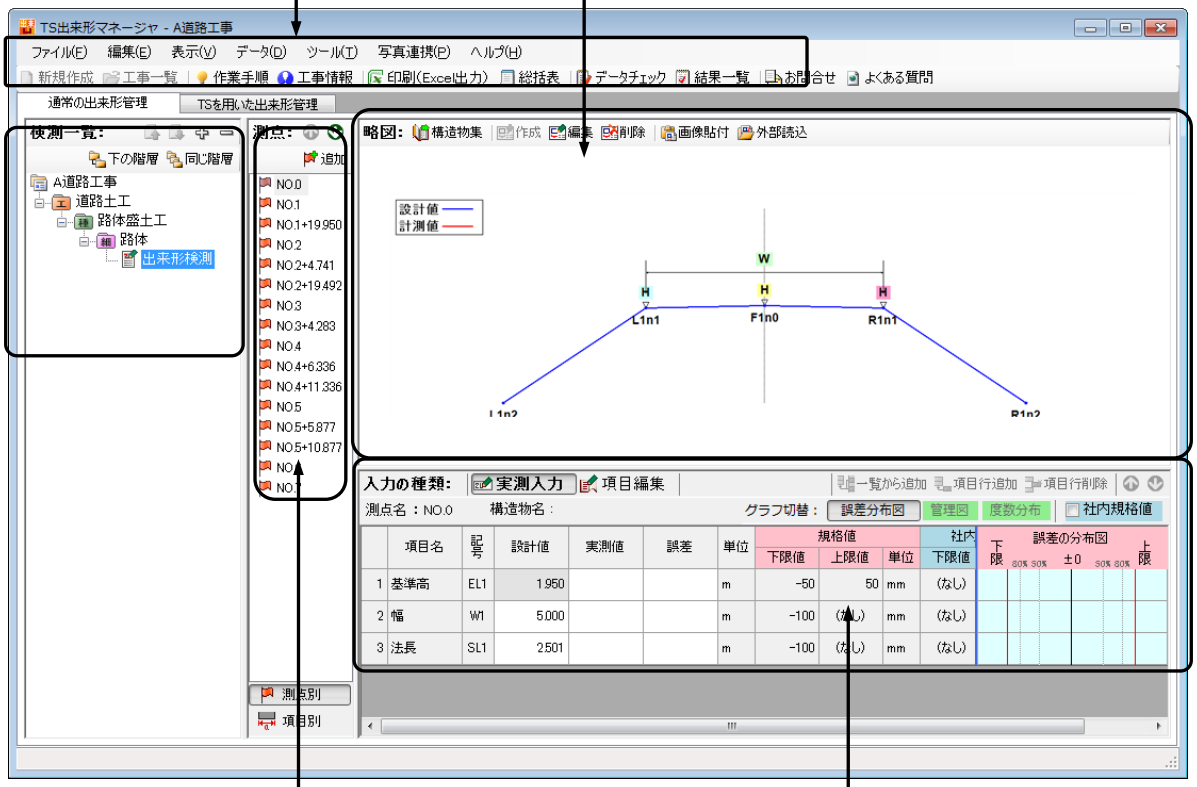
出来形対象点リスト

通常の出来形管理画面

工事ツリー
工種・種別・細別・検測種別を追加し、作成します。
（→P44「5. 工事ツリーを作成する」参照）

メニュー・ツールバー
TS　出来形マネージャの作業に必要な各種ボタンです。
（→P15「3. メニュー・ツールバー」参照）

略図
検測種別の略図が表示されます。作図システムから新規に作成することや、作成済みのファイルを読み込むことも可能です。
（→P59「7. 略図を追加する」参照）



測点リスト
選択された検測種別に追加されている測点のリストが表示されます。項目別リストに切り替えることも可能です。
（→P54「6. 測点リストを作成する」参照）

データ入力部分
実測値や設計値などの実際のデータを入力します。
（→P63「8. 測定データを入力する」参照）

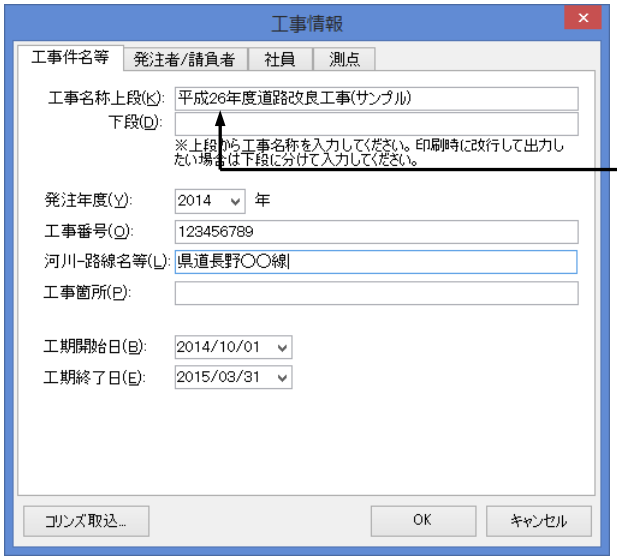
基本操作方法

ここでは、全ての入力作業に共通する基本操作について解説します。操作は Windows の基本操作に基づいています。

データを入力する（入力欄）

①入力欄をクリックし、データを入力します。

②入力欄を移動するには、[Tab]キーを押して次の入力欄に進むか、入力したい欄をマウスクリックで選択します。



[Tab]キーまたはマウスクリックでカーソルを移動し、データを入力します。

データを入力する（表形式の入力欄）

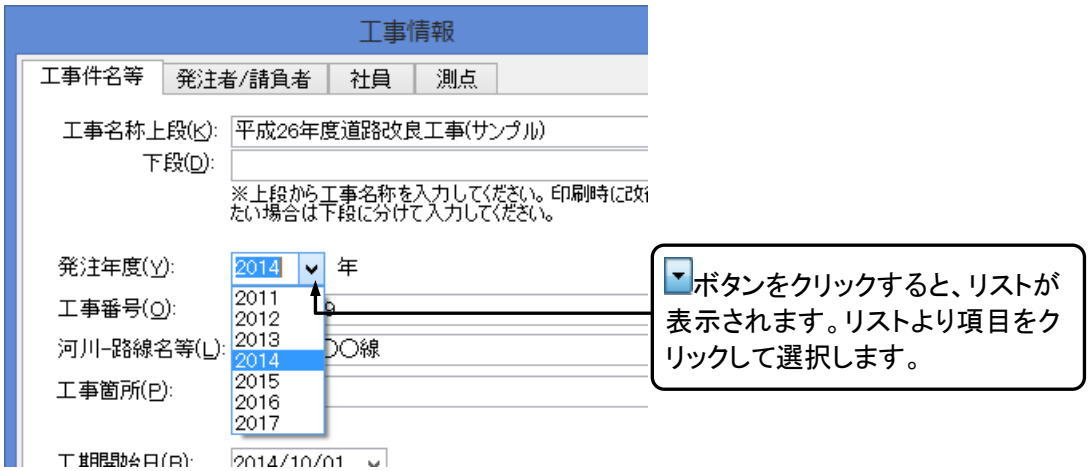
①入力欄をクリックし、データを入力します。

②入力欄を移動するには、キーボードの[↑][↓][←][→]キーを押して上下左右に移動する、[Enter]キーを押して一つ下の入力欄、[Tab]キーを押して一つ右の入力欄に移動する、または入力したい欄をマウスクリックで選択します。

キーボードの[↑][↓][←][→]キー、[Enter]キー、[Tab]キー、またはマウスクリックでカーソルを移動し、データを入力します。

リストから選択する

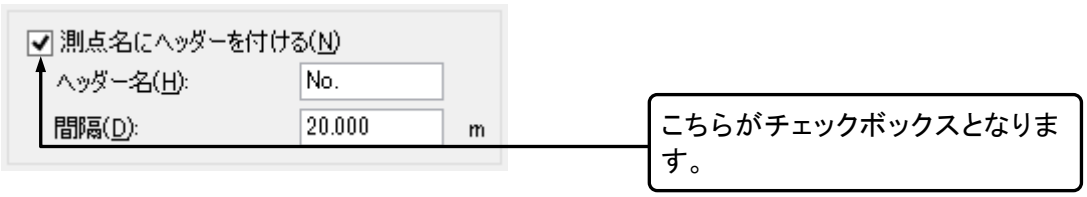
入力欄右に▼ボタンがある入力欄では▼ボタンをクリックすることでリストが表示されます。表示されたリストから入力したい項目名をクリックすることで入力ができます。



■カレンダー形式の入力欄
選択したい日をカレンダーよりクリックして選択します。

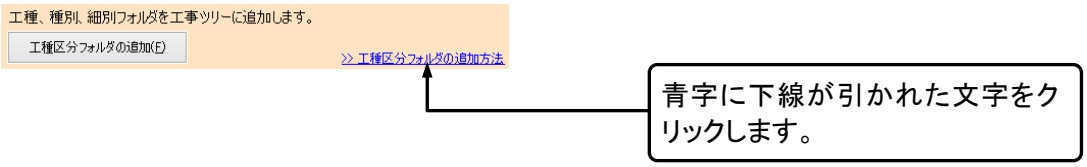
チェックをつける

チェックボックスはクリックすると、チェックがつきます。チェックがついている状態でクリックするとチェックが外れます。



リンク等をクリックする

ボタンやコマンドをクリックする以外に青字に下線が引かれた文字部をポイントするとマウスポインタの形が指差した状態に変わります。クリックすると画面が切り替わります。



2. システムの起動と終了およびデータの保存

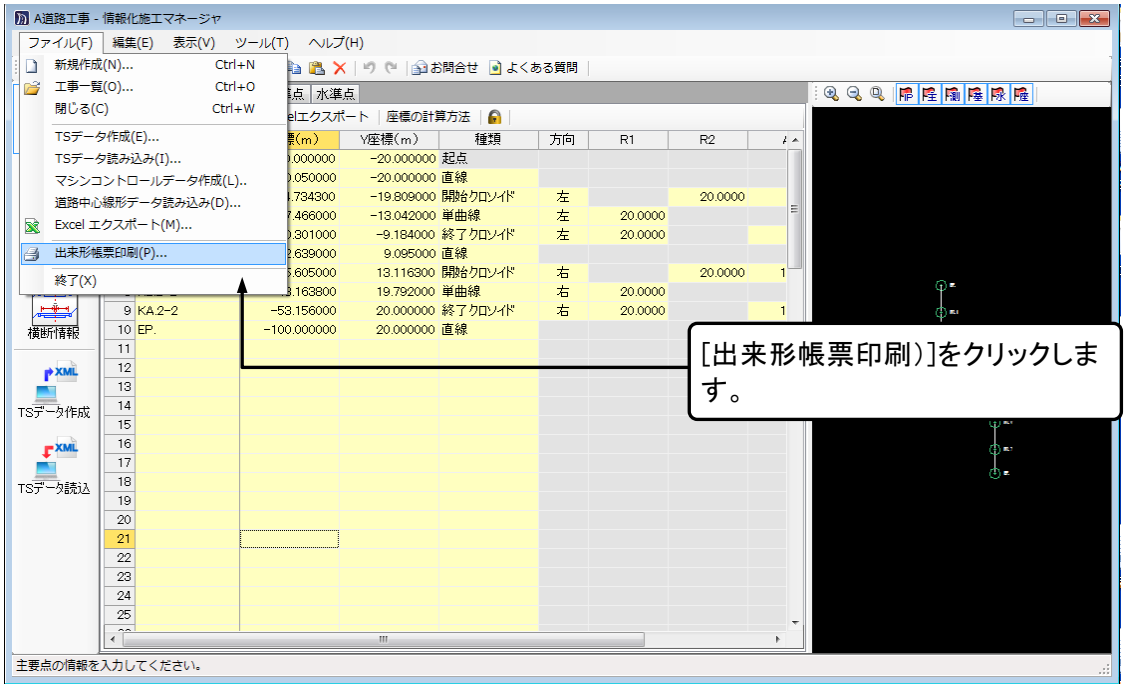
システムの起動方法と終了方法およびデータの保存について解説します。

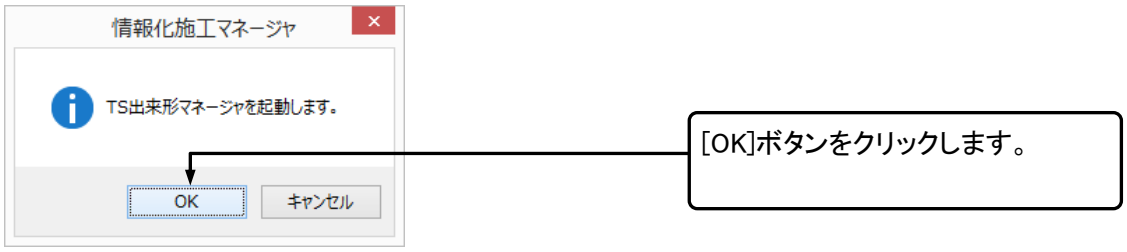
システムを起動する

情報化施工マネージャから出来形帳票を印刷する際に自動起動します。TS　出来形管理を行わない工事の場合は、直接起動して出来形管理することもできます。（→P37「2. システムを起動する」参照）

① 情報化施工マネージャから呼び出します。（起動）

○情報化施工マネージャの画面





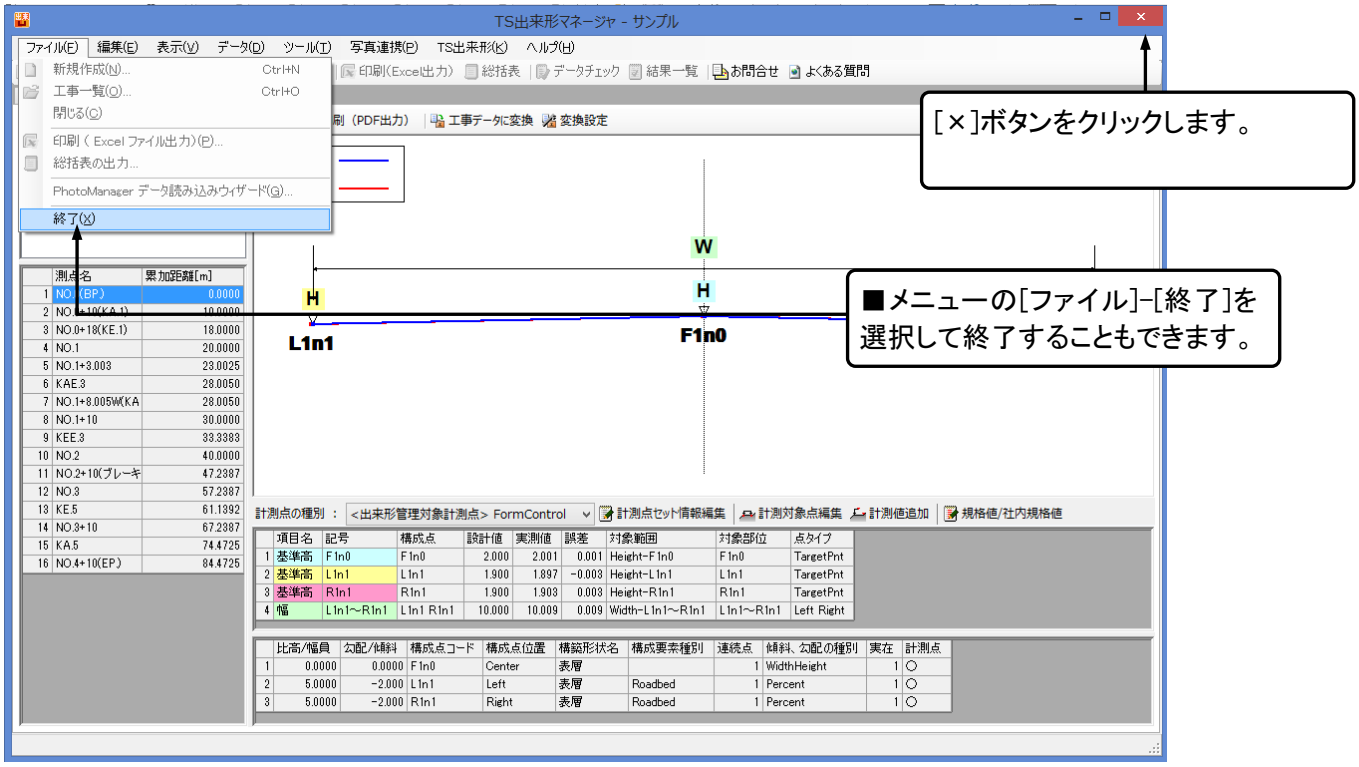
②TS　出来形マネージャが起動します。情報化施工マネージャで作成した施工管理データを自動的に読み込み「TS を用いた出来形管理」画面を表示します。

■TS 出来形マネージャの初回起動時は起動までお時間かかる場合があります。

■デスクトップにアイコンは表示されません。

システムを終了する

① ウィンドウ右上閉じるボタンをクリック、もしくは、メニューの[ファイル]-[終了]を選択します。



工事データの保存

入力したデータは自動保存されます。上書き保存などの必要はありません。

3. メニュー、ツールバー

メニューやツールバーの各機能について解説します。「TS を用いた出来形管理」「通常の出来形管理」各画面で選択できるメニューは異なります。下記一覧をご参考ください。

■：情報化施工マネージャと連携せずに単独で使用する場合のみ利用可能

		TS を用いた出来形管理	通常の出来形管理	参照項
ファイル				
	新規作成・・・新しい工事を作成します。	×	■	
	工事一覧・・・[メニュー（工事選択）]ダイアログを表示して、既存の工事を読み込みます。	×	■	
	閉じる・・・現在作業している工事を閉じます。（閉じた後に他の工事の作業をする場合）	×	■	
	印刷（Excel ファイル出力）・・・出来形管理図等を Excel ファイルへ出力します。	×	○	P68
	総括表の出力・・・総括表を出力します。	×	○	P79
	終了・・・TS 出来形マネージャを終了します。	○	○	P14
編集　（通常の出来形管理のみ使用可）				
	元に戻す・・・作業を戻します。	×	○	
	切り取り・・・選択した文字を切り取ります。	×	○	
	コピー・・・選択した文字をコピーします。	×	○	
	貼り付け・・・切り取り、コピーした文字をカーソルのある場所に貼り付けます。	×	○	
	削除　・・・文字、フォルダを削除します。	×	○	
表示　（通常の出来形管理のみ使用可）				
	作業の流れ・・・作業手順の一覧表を表示します。	×	○	
	工事情報・・・[工事情報]ダイアログを表示します。	×	○	P40
データ　（通常の出来形管理のみ使用可）				
	データチェック・・・工事情報・検測内容に不備がないか確認します。	×	○	P91
	データチェック設定・・・データチェックの設定を行います。	×	○	P91
	チェック結果一覧・・・最後に行ったデータチェックの結果を表示します。	×	○	
	社内規格値の一括変更・・・社内の規格値を一括で変更します。	×	○	P66
	測点名の一括変更・・・測点名を一括で変更します。	×	○	P57

ツール（通常の出来形管理のみ使用可）				
	工種区分フォルダの編集・・・工事ツリーのフォルダのマスタを編集します。	×	○	P51
	構造物集マスタ・・・構造物集マスタを表示します。	×	○	P84
	構造物集の切り替え・・・使用している構造物集を変更します。	×	○	P83
	エクスプローラ・・・エクスプローラを表示します。	×	○	
	データの最適化・修復・・・マスターと現在の構造物集のデータベースを最適化・修復します。	×	○	
	オプション・・・オプションを表示します。	×	○	P76
TS 出来形（TS を用いた出来形管理画面のみ表示）				
	施工管理データ出力・・・XML データを出力します。	○	×	P23
	印刷（PDF 出力）・・・出来形管理図表を出力します。	○	×	P21
	工事データに変換・・・編集可能な工事データに変換します。	○	×	P25
	変換設定・・・工事データ変換時の設定を行います。	○	×	P25
	計測点セット情報編集・・・計測者情報などを編集します。	○	×	P19
	計測対象点編集・・・計測対象点を修正します。	○	×	P19
	計測値追加・・・計測値情報を追加します。	○	×	P20
	社内規格値編集・・・社内規格値を編集します。	○	×	P20
ヘルプ				
	操作マニュアル・・・操作マニュアルを表示します。	○	○	
	ワイズのホームページを表示・・・（株）ワイズのホームページを表示します。	○	○	
	ワイズのダウンロードページを表示・・・（株）ワイズのダウンロードページを表示します。	○	○	
	ワイズのサポートページを表示・・・（株）ワイズのサポートページを表示します。	○	○	
	リモートサポートへ接続・・・弊社専用リモートサポートサイトへ接続します。詳しくは、サポートセンター（050-5491-1112）へご相談ください。	○	○	
	お問合せ・・・メールにてお問合せができます。	○	○	
	よくある質問・・・（株）ワイズの商品 FAQ ページを表示します。	○	○	
	バージョン情報・・・本システムの情報が表示されます。	○	○	

第 2 章　TS 出来形データの読み込み・出力

この章では、施工管理データの読み込みから出来形管理書類の出力する手順を解説します。

1. 施工管理データを読み込む

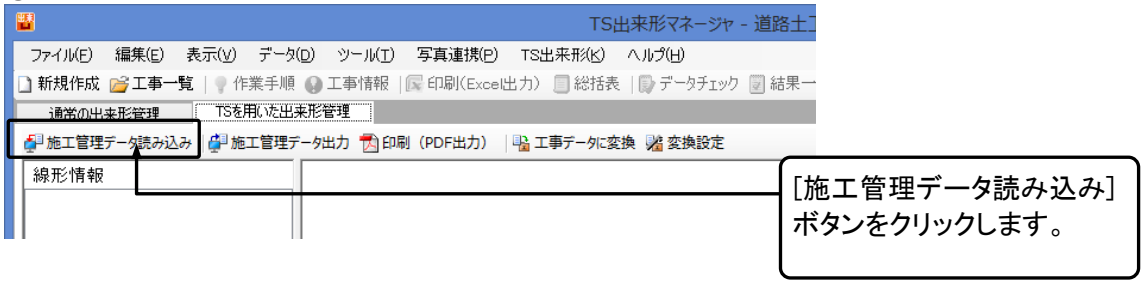
■情報化施工マネージャと連携の場合は、作成した施工管理データは起動時に自動で読み込まれます。
施工管理データの読み込み操作は必要ありません。

施工管理データの読み込み

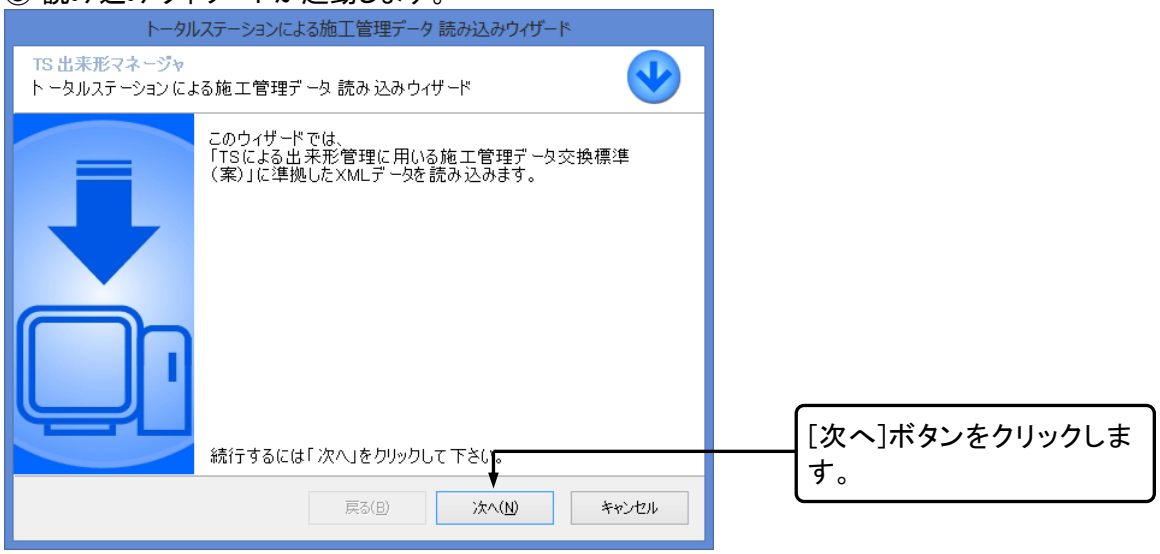
他社ソフトで作成した施工管理データ（XML ファイル）を読み込みます。

① TS 出来形マネージャを起動します。

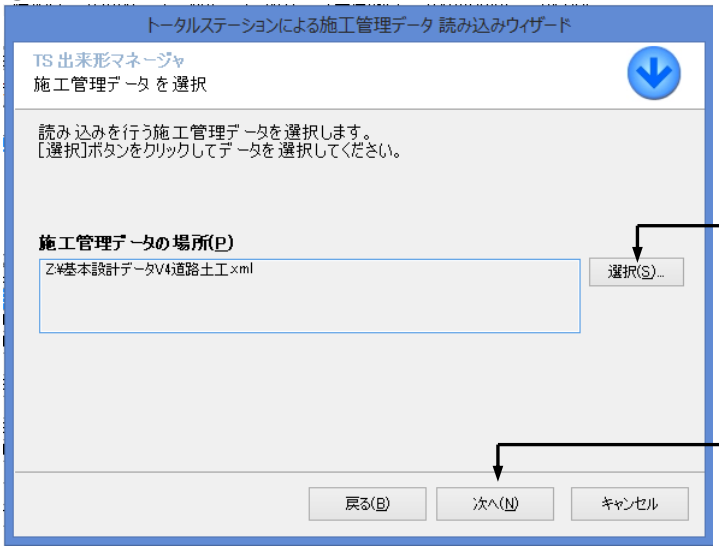
② 施工管理データを読み込みます。



③ 読み込みウィザードが起動します。



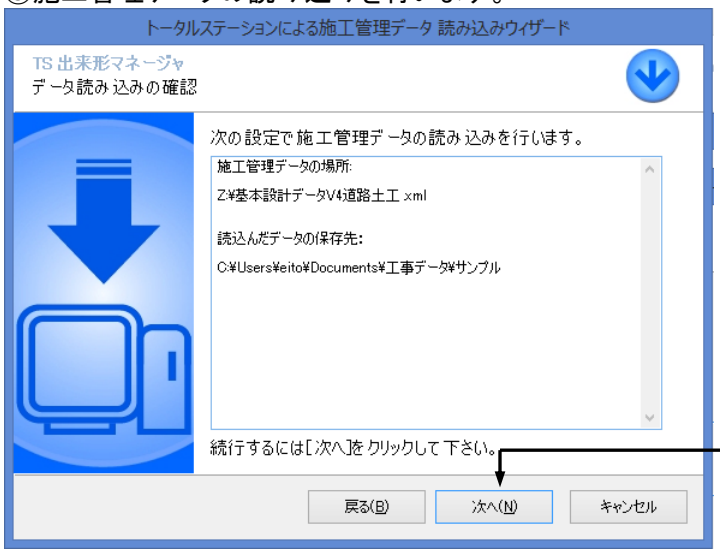
④ 読み込みを行う施工管理データを選択します。



1. [選択]ボタンをクリックし、読み込むファイルを選択します。

2. [次へ]ボタンをクリックします。

⑤施工管理データの読み込みを行います。



[次へ]ボタンをクリックします。

⑥施工管理データの読み込み終了です。ウィザードを閉じると読み込んだデータが表示されます。

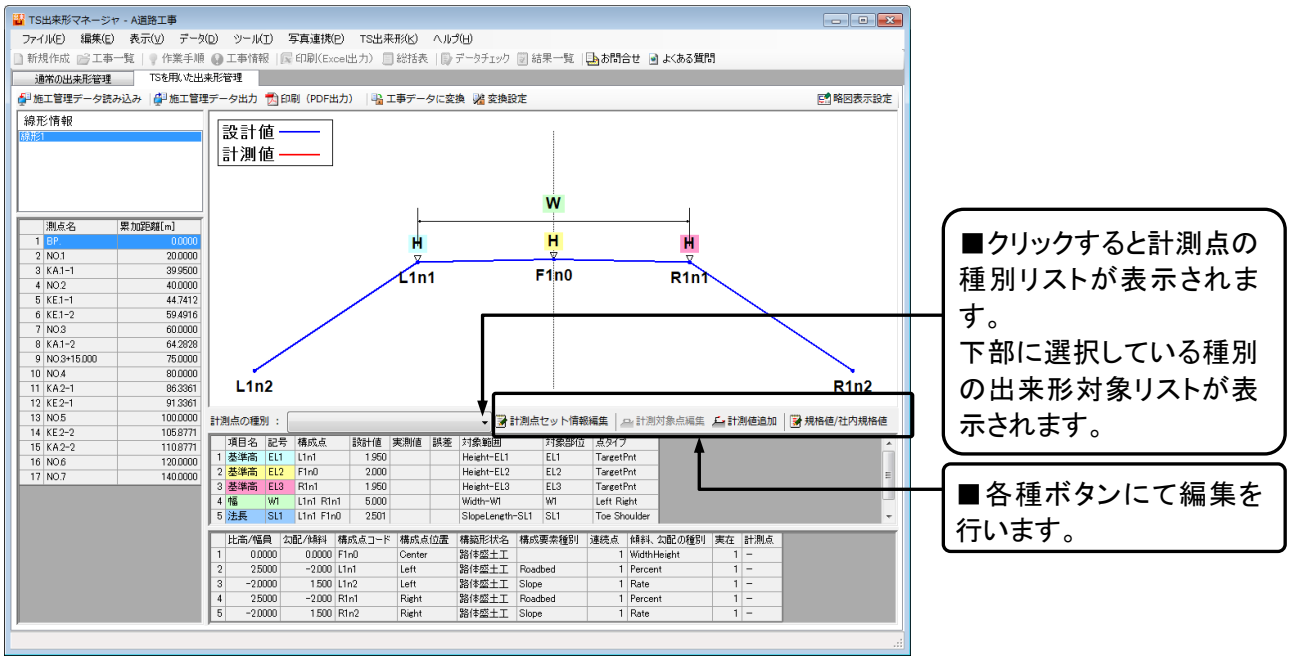
■[工事データ]フォルダの工事名フォルダ内に保存されます。

1. [完了]ボタンをクリックします。

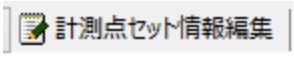
読み込んだデータを補正する

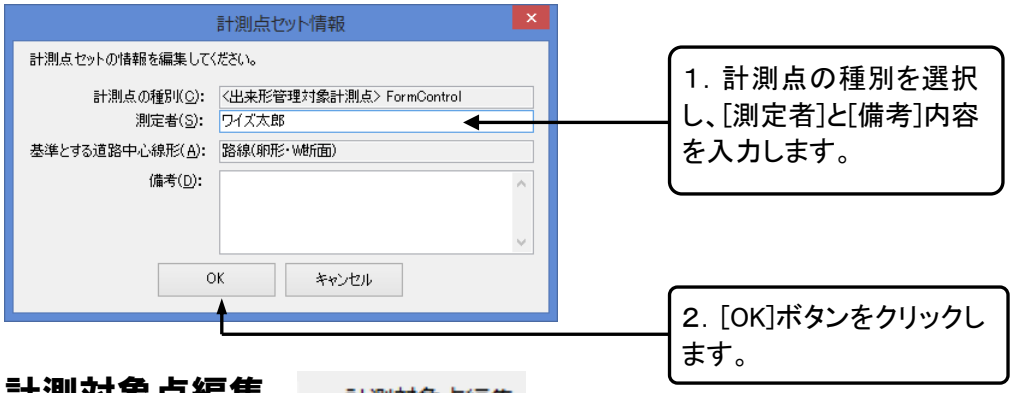
TS 出来形マネージャに読み込んだ施工管理データ(TS 出来形データ)は、不足情報の追加や補正が行えます。

○[TS を用いた出来形管理]画面(→P9「画面の見方」参照))

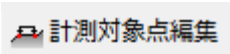


計測点セット情報編集

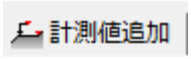


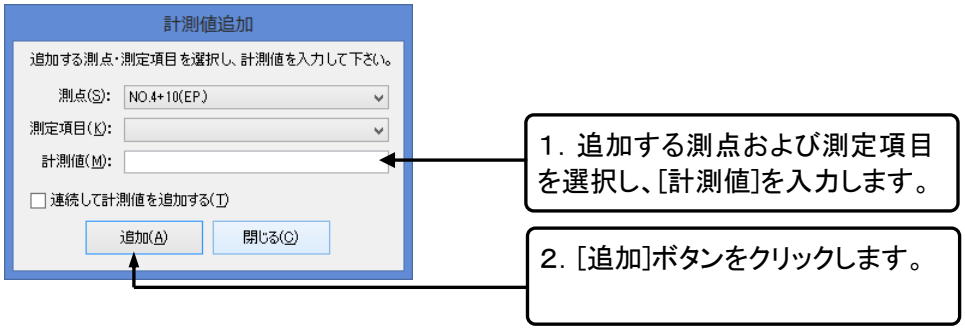


計測対象点編集



計測値追加





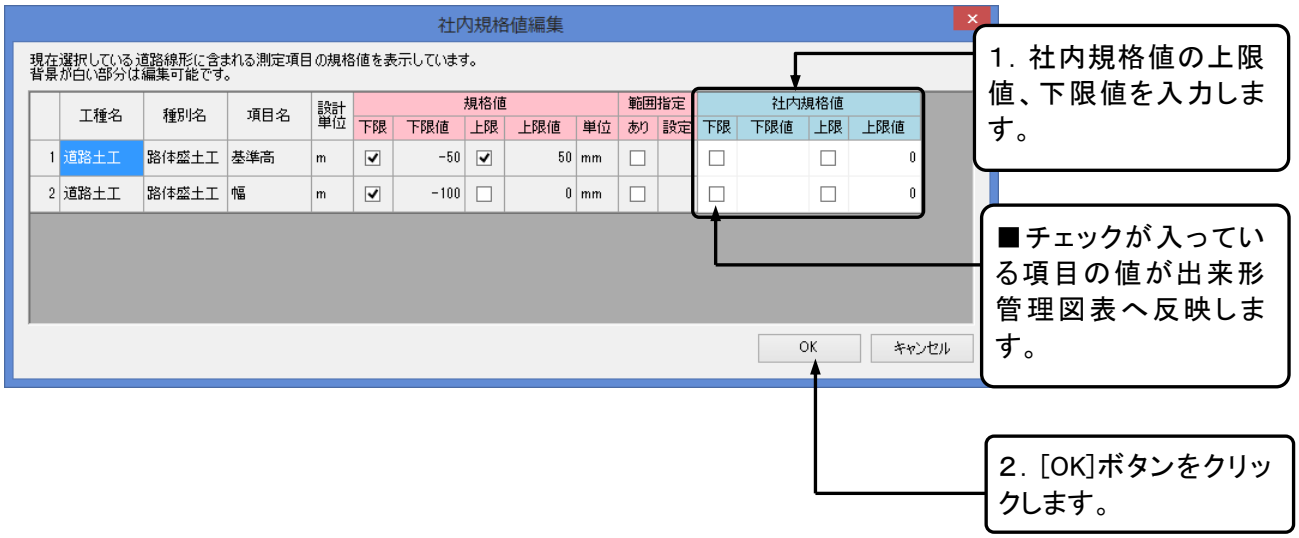
入力した計測値は実測値に赤色で代入されます。

	項目名	記号	構成点	設計値	実測値	誤差	対象範囲	対象部位	点タイプ
1	基準高	F1n0	F1n0	2.750		0.050	Height-F1n0	F1n0	TargetPnt
2	基準高	L1n1	L1n1	2.650		-0.250	Height-L1n1	L1n1	TargetPnt
3	基準高	R1n1	R1n1	2.650		0.150	Height-R1n1	R1n1	TargetPnt
4	幅	L1n1～R1n1	L1n1 R1n1	10.000		0.000	Width-L1n1～R1n1	L1n1～R1n1	Left Right

	項目名	記号	構成点	設計値	実測値	誤差	対象範囲	対象部位	点タイプ
1	基準高	F1n0	F1n0	2.750	2.800	0.050	Height-F1n0	F1n0	TargetPnt
2	基準高	L1n1	L1n1	2.650	2.400	-0.250	Height-L1n1	L1n1	TargetPnt
3	基準高	R1n1	R1n1	2.650	2.800	0.150	Height-R1n1	R1n1	TargetPnt
4	幅	L1n1～R1n1	L1n1 R1n1	10.000	10.000	0.000	Width-L1n1～R1n1	L1n1～R1n1	Left Right

規格値/社内規格値

測点項目の規格値の確認と社内規格値の編集が行えます。



■上記情報以外の修正は行うことができません。その他の情報を修正するためには工事データ変換が必要となります。(→P25「第3章　TS出来形データの編集」参照)

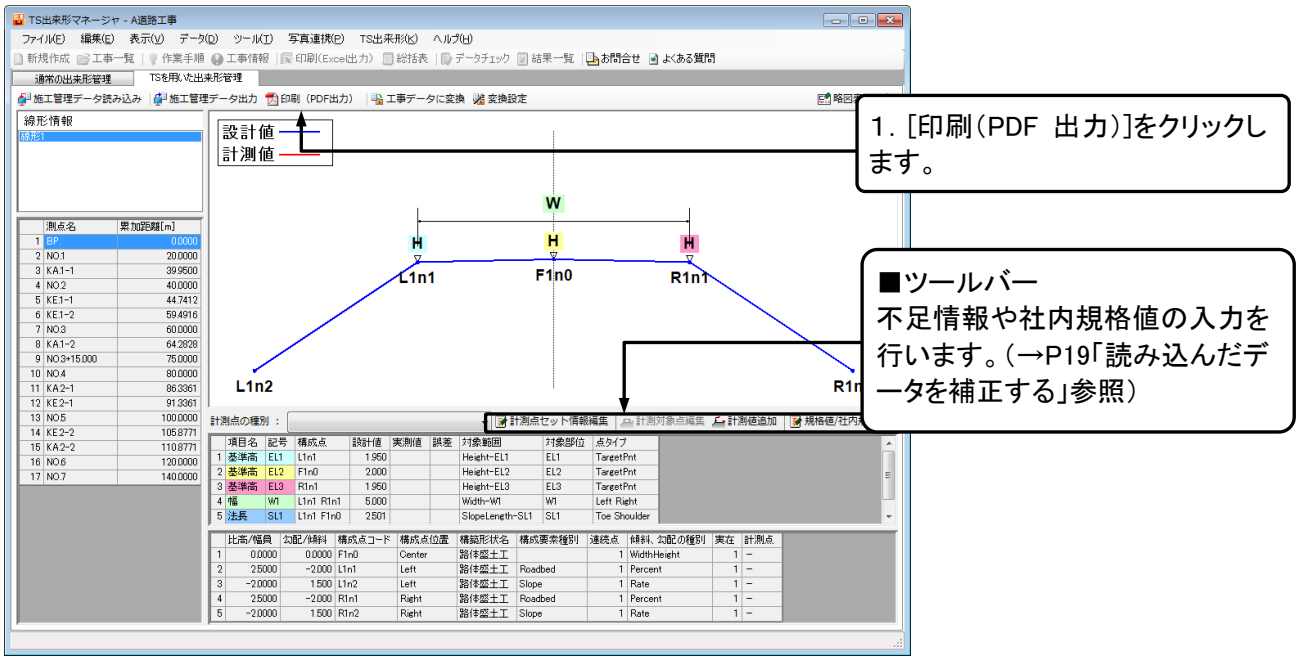
2. 出来形帳票を印刷する

情報化施工マネージャにて作成した設計データおよび TS から読み込んだ実測データを基に出来形管理図表の出力を行います。

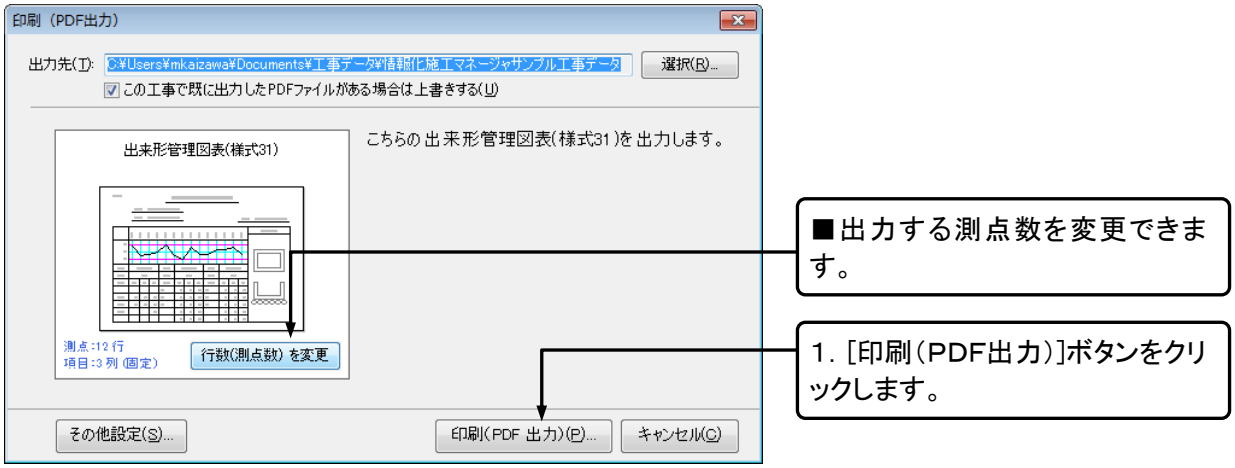
出来形管理図表(PDF)を印刷する

① 情報化施工マネージャにてメニュー[ファイル]-[出来形管理帳票印刷]を選択します。

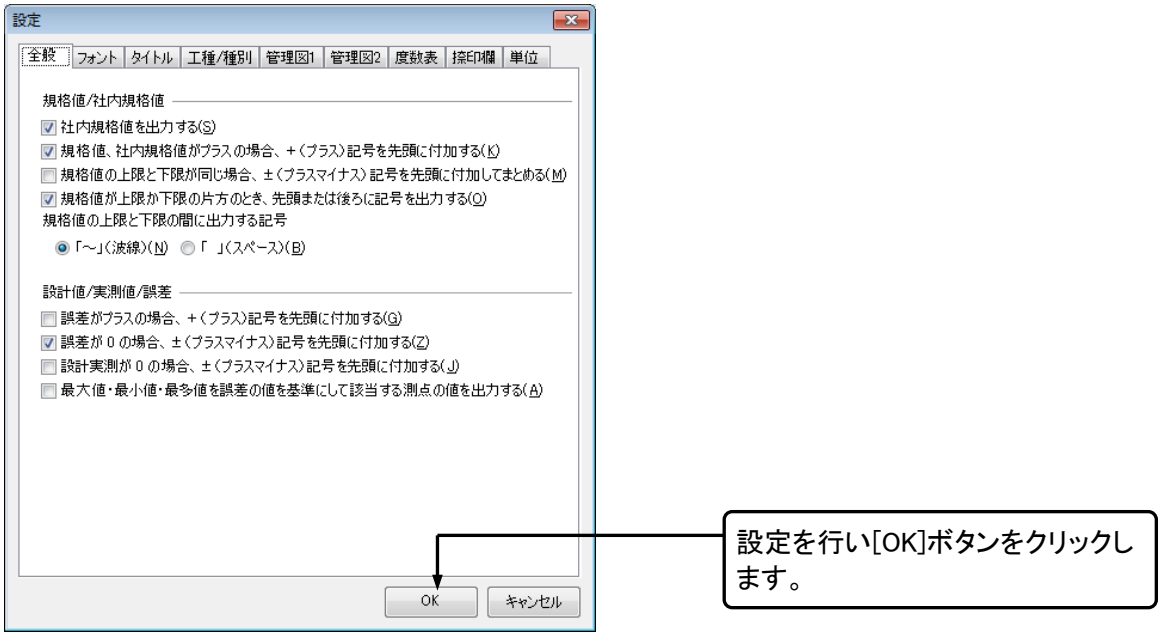
② TS 出来形マネージャが起動し、[TSを用いた出来形管理]]画面が表示されます。



③ [印刷(PDF 出力)]ダイアログが表示されます。

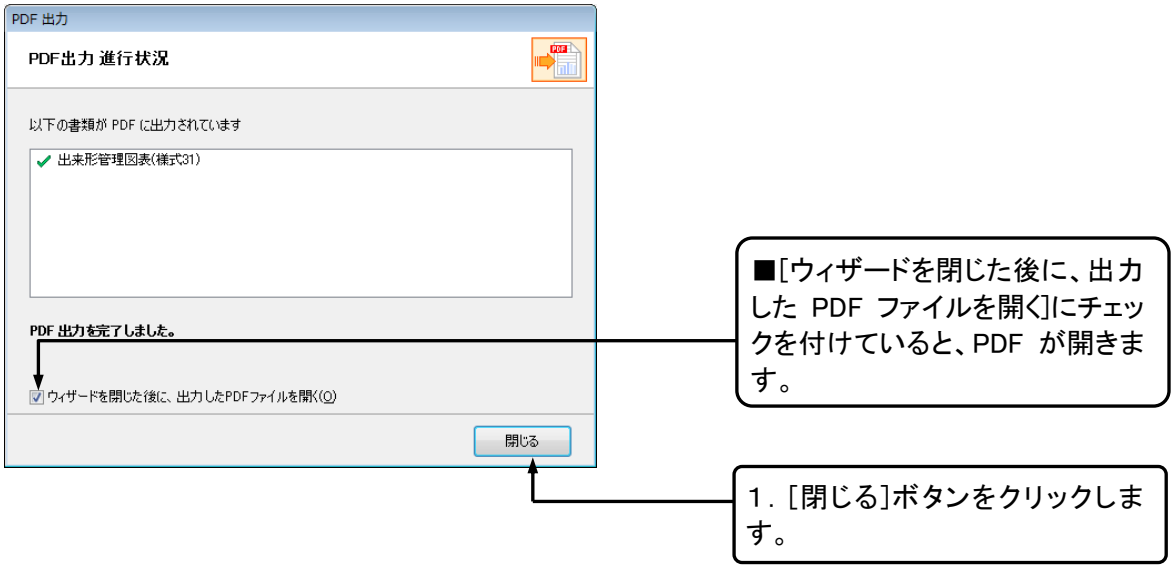


④[設定]ダイアログが表示されます。



■TSを用いた出来形管理では、[タイトル]および[工種/種別]の修正はできません。(→P70「設定(印刷))参照)

⑤PDF 出力の進行状況が表示されます。



⑥出力した PDF ファイルを印刷します。

■出力した PDF ファイルは、[工事データ]フォルダの工事フォルダ内に保存されます。
■他社システムで作成した XML ファイルを元にして出来形管理帳票の印刷など行うこともできます。

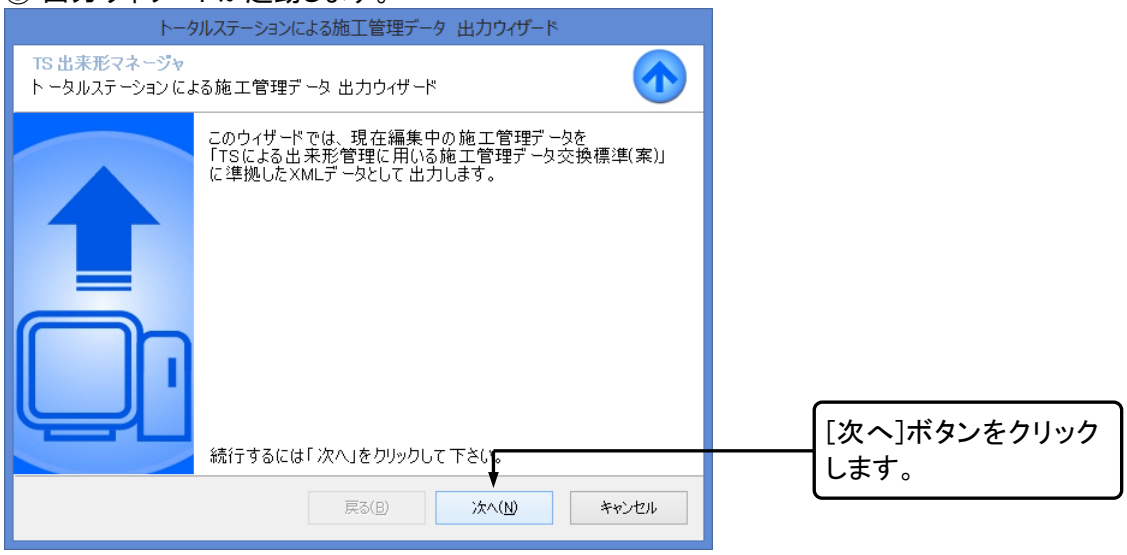
3. 施工管理データを出力する

「TS による出来形管理に用いる施工管理データ交換標準（案）」に準拠した XML データに出力します。

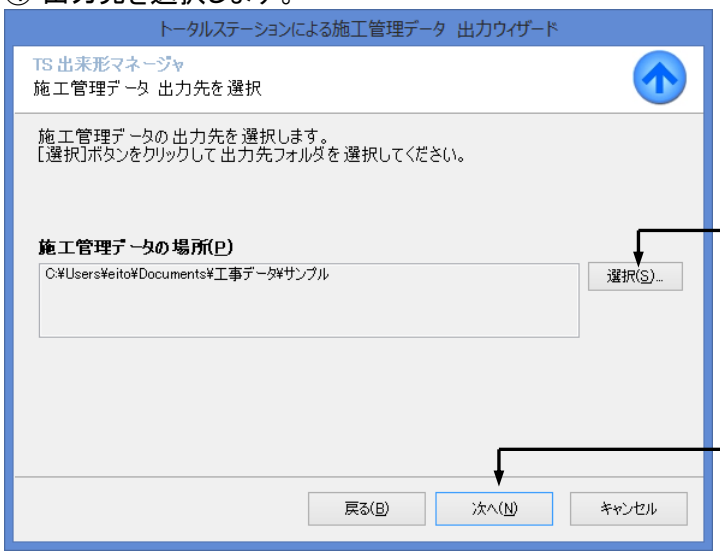
① [TS による出来形管理]画面を表示します。

② 施工管理データを出力します。

③ 出力ウィザードが起動します。



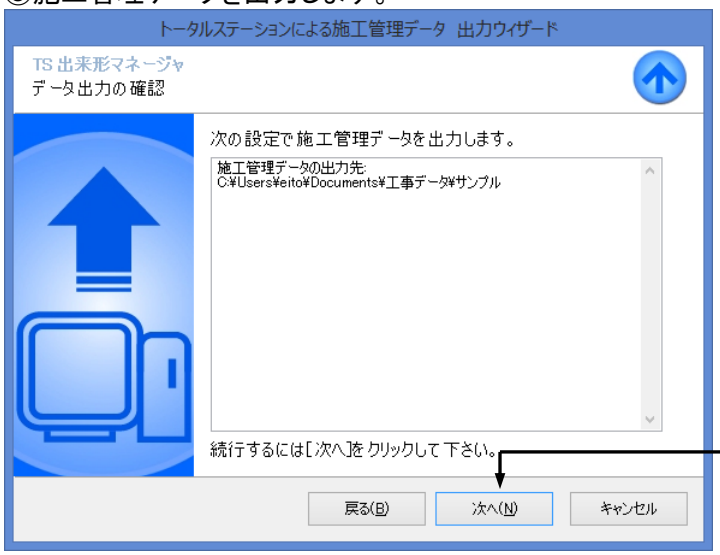
④ 出力先を選択します。



■出力先を変更する場合は[選択]ボタンをクリックします。

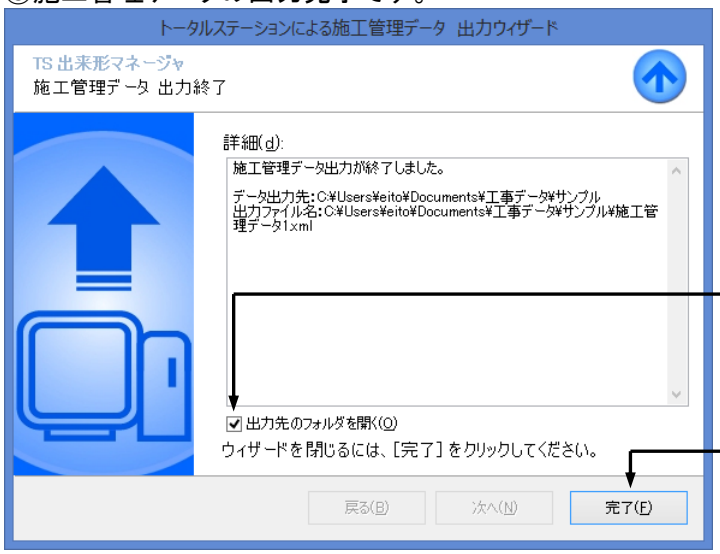
1. [次へ]ボタンをクリックします。

⑤施工管理データを出力します。



[次へ]ボタンをクリックします。

⑥施工管理データの出力完了です。



■[出力先のフォルダを開く]にチェックを入れて完了すると出力(保存)先フォルダを表示します。

1. [次へ]ボタンをクリックします。

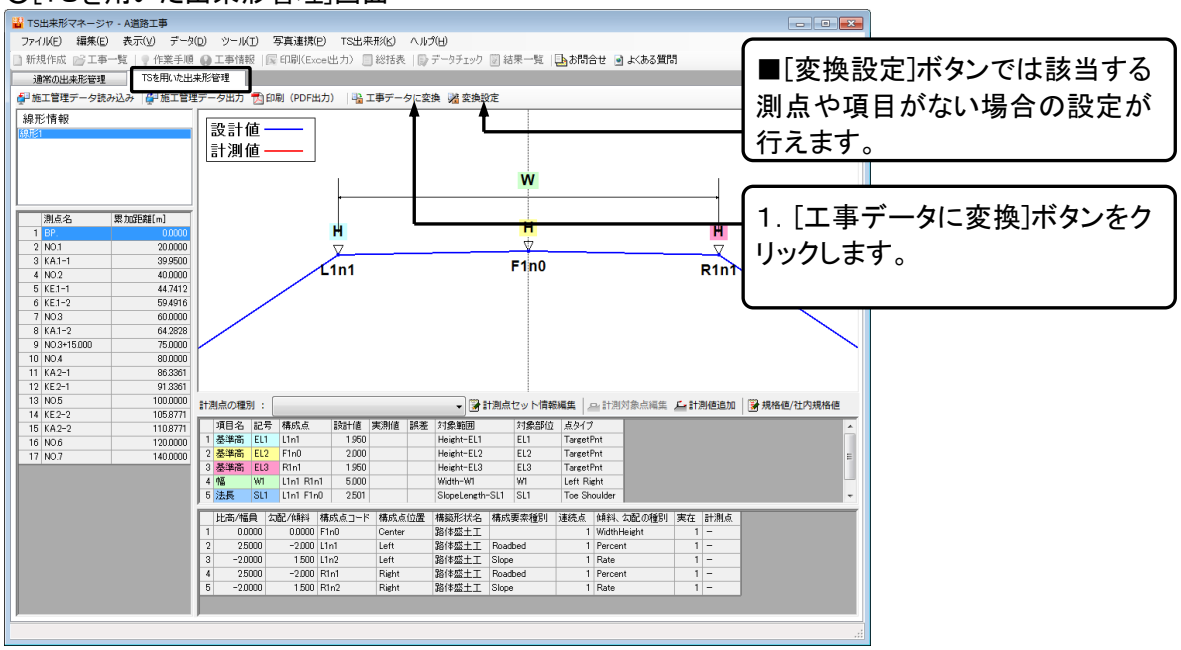
第 3 章　TS 出来形データの編集

情報化施工マネージャなどから読み込んだTS 出来形データは一部を除き、編集することはできません。
この章では、修正可能な工事データに変換し、出来形書類印刷や編集方法を解説します。

1. 工事データに変換する

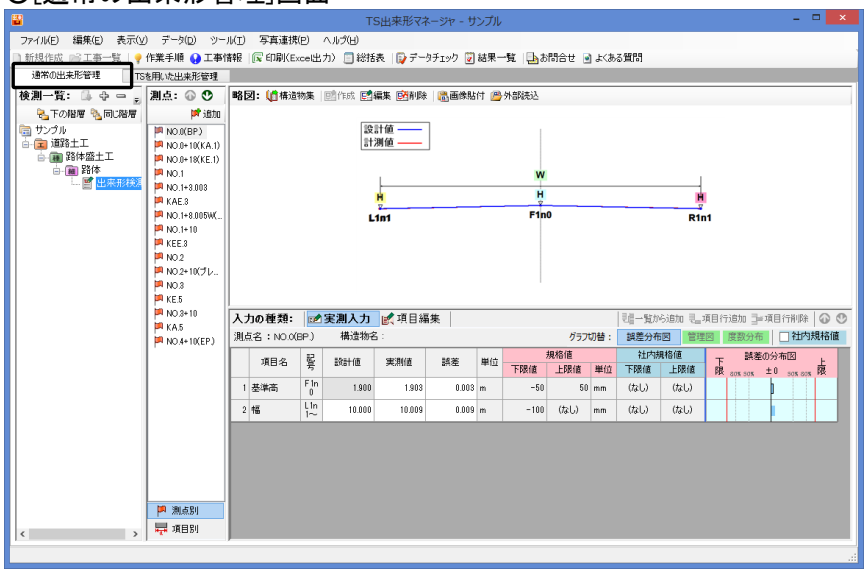
①工事データに変換します。

○[TSを用いた出来形管理]画面



② [通常の出来形管理]画面に切り替わります。測点などの変更や出来形帳票出力が可能となります。

○[通常の出来形管理]画面



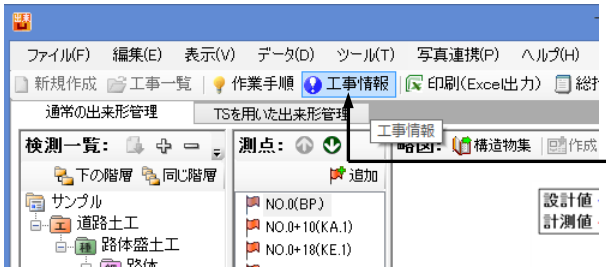
2. 工事データを編集する

工事データに変換したデータの主な編集方法を解説します。詳しい編集方法については、P36「第 4 章出来形管理書類作成」を参照してください。

■工事データに変換後に修正した情報は[TS を用いた出来形管理]画面に反映されません。

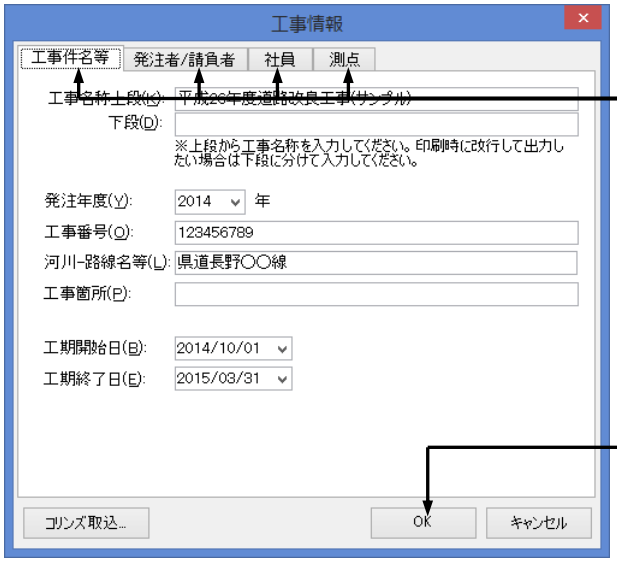
工事情報を編集する

①[工事情報]ダイアログを表示させます。



[工事情報]ボタン、またはメニューの[表示]－[工事情報]を選択します。

②工事情報を入力します。(→P40「4. 工事情報を入力する」参照)

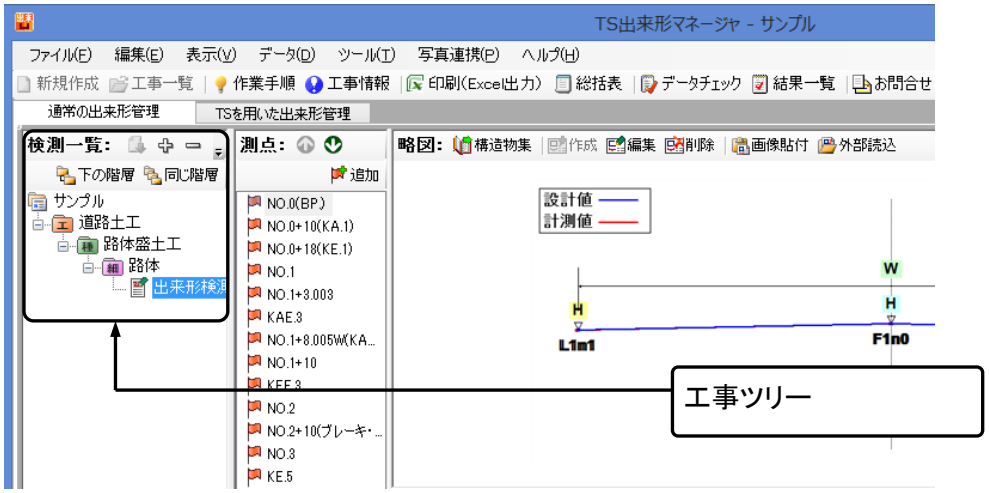


1.タブを切り替えて編集します。

2.[閉じる]ボタンをクリックします。

工事ツリー(工種・種別・細別・検測種別)を編集する

工種・種別・細別・検測種別は、ツリー構造のフォルダで管理します。各フォルダをクリックすると、そのフォルダに関する情報が画面の右側に表示されます。
フォルダの追加や削除など編集方法は、P44「5. 工事ツリーを作成する」を参照してください。

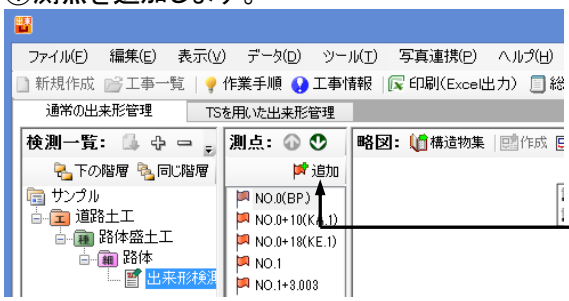


測点リストを修正する

工事ツリーの右側に表示されているのが測点リストです。
測点名の一括変更などの詳細は P54「6. 測点リストを作成する」参照してください。

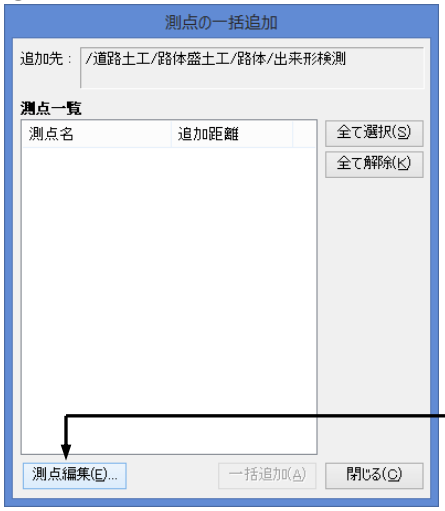
測点を追加する

①測点を追加します。



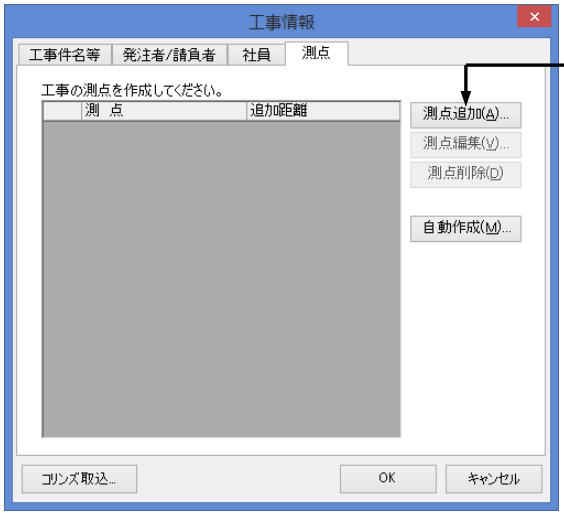
[追加]ボタンをクリックします。

②[測点の一括追加]ダイアログが表示されます。

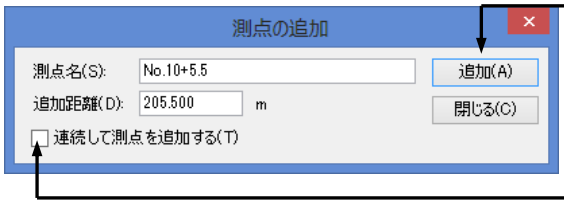


[測点編集]ボタンをクリックします。

③[工事情報]ダイアログが表示されます。



[測点追加]ボタンをクリックします。



1. [追加]ボタンをクリックします。

■測点の追加を連続して行う場合は、[連続して測点を追加する]にチェックを入れます。

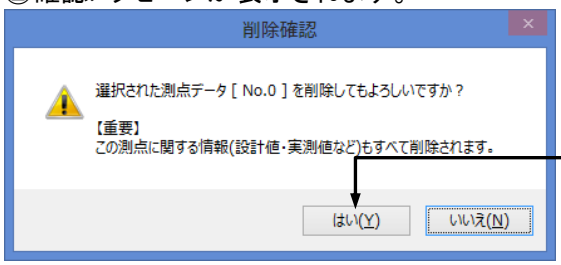
測点を削除する

①削除する測点を選択します。

右クリックメニューから[測点を削除]をクリックします。

■メニューの[編集]-[削除]からも測点を削除することができます。

②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

追加した測点の順番を変更する

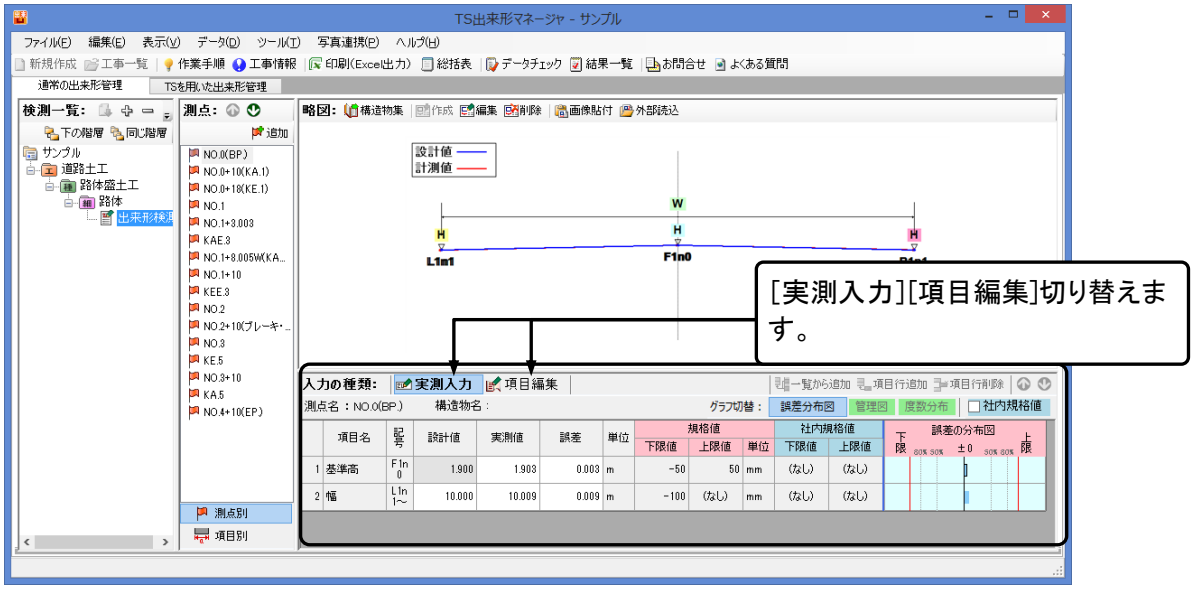
順番を変更する測点を選択します。

■測点を選択し、ボタンでも移動可能です。

1．右クリックメニューの中から[上に測点移動]、[下に測点移動]をクリックし、測点を移動させます。

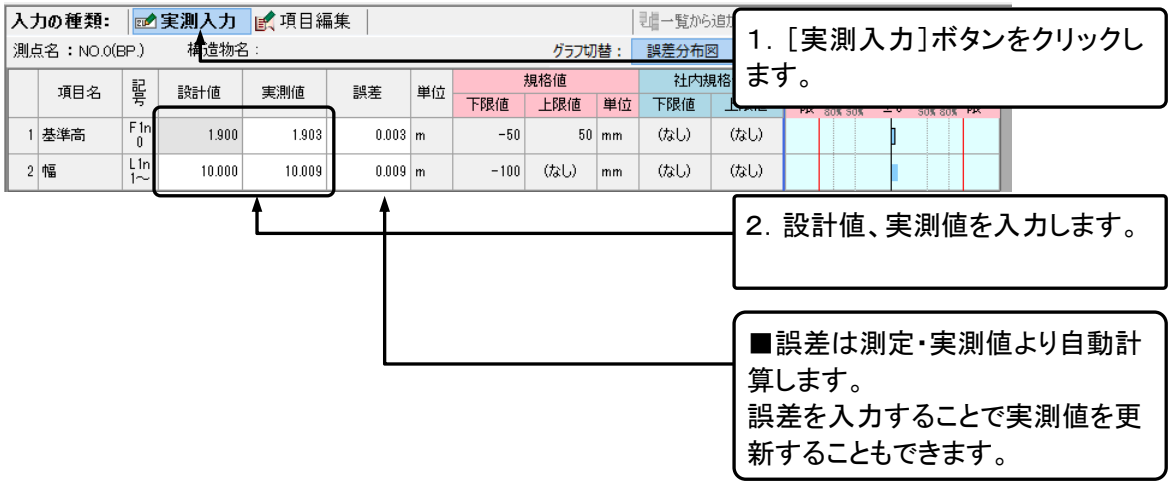
測定データを入力/修正する

測定データ入力部分は通常の出来形管理画面右下に表示されます。入力の種類「実測入力」「項目編集」を切り替えて実測値や社内規格値など入力/修正します。



設計値・実測値の修正

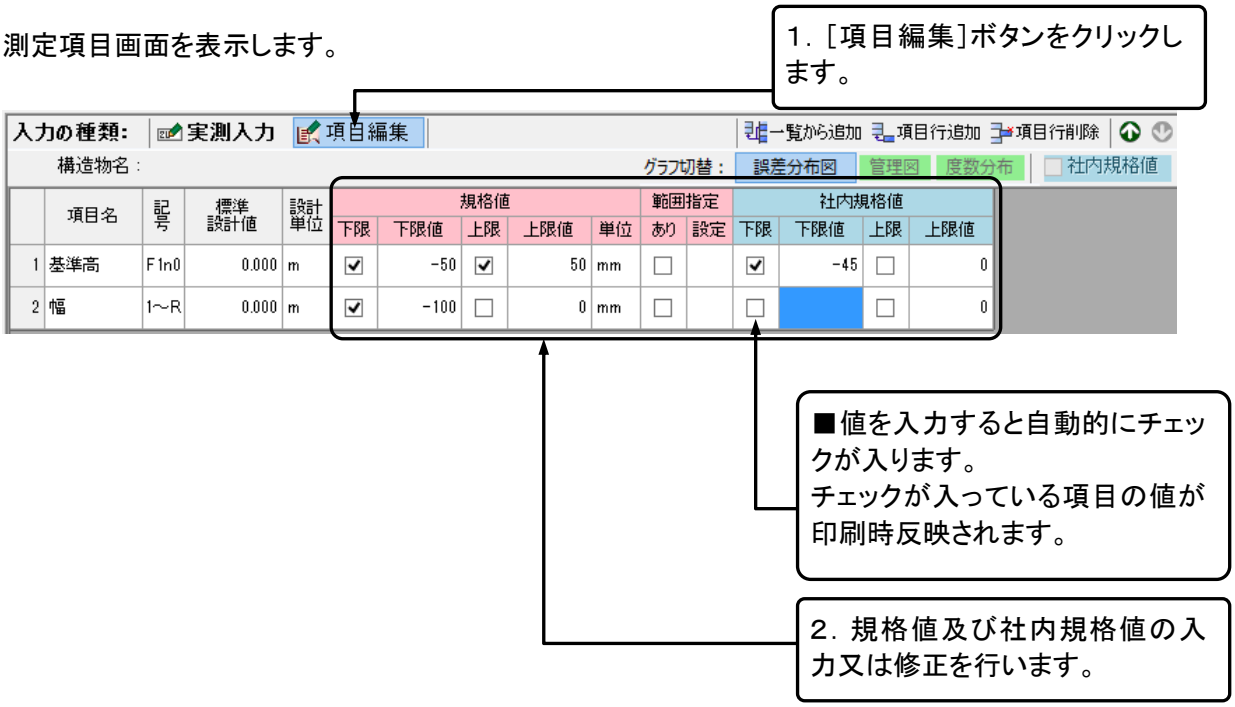
① 測点を選択します。



■誤差の計算方法についてはメニューの[ツール]－[オプション]の[入力]タブの計算方法で変更できます。(→P76「入力に関する設定」参照)

規格値・社内規格値の修正

測定項目画面を表示します。



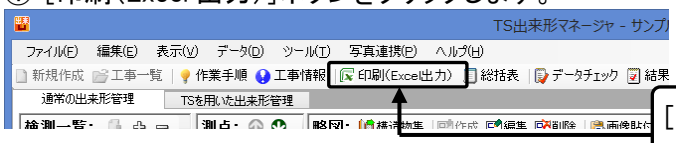
■規格値の条件設定・社内規格値の一括変更も行えます。（→P66「社内規格値の一括変更」参照）

3. 出来形管理書類の印刷を行う

出来形管理図表などの印刷(Excel 出力)を行う

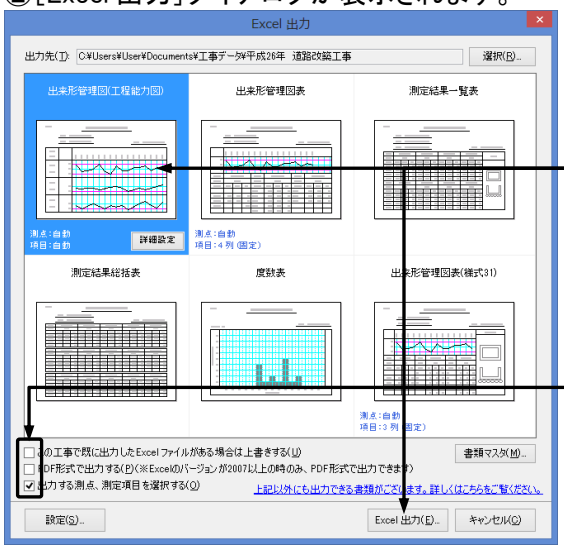
出来形管理図(工程能力図)、出来形管理図表、測定結果一覧表、測定結果総括表、度数表、出来形管理図表(様式 31)をExcelへ出力し、印刷することができます。修正を加えることも可能です。

① [印刷(Excel 出力)]ボタンをクリックします。



[印刷(PDF　出力)]をクリックします。

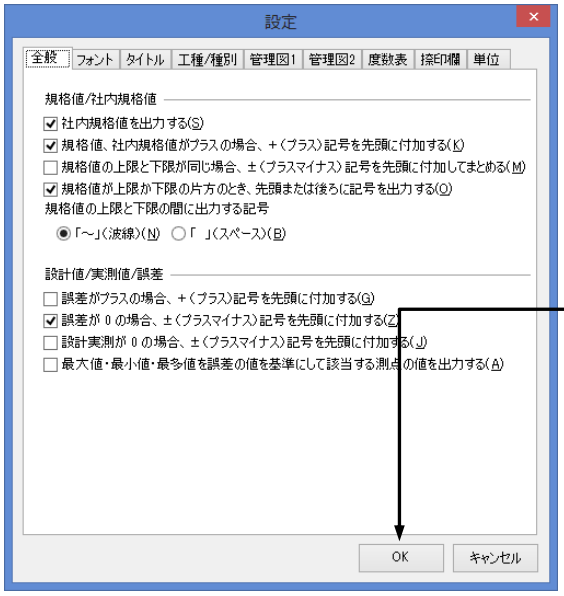
②[Excel 出力]ダイアログが表示されます。



1. 出力する書類を選択して、[Excel　出力]ボタンをクリックします。複数を選択することも可能です。

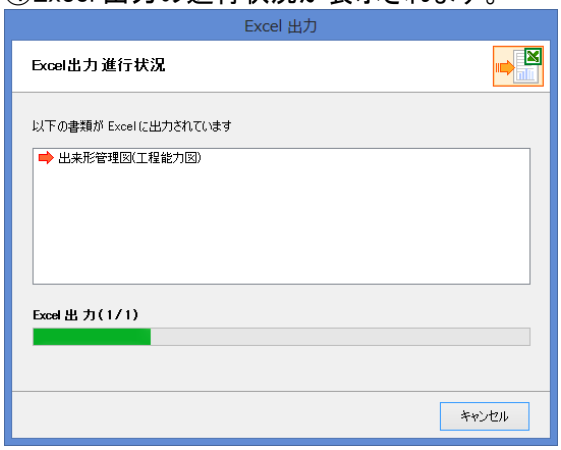
■出力に関する設定を行います。(→P75「出力設定」参照)

③[設定]ダイアログが表示されます。(→P70「設定(印刷)」参照)

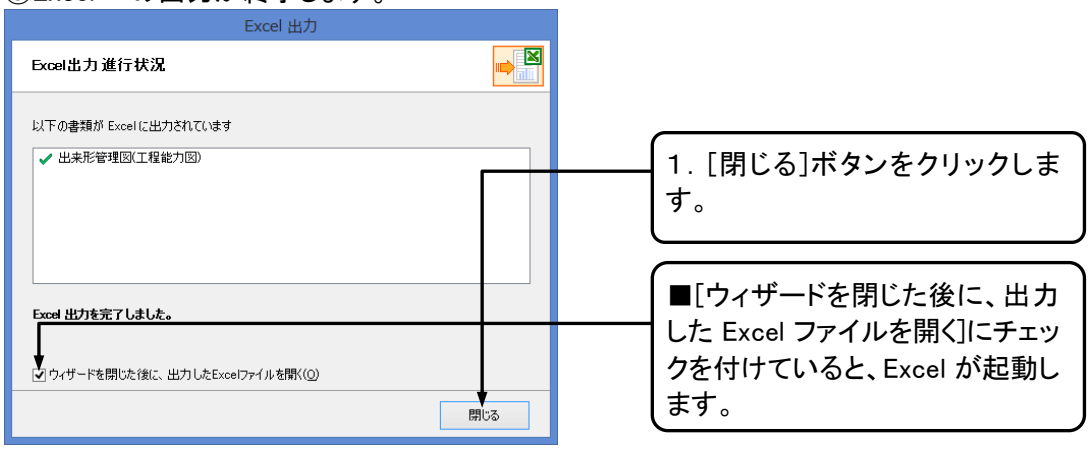


1. 設定を確認し、[OK]ボタンをクリックします。

④Excel 出力の進行状況が表示されます。

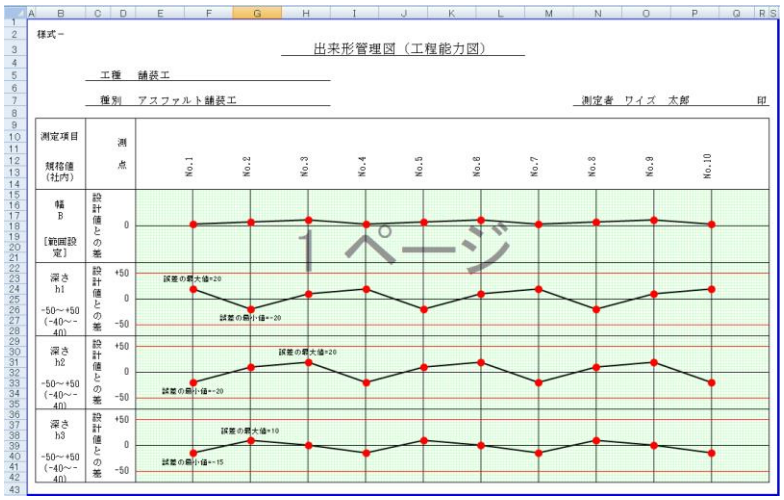


⑤Excel への出力が終了します。



⑥出力された Excel にて印刷を行います。
印刷前に Excel 上でデータを修正することができます。

○出力した Excelファイル



■出力した Excelファイルは[工事データ]フォルダ内の工事名のフォルダに保存されます。[工事データ]フォルダの規定の保存先はドキュメントになります。

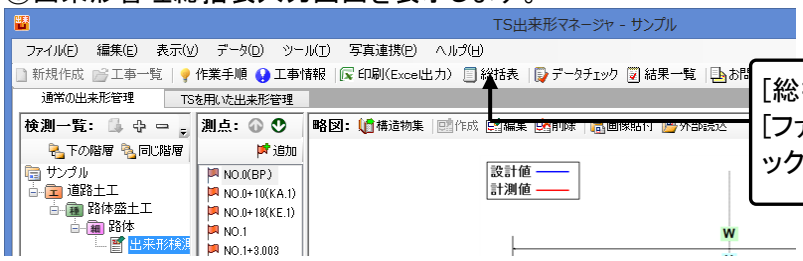
出来形管理総括表の印刷(Excel 出力)を行う

読み込んだ TS 出来形データを使用し、出来形管理総括表を作成します。

出来形管理総括表の作成

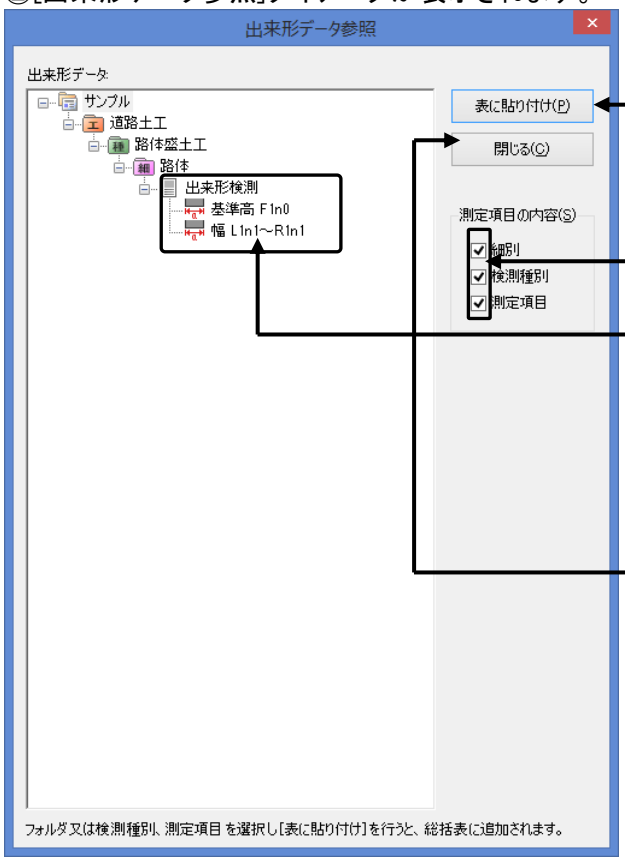
出来形管理総括表を印刷するためのデータを入力します。

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



[総括表] ボタン又は、メニューの[ファイル]ー[総括表の出力]をクリックします。

②[出来形データ参照]ダイアログが表示されます。



1. 測定項目に貼り付ける内容にチェックをつけます。

2. 表に貼り付ける項目を選択し、[表に貼り付け]ボタンをクリックします。

■項目名をダブルクリックすることでも表に貼り付けることができます。

3. [閉じる]ボタンをクリックします。

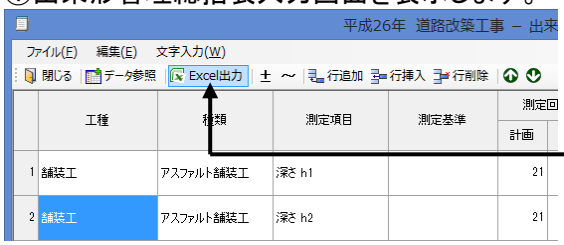
③出来形管理総括表にデータが参照されます。

	工種	種類	測定項目	測定基準	測定回数 計画	測定回数 実施	規格値	測定値 最大値	測定値 最小値	測定値 平均値	摘要
1	道路土工	路体盛土工	路体 出来形検測 基準高 F1n0		16	16	±50 (-45～)	0.004	0.003	0.004	
2	道路土工	路体盛土工	路体 出来形検測 幅 L1n1～R1n1		16	16	-100～	0.032	0.009	0.021	

■出来形管理総括表の詳しい編集方法 P79「11. 出来形管理総括表」を参照してください。

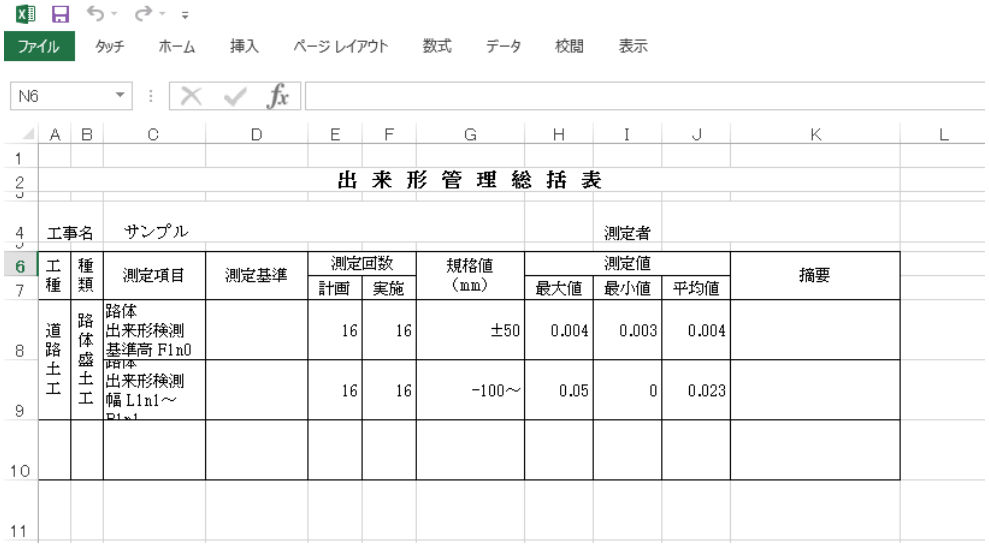
出来形管理総括表の印刷（EXCEL出力）

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



[Excel　出力]ボタン又は、メニューの[ファイル]－[Excelに出力]をクリックします。

②Excel が起動し、出力データが表示されます。



工種	種類	測定項目	測定基準	測定回数 計画	測定回数 実施	規格値（mm）	測定値 最大値	測定値 最小値	測定値 平均値	摘要
道路土工	路体盛土工	路体 出来形検測 基準高 F1n0		16	16	±50	0.004	0.003	0.004	
		路体 出来形検測 幅 L1n1～R1n1		16	16	-100～	0.05	0	0.023	

③Excel にて印刷を行います。

■[工事データ]フォルダ内の工事名の付いたフォルダ内に保存されます。[工事データ]フォルダの規定の保存先はドキュメントになります。

第 4 章　出来形管理書類作成
（情報化施工マネージャと連携しない場合）

この章では、情報化施工マネージャと連携せずに出来形管理を行う手順を解説します。

1. 作業の流れ

STEP1: システムを起動する
（→P37「2. システムを起動する」参照）

↓

STEP2: 工事を作成する
（→P38「3. 工事データの新規作成・既存のデータを選択する」参照）

↓

STEP3: 工事情報を入力する
（→P40「4. 工事情報を入力する」参照）

↓

STEP4: 工事ツリーを作成する
（→P44「5. 工事ツリーを作成する」参照）

↓

STEP5: 測点リストを作成する
（→P54「6. 測点リストを作成する」参照）

↓

STEP6: データを入力する
（→P63「8. 測定データを入力する」参照）

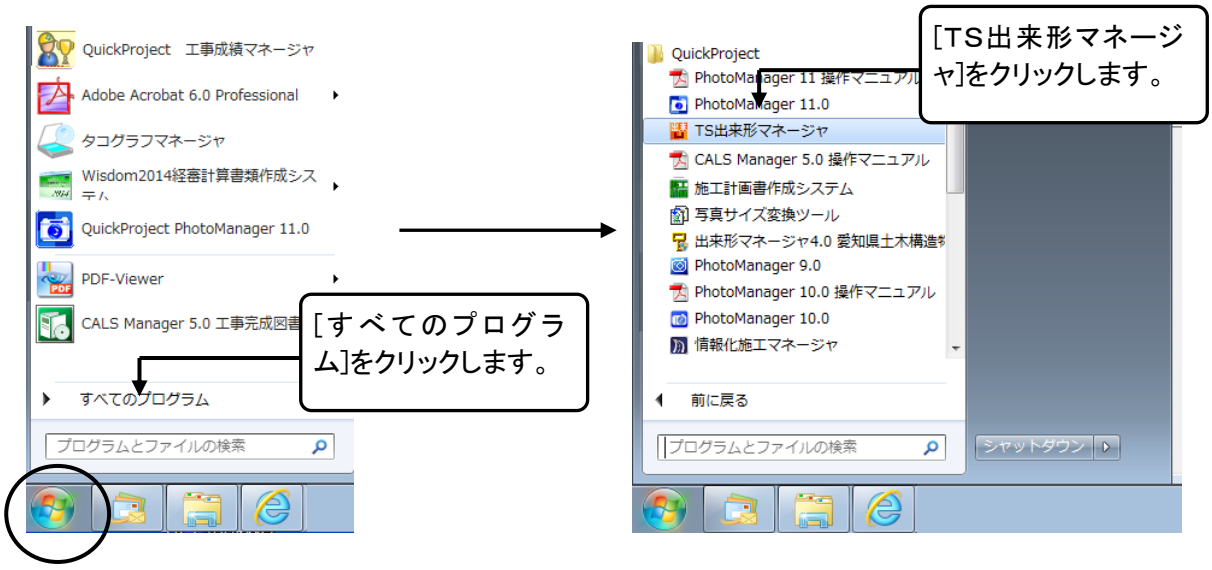
↓

STEP7: 書類を印刷する
（→P68「9. 印刷（Excel出力）を行う」参照）

2. システムを起動する

本システムは情報化施工マネージャと連携して利用するため基本的に単独で起動する必要はありません。連携せずに起動する場合には、「すべてのプログラム」または「すべてのアプリ」の一覧から起動します。

Windows7 の場合



Windows8 の場合

スタート画面の左下隅の近くにある下向き矢印をクリックします。

パソコンにインストールされているすべてのアプリが表示されます。[TS 出来形マネージャ]をクリックします。

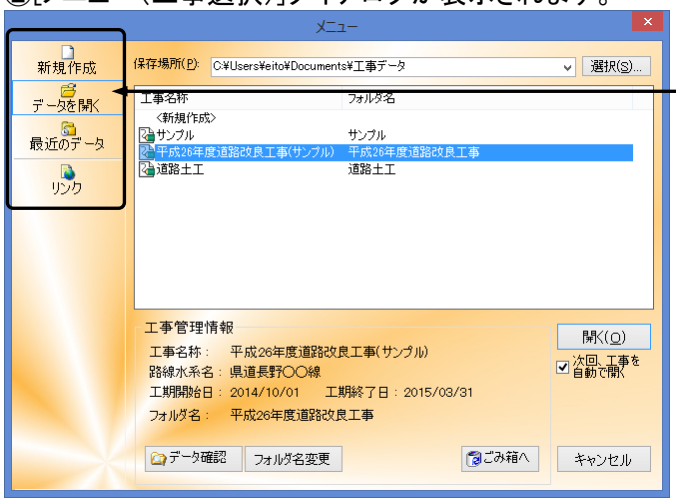
3. 工事データの新規作成・既存のデータを選択する

新規で工事を作成する、保存してある既存の工事を開くなど、工事ファイルの管理について解説します。

[メニュー(工事選択)] ダイアログの表示

① メニューの[ファイル]－[工事一覧]又は をクリックします。

②[メニュー(工事選択)]ダイアログが表示されます。



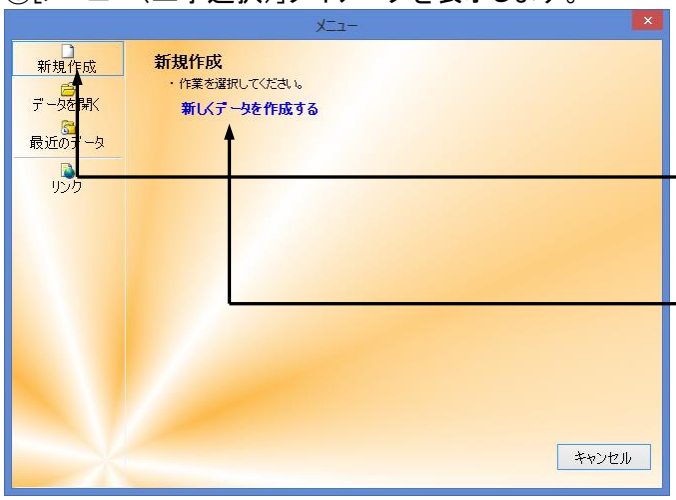
作業を選択します。

■設定によっては、システムの起動時にも表示されます。

■[最近のデータ]では、最近編集された工事のデータが編集日の新しいものから順に並んで表示されます。

新規に工事を作成する

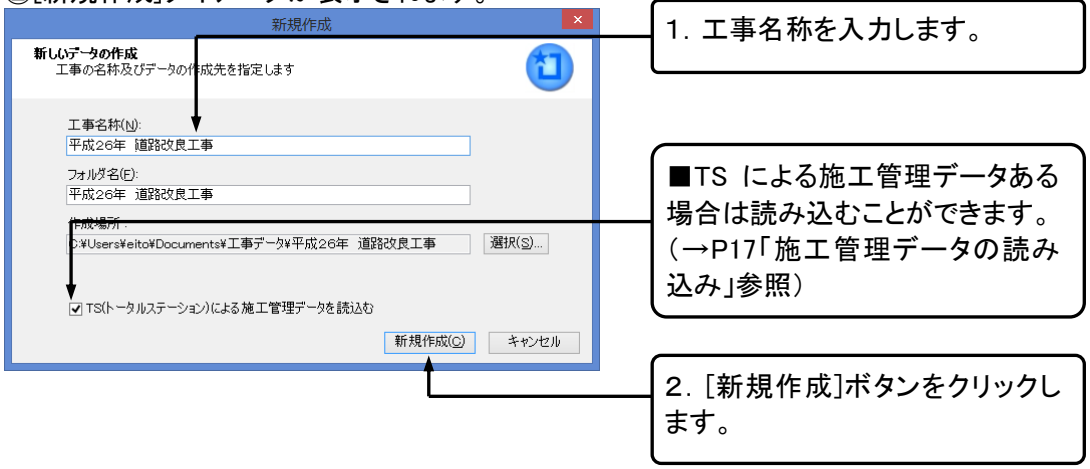
①[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示します。



1. [新規作成]をクリックします。

2. [新しくデータを作成する]をクリックします。

②[新規作成]ダイアログが表示されます。



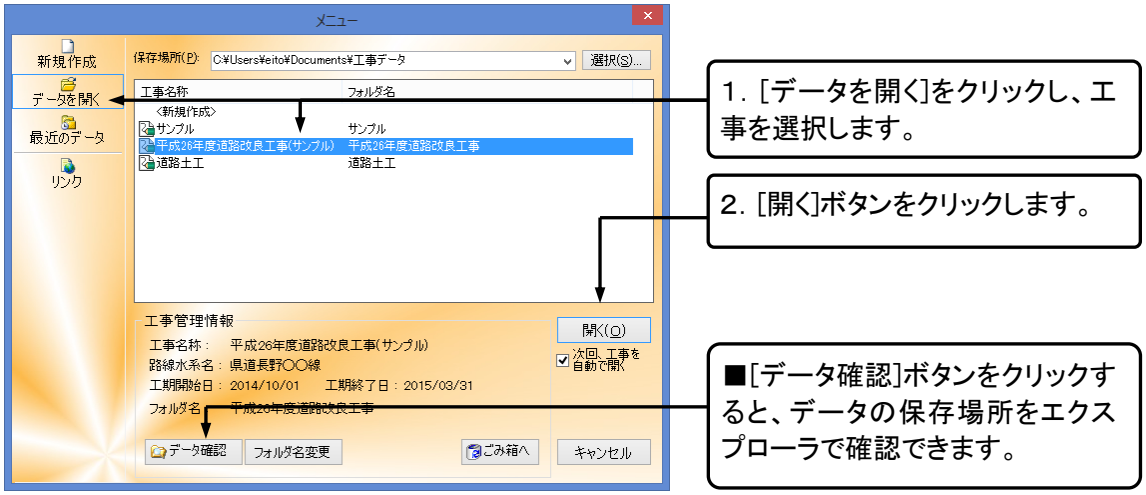
③[工事情報]ダイアログが表示されますので、入力を行います。(→P40「4. 工事情報を入力する」参照)

■メニューの[ファイル]－[新規作成]をクリック、または ボタンをクリックすることでも工事ファイルを新規作成することができます。

既存の工事を開く

①メニューの[ファイル]－[工事一覧]又は をクリックします。

②[メニュー(工事選択)]ダイアログが表示されます。



■標準ではドキュメントの「工事データ」フォルダに保存されています。
保存場所を変更するには[保存場所]右の[▼]ボタンをクリックし該当するフォルダを選択するか、[選択]ボタンをクリックし該当するフォルダを指定します。

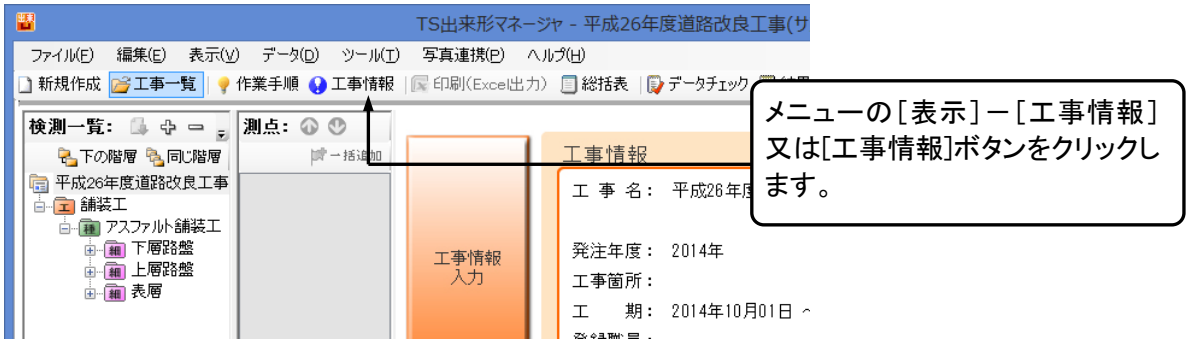
■[次回、工事を自動で開く]にチェックを入れると、次回システムを起動時に[メニュー(工事選択)]ダイアログは表示されず、最後に開いていたファイルが自動的に開かれます。

4. 工事情報を入力する

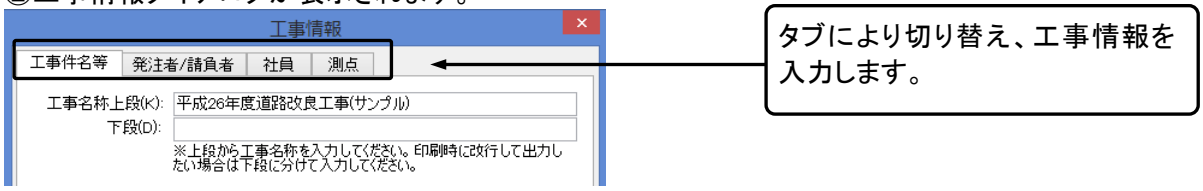
工事データの作成の基本となる基本情報、社員、測点データを入力します。工事情報はデータを新規作成した際に表示される[工事情報]ダイアログから入力します。[工事情報]ボタンからダイアログを表示できるので、後から変更することも可能です。

工事情報ダイアログの表示

①[工事情報]ダイアログを表示させます。



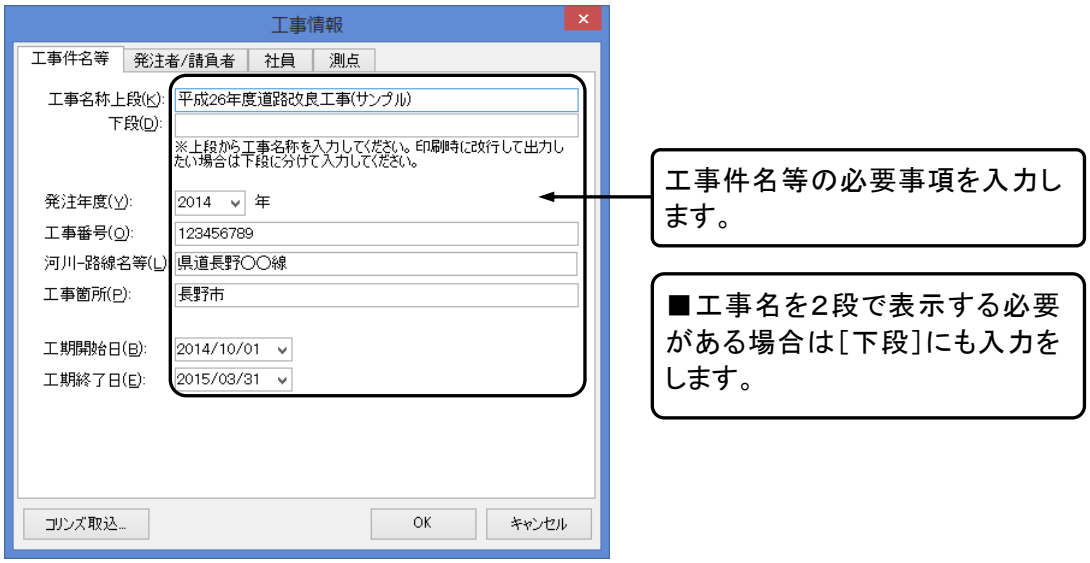
②工事情報ダイアログが表示されます。



③入力が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックします。

工事件名等

[工事件名等]タブをクリックし、入力を行います。

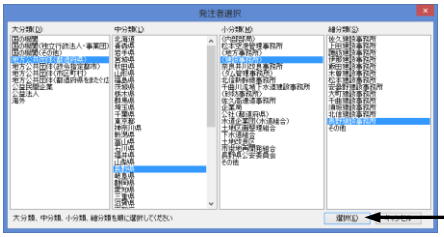


発注者/請負者

[発注者／請負者]タブをクリックし、入力を行います。

1. [選択]ボタンをクリックします。

2. CORINS の発注者データが表示されます。大分類、中分類、小分類、細分類の順にクリックして発注者を選択します。選択が終わったら、[選択]ボタンをクリックします。



3. その他必要事項を入力します。

社員

書類に出力する社員の氏名を入力します。また、役割ごとにチェックを入れておくと Excel 出力時に自動で社員名が参照されます。

[社員]タブをクリックし、社員の情報を入力します。

[社員追加]ボタンをクリックし、社員名を入力します。複数の社員を登録する場合はこの作業を繰り返し行います。

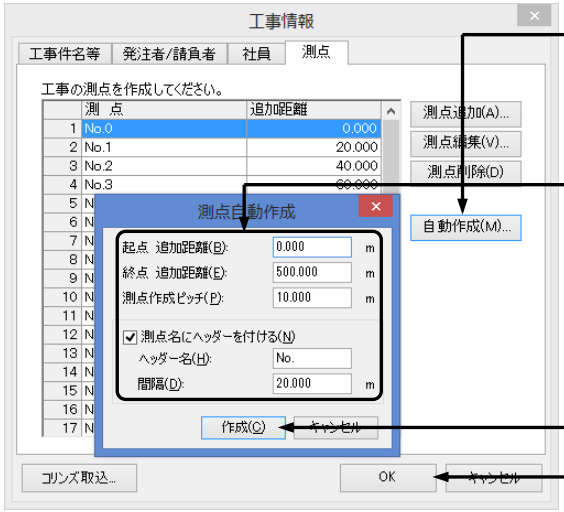
■削除するには削除したい社員名をクリックし、[社員削除]ボタンをクリックします。

測点

検測する測点を登録します。登録した測点は検測種別に一括で追加できます。
（→P54「測点リストへ測点の一括追加」参照）

測点を自動作成する

[測点]タブをクリックし、測点の情報を入力します。



1. [自動作成]ボタンをクリックします。

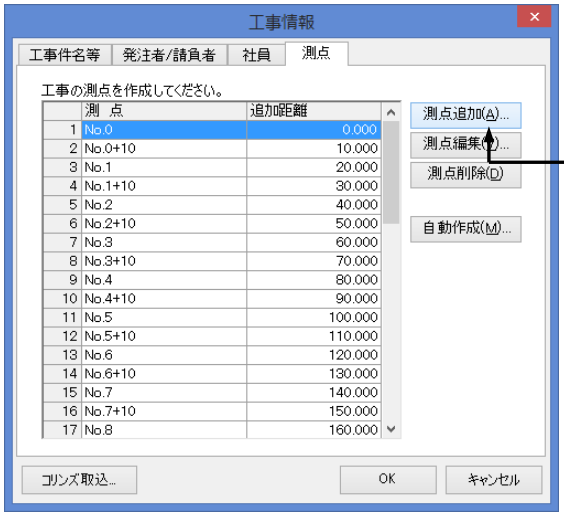
2. 必要項目を入力します。測点名に[No.]をつける場合には、[測点名にヘッダーを付ける]にチェックをつけます。

3. 入力が終了したら、[作成]ボタンをクリックします。

4. 表示された測点でよければ[OK]ボタンをクリックします。

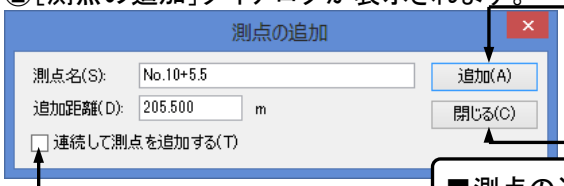
測点を追加する

①[測点追加]ボタンをクリックします。



[測点追加]ボタンをクリックします。

②[測点の追加]ダイアログが表示されます。



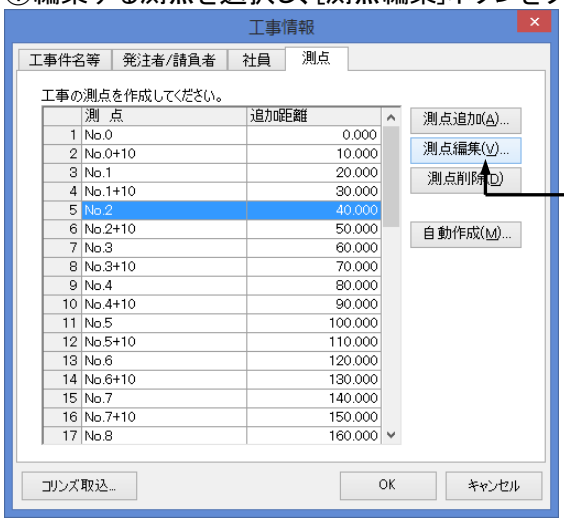
1. 測点名と追加距離を入力して[追加]ボタンをクリックします。

2. 追加が終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。

■測点の追加を連続して行う場合は、[連続して測点を追加する]にチェックを入れます。

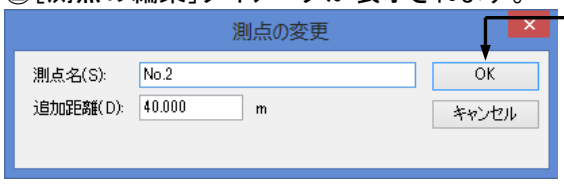
測点を編集する

①編集する測点を選択し、[測点編集]ボタンをクリックします。



[測点編集]ボタンをクリックします。

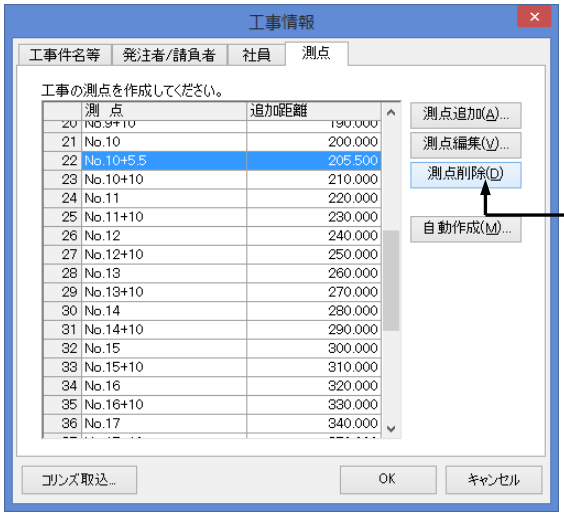
②[測点の編集]ダイアログが表示されます。



測点名と追加距離を変更して[OK]ボタンをクリックします。

測点を削除する

削除する測点を選択し、[測点削除]ボタンをクリックします。



[測点削除]ボタンをクリックします。

5. 工事ツリーを作成する

工事ツリーは工事名の他に工種、種別、細別、検測種別がツリー構造で表示されます。各フォルダをクリックすると、そのフォルダに関する情報が画面の右側に表示されます。

工事ツリーの基本

■本ソフトウェアでは書類作成に必要な次のデータをフォルダ形式で管理しています。

工事名　→　 　工事フォルダ

工種　→　 　工種フォルダ（オレンジ）

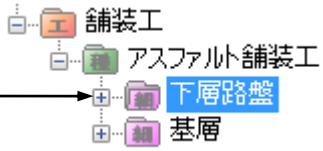
種別　→　 　種別フォルダ（緑）

細別　→　 　細別フォルダ（ピンク）

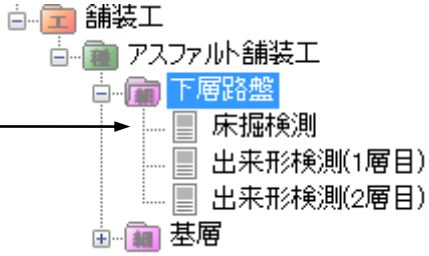
検測種別　→　 　検測種別フォルダ

■ツリー表示の－をクリックすると下の階層を非表示にします。＋をクリックすると、下の階層を表示します。

＋をクリック →



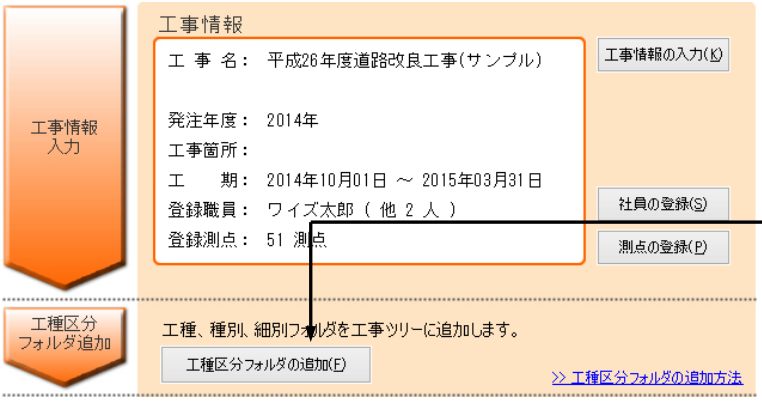
下の階層を表示 →



工種の追加

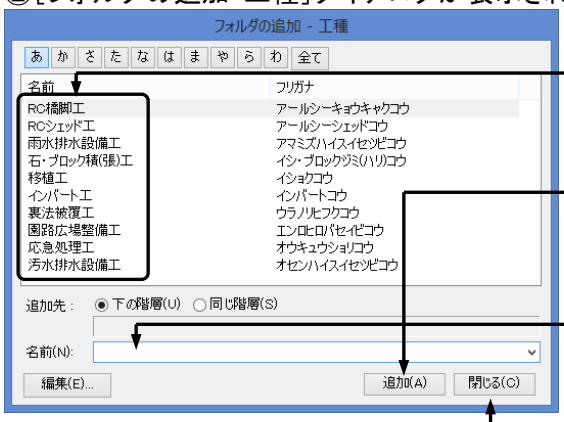
工事ツリーの工事名フォルダに工種フォルダを追加します。

①作業の流れを表示します。



[工種区分フォルダの追加]ボタンをクリックします。

②[フォルダの追加・工種]ダイアログが表示されます。



1. 追加する工種を選択します。

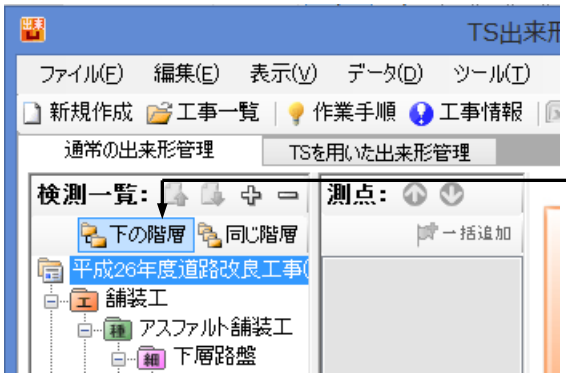
2. [追加]ボタンをクリックします。

■工種を一覧から選択せずに、名前の欄に直接工種名を入力して追加することも出来ます。

3. 追加できましたら、[閉じる]ボタンをクリックします。

■工種名をダブルクリックしても追加することができます。

■工事名フォルダを選択して[下の階層]ボタンでも[フォルダの追加・工種]ダイアログを表示できます。

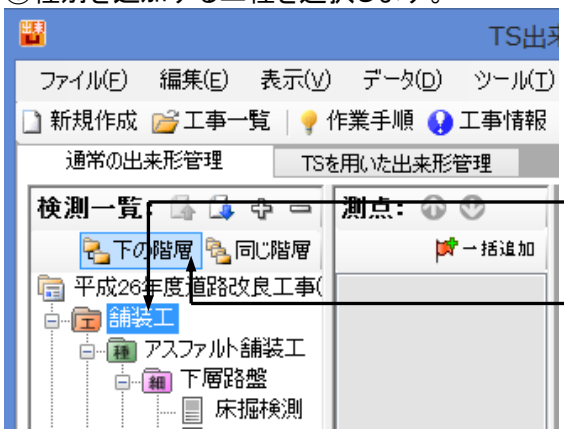


■[下の階層]ボタンをクリックします。

種別の追加

工事ツリーの工種フォルダに種別フォルダを追加します。

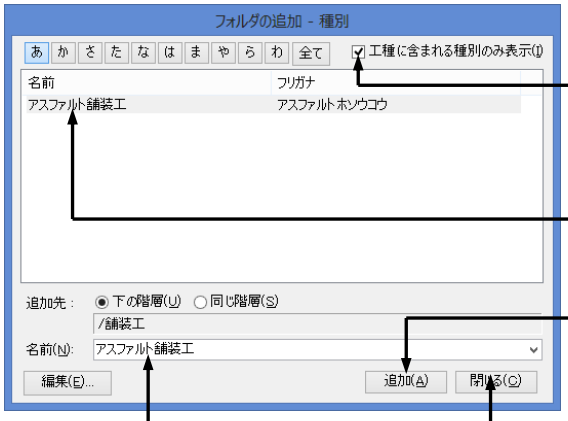
①種別を追加する工種を選択します。



1．工種をクリックして選択します。

2．[下の階層]ボタンをクリックします。

②[フォルダの追加・種別]ダイアログが表示されます。



■[工種に含まれる種別のみ表示]にチェックを入れると、選択した工種に含まれる種別のみ表示されます。

1．追加する種別を選択します。

2．[追加]ボタンをクリックします。

3．追加できましたら、[閉じる]ボタンをクリックします。

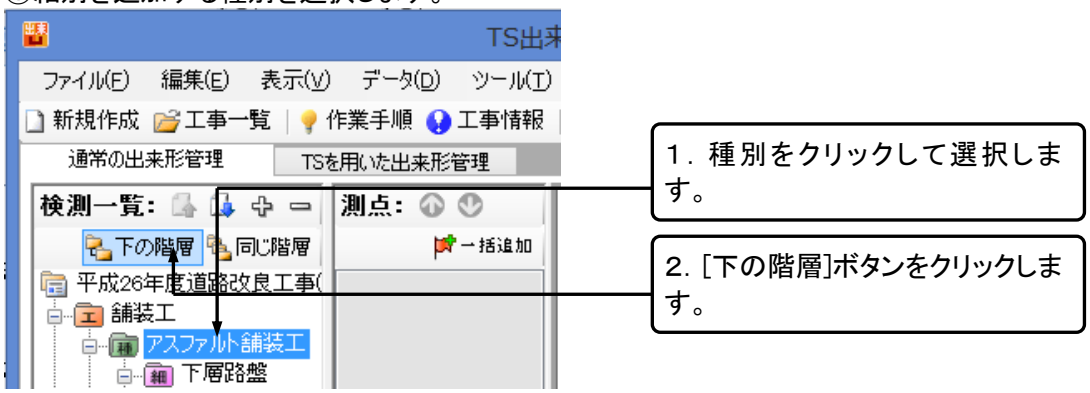
■種別を一覧から選択せずに、名前の欄に直接種別名を入力して追加することも出来ます。

■工種フォルダを選択していない場合は種別フォルダを追加することができません。
■種別名をダブルクリックしても追加することができます。

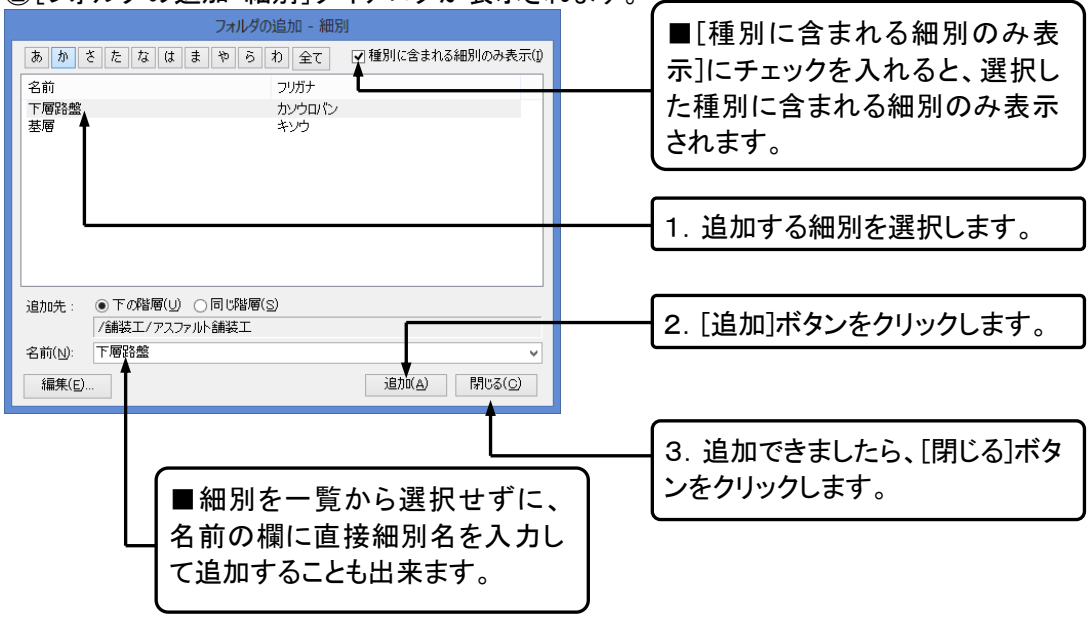
細別の追加

工事ツリーの種別フォルダに細別フォルダを追加します。

①細別を追加する種別を選択します。



②[フォルダの追加・細別]ダイアログが表示されます。

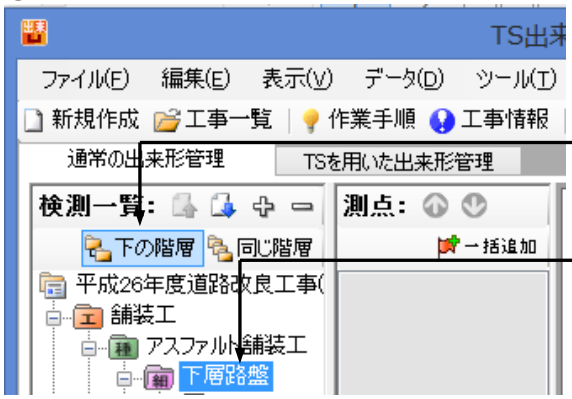


■種別フォルダを選択していない場合は細別フォルダを追加することができません。
■細別名をダブルクリックしても追加することができます。

検測種別の追加

工事ツリーの細別フォルダに検測種別フォルダを追加します。

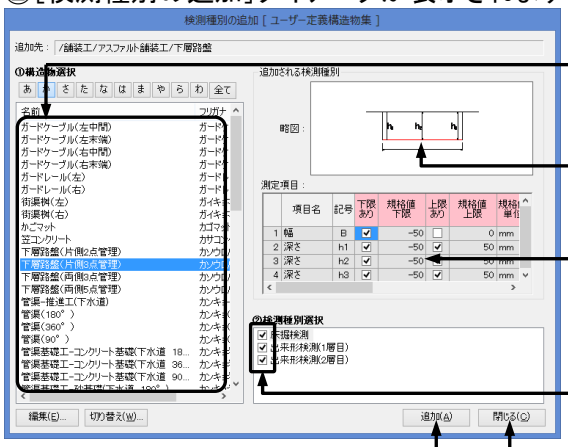
①検測種別を追加する細別を選択します。



2. [下の階層]ボタンをクリックします。

1. 細別をクリックして選択します。

②[検測種別の追加]ダイアログが表示されます。



1. 構造物をクリックして選択します。

■略図が表示されます。

■測定項目が表示されます。

■検測種別が表示されます。追加する検測種別もチェックを外すことで変更できます。

2. [追加]ボタンをクリックします。

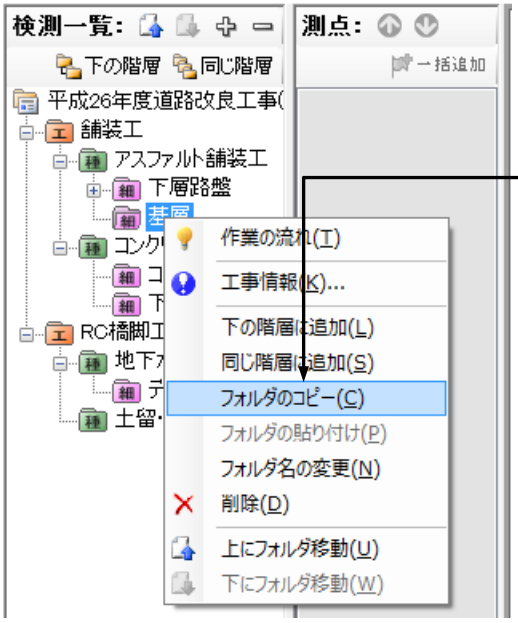
3. 追加できましたら、[閉じる]ボタンをクリックします。

■細別フォルダを選択していない場合は検測種別フォルダを追加することができません。
■ここに表示されているデータはすべて検測種別フォルダと同時に追加されます。略図、測定項目はメイン画面で追加、編集することができます。

フォルダのコピー・貼り付け

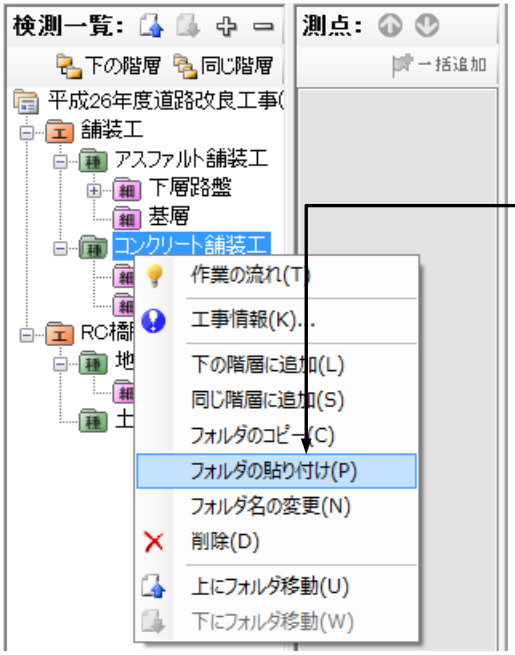
工事ツリーに追加済みのフォルダをコピーして、別の位置に貼り付けることができます。コピーしたフォルダは、貼り付け後も同じ階層でなければなりません。

①コピーをしたい工種・種別・細別・検測種別を右クリックします。



[フォルダのコピー]をクリックします。

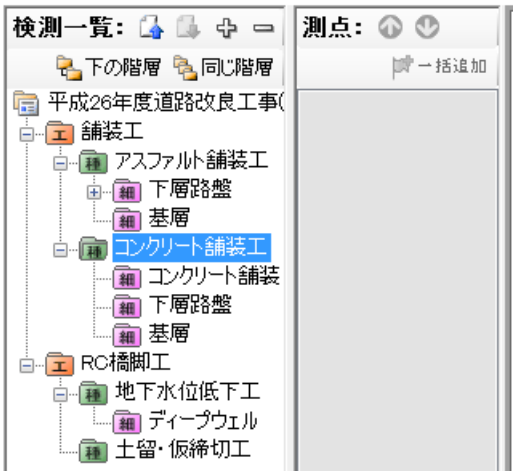
②貼り付け先のフォルダを右クリックします。



[フォルダの貼り付け]をクリックします。

■コピーしたフォルダの一つ上の階層のフォルダにのみ貼り付けが可能です。
例：細別フォルダをコピーした場合は、種別フォルダに貼り付け可能となります。

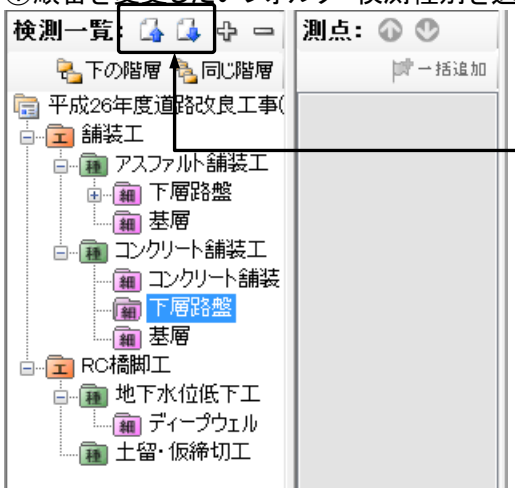
③コピーしたフォルダが下の階層に貼り付きます。



フォルダの移動

追加済みの工種・種別・細別・検測種別の順番を変更します。

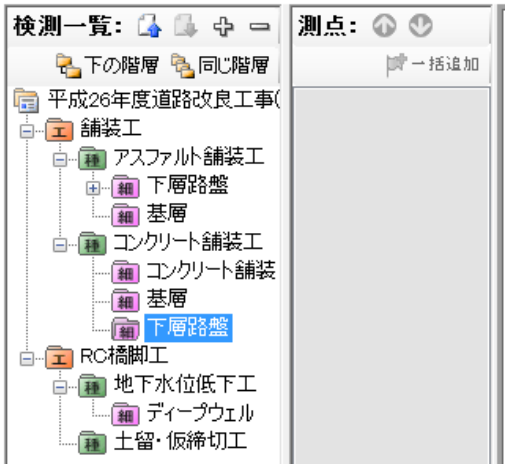
①順番を変更したいフォルダ・検測種別を選択します。



上に移動する場合は、ボタンをクリックし、下に移動する場合は、ボタンをクリックします。

■右クリックメニューの[上にフォルダ移動]･[下にフォルダ移動]ボタンでも移動が可能です。

②フォルダが移動します。

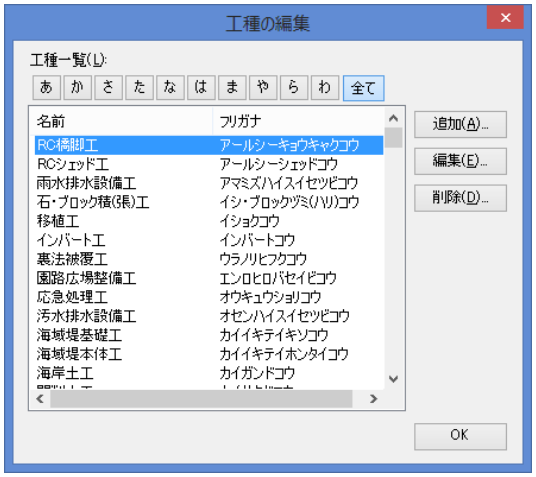


工種・種別・細別のマスタ編集

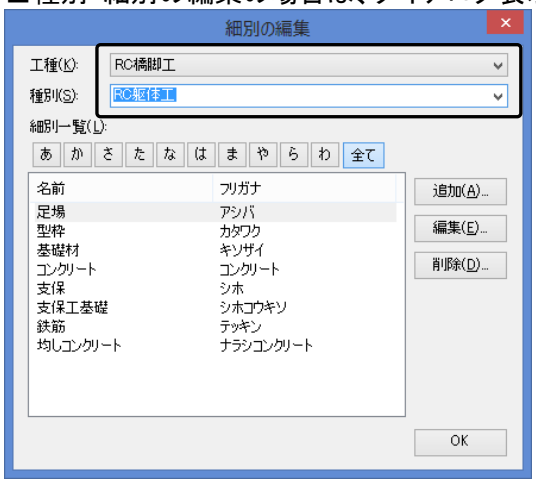
工種・種別・細別の編集ダイアログの表示

①メニューの[ツール]-[工種区分フォルダの編集]から編集を行うフォルダを選択します。

②選択したフォルダの編集ダイアログが表示されます。

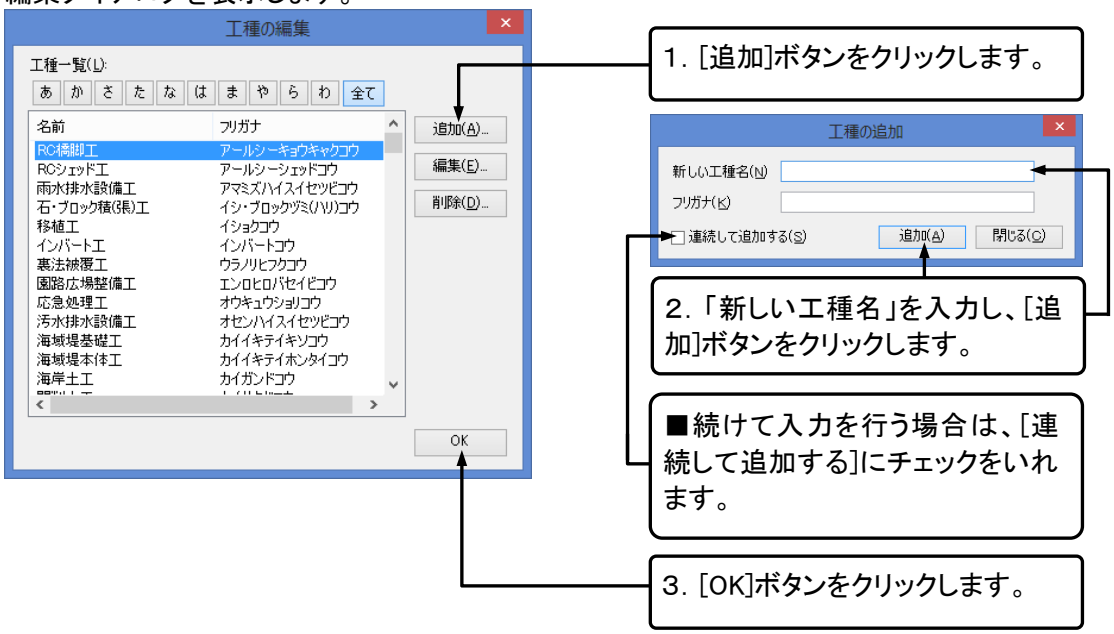


■種別・細別の編集の場合は、ダイアログ表示後に、[工種]・[種別]を選択します。



工種・種別・細別の追加

編集ダイアログを表示します。

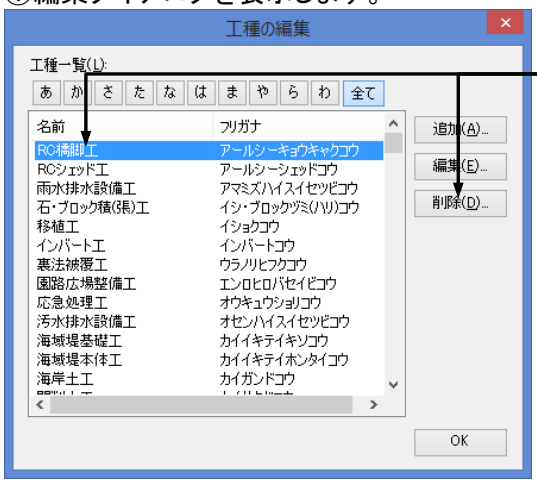


工種・種別・細別の編集

編集ダイアログを表示します。

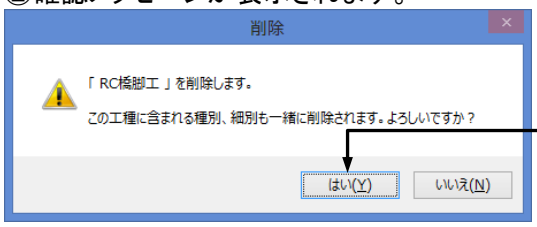
工種・種別・細別の削除

①編集ダイアログを表示します。



一覧から削除するフォルダを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

③[OK]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。

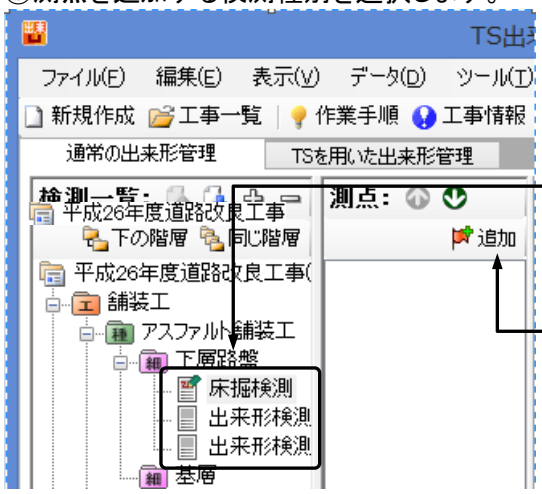
6. 測点リストを作成する

工事ツリーの右側に表示されているのが測点リストです。工事ツリーで検測種別をクリックすると、登録されている測点のリストが表示されます。測点リストに表示されている測点をクリックすると、それぞれの測点での実測値を入力する事ができます。

測点リストへ測点の一括追加

工事情報に登録済みの測点（→P42「測点」参照）を、測点リストへ一括で追加します。

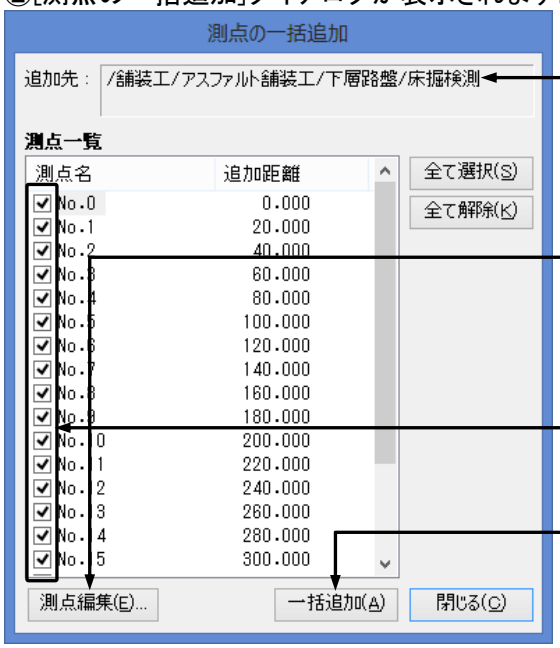
①測点を追加する検測種別を選択します。



1. 測点を追加する検測種別をクリックし、選択します。

2. [追加]ボタンをクリックします。

②[測点の一括追加]ダイアログが表示されます。



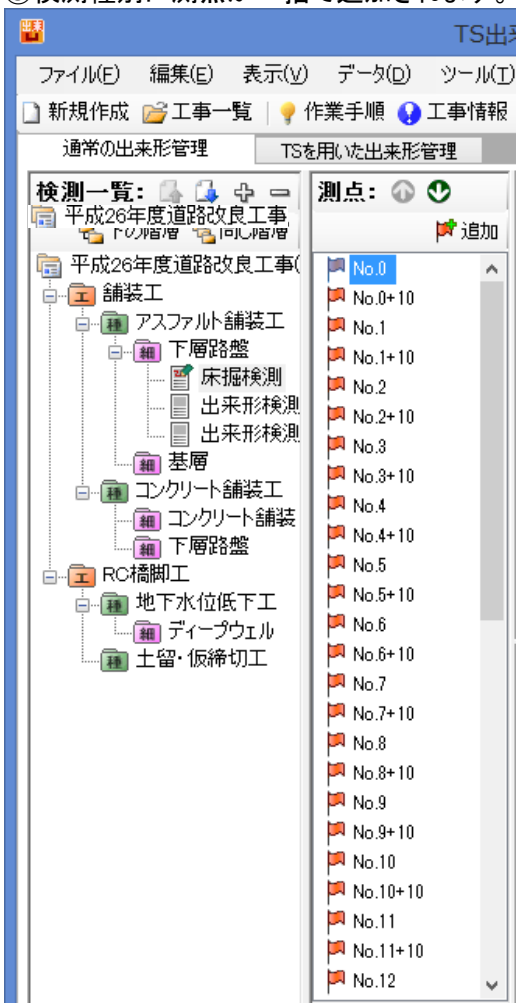
1. 追加先の検測種別を確認します。

2. 測点を編集する場合は、[測点編集]ボタンをクリックし、[工事情報]ダイアログを表示し、測点の編集を行います。（→P42「測点」参照）

3. 追加する測点にチェックを入れます。

4. [一括追加]ボタンをクリックします。

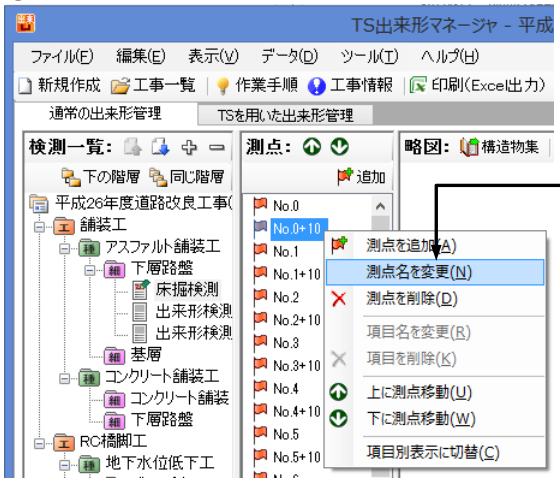
③検測種別に測点が一括で追加されます。



測点リストの編集

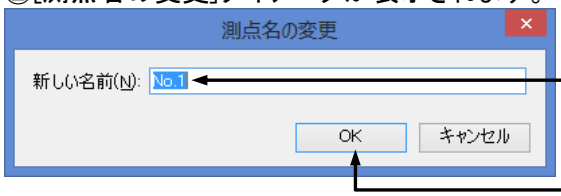
追加した測点の名前を変更する

①名前を変更する測点を選択します。



右クリックメニューの中から[測点名を変更]をクリックします。

②[測点名の変更]ダイアログが表示されます。

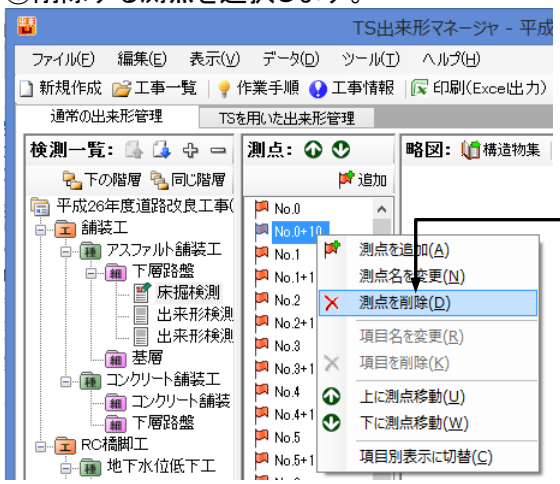


1. 新しい測点名を入力します。

2. [OK]ボタンをクリックします。

追加した測点を削除する

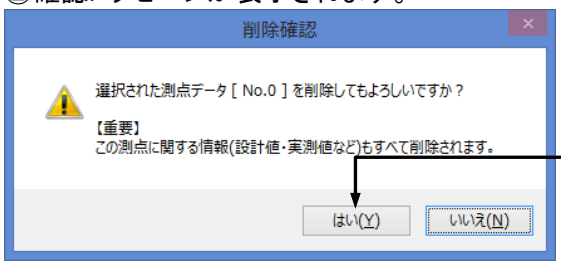
①削除する測点を選択します。



右クリックメニューから[測点を削除]をクリックします。

■メニューの[編集]-[削除]からも測点を削除することができます。

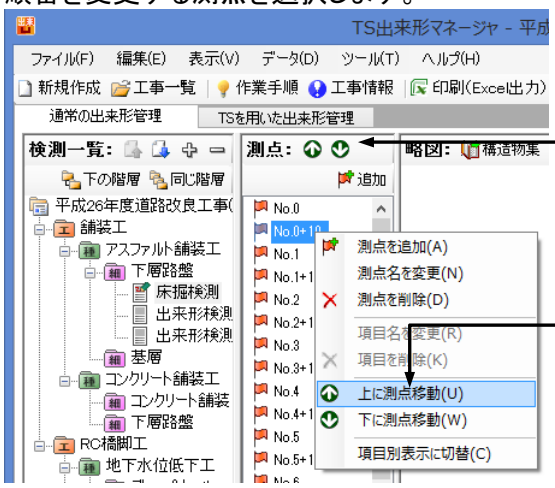
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

追加した測点の順番を変更する

順番を変更する測点を選択します。



■測点を選択し、ボタンでも移動可能です。

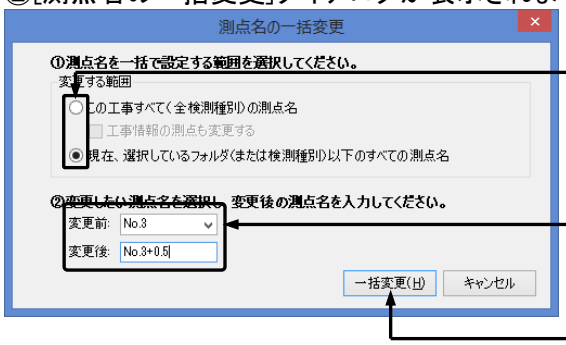
右クリックメニューの中から[上に測点移動]、[下に測点移動]をクリックし、測点を移動させます。

測点名の一括変更

検測種別に追加済みの測点名を一括で変更します。

①メニューの[データ]－[測点名の一括変更]をクリックします。

②[測点名の一括変更]ダイアログが表示されます。

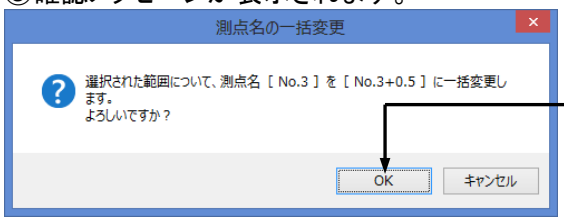


1. 変更する範囲として[この工事全て]か[現在、選択しているフォルダ以下のすべて]のどちらかを選択します。

2. 変更前・変更後の測点を選択・入力します。

3. [一括変更]ボタンをクリックします。

③確認メッセージが表示されます。



[OK]ボタンをクリックします。

項目別表示に切り替え

①測点リストの表示を切り替えます。

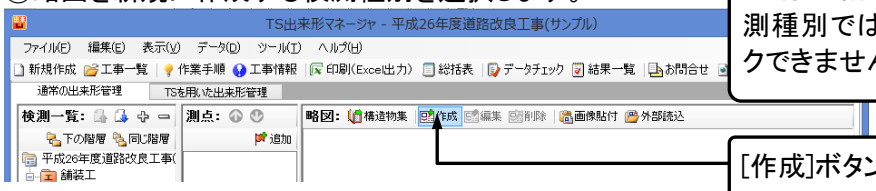
②表示が切り替わります。

7. 略図を追加する

画面右上には略図が表示されます。検測種別に略図が追加されている場合に表示されます。検測種別によっては、あらかじめ略図が追加されているものもあります。略図は作図システムから新規で作成、ファイルから読み込み、既存のファイルの編集などを行うことが可能です。

略図の新規作成

①略図を新規に作成する検測種別を選択します。



■既に略図が追加されている検測種別では[作成]ボタンはクリックできません。

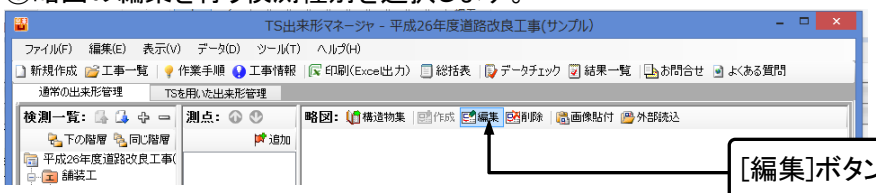
[作成]ボタンをクリックします。

②作図システムが起動します。

■作図システムの使用方法については、作図システムのマニュアルをご覧ください。

略図の編集

①略図の編集を行う検測種別を選択します。



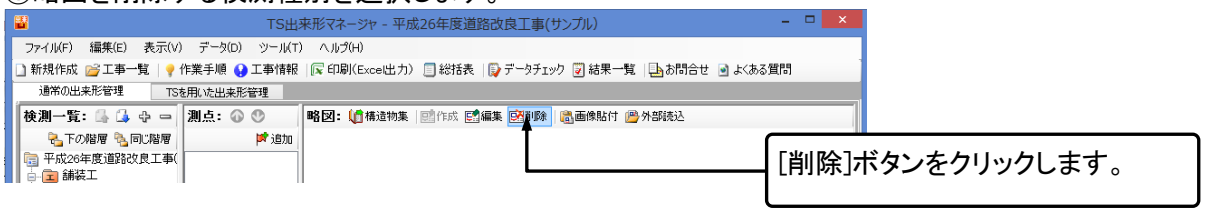
[編集]ボタンをクリックします。

②作図システムが起動します。

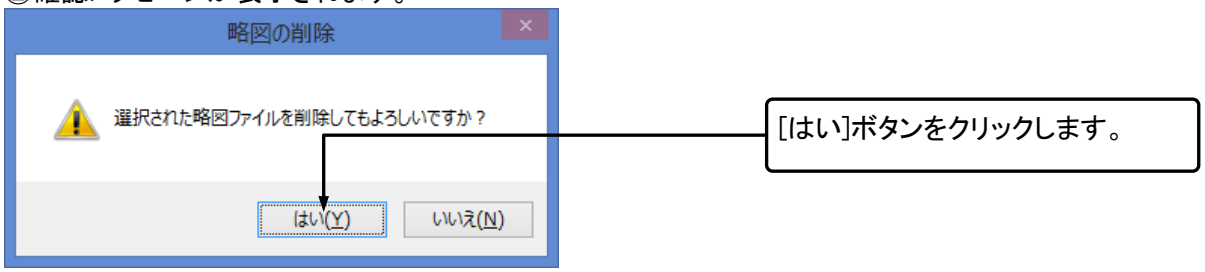
■作図システムの使用方法については、作図システムのマニュアルをご覧ください。

略図の削除

①略図を削除する検測種別を選択します。



②確認メッセージが表示されます。

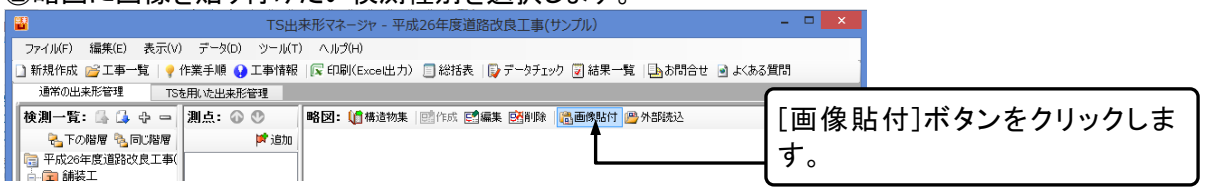


画像貼付

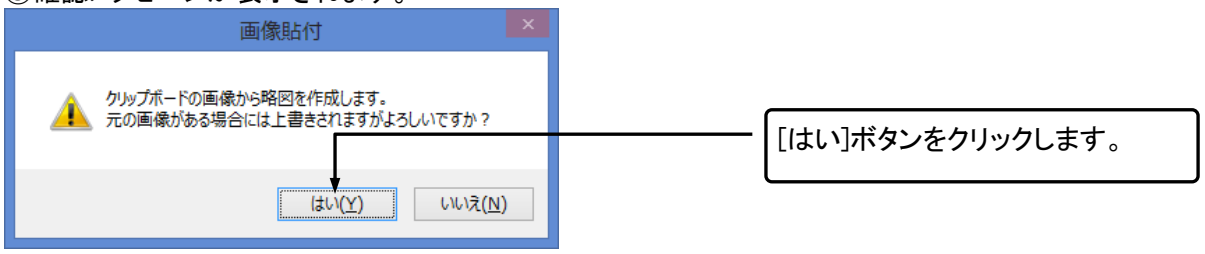
クリップボードに略図をコピーして貼り付けることができます。Excel など他のソフトで作成した略図も貼り付けることができます。この場合略図の編集はできません。

①貼り付けを行いたい画像をあらかじめコピーしておきます。

②略図に画像を貼り付けたい検測種別を選択します。



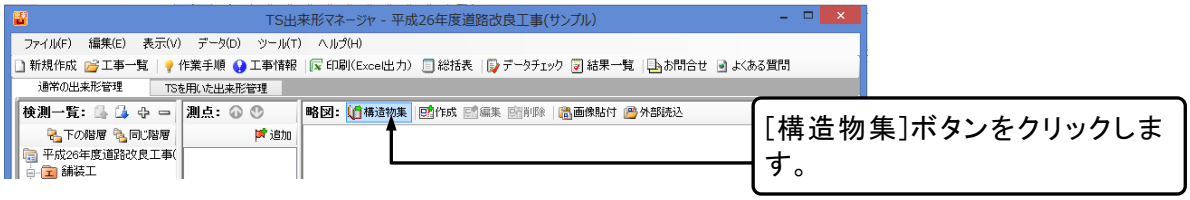
③確認メッセージが表示されます。



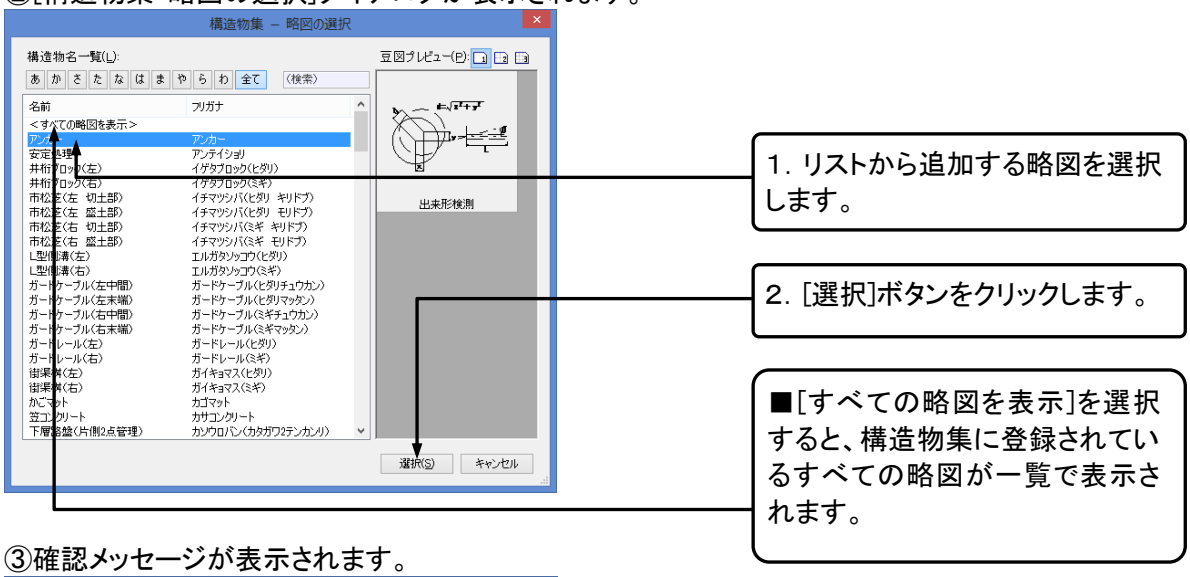
構造物集から読み込み

弊社構造物集で用意している一覧から略図を読み込むことが可能です。元の画像がある場合は、上書きされます。

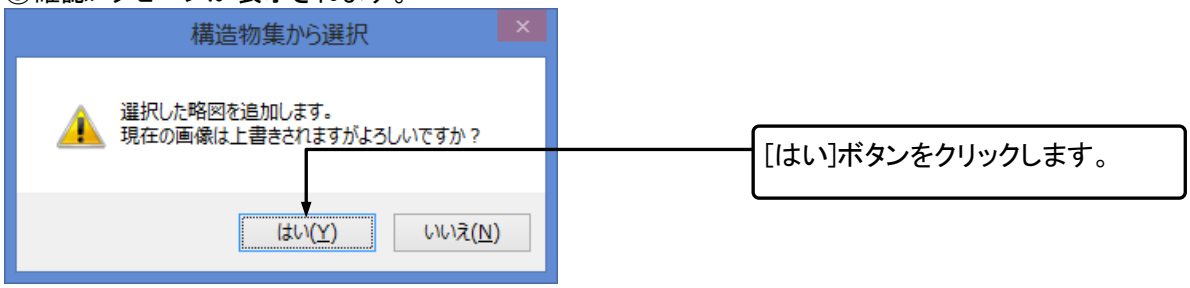
①略図を読み込みたい検測種別を選択します。



②[構造物集-略図の選択]ダイアログが表示されます。



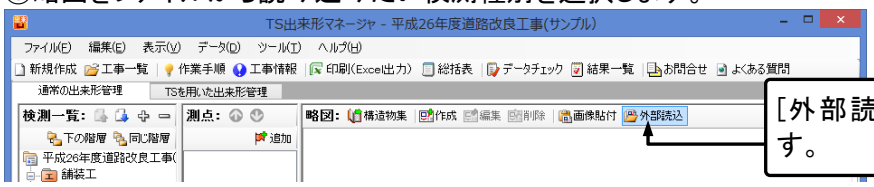
③確認メッセージが表示されます。



外部からの読み込み

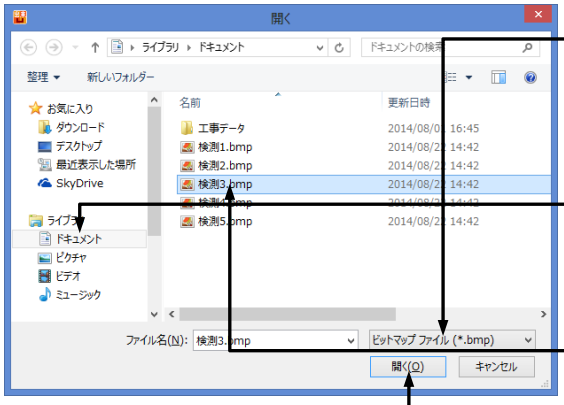
「作図システム」で作成した略図以外にも他のアプリケーションで作成されたファイルを登録することができます。この場合略図の編集はできません。

①略図をファイルから読み込みたい検測種別を選択します。



[外部読込]ボタンをクリックします。

②[ファイル選択]ダイアログが表示されます。



1. 画面の右下にあるリストボックスで表示する画像ファイルの種類を選択します。

2. 画面の左側で読み込む画像があるドライブ、フォルダを選択します。

3. 画面の右側から読み込む画像ファイルを選択します。

4. [開く]ボタンをクリックします。

8. 測定データを入力する

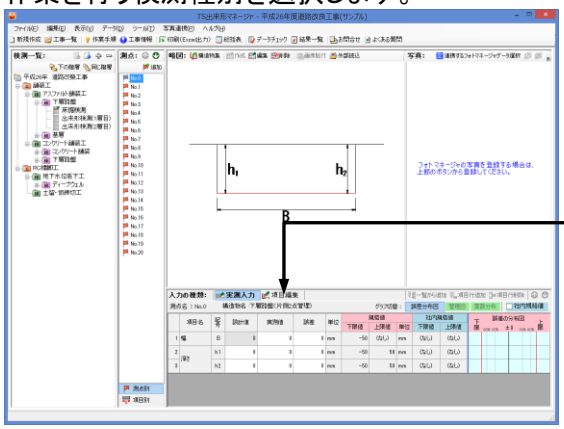
検測種別を選択すると、メイン画面右下の測定データ入力部分が表示されます。ここでは、実測入力と規格値、社内規格値の設定を行う項目編集を切り替えてデータの入力をしていただけます。

測定項目編集

測定項目画面の表示

工種、種別、細別、検測種別、測点を追加した状態で作業を行います。

作業を行う検測種別を選択します。



[項目編集]ボタンをクリックします。

■項目編集の場合は、測点は関係ありません。

測定項目の追加

①測定項目を追加します。

[項目行追加]ボタンをクリックします。

②表の最後の行に新しい行が追加されます。

③測定項目、記号を入力します。

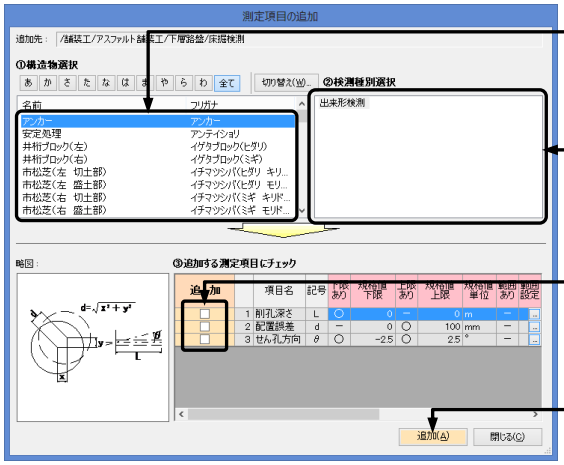
構造物集で使用されている測定項目を追加

[測定項目の追加]ダイアログを表示し、一括で測定項目を追加します。

①測定項目を追加します。

[一覧から追加]ボタンをクリックします。

②[測定項目の追加]ダイアログが表示されます。



1. 構造物を選択します。

2. 検測種別を選択します。

3. 追加する測定項目にチェックを入れます。

4. [追加]ボタンをクリックします。

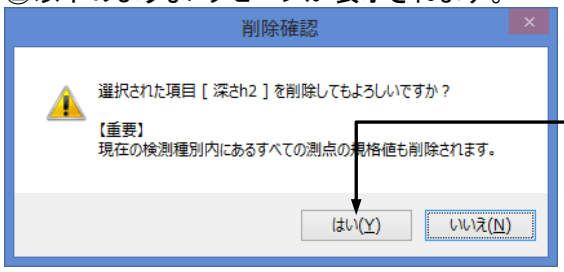
③選択した測定項目が一括で最終行に追加されます。

測定項目の削除

①測定項目を削除します。

削除したい行を選択し、[項目行削除]ボタンをクリックします。

②以下のようなメッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

③選択した行が削除されます。

規格値の入力又は修正

規格値及び社内規格値を入力又は修正します。

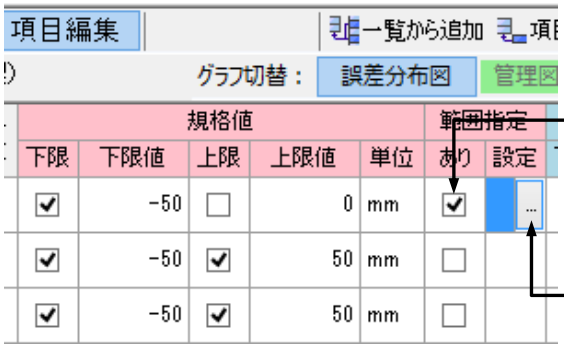
①必要に応じて、規格値及び社内規格値の入力又は修正を行います。

②実測入力の設計値がまだ入力されていない場合は、標準設計値で入力された設計値が全ての測点での設計値になります。

規格値の条件設定（範囲設定）

同じ測定項目でも設計値により規格値が変化する場合に設定します。

①項目編集画面より、設定する項目の行を選択します。

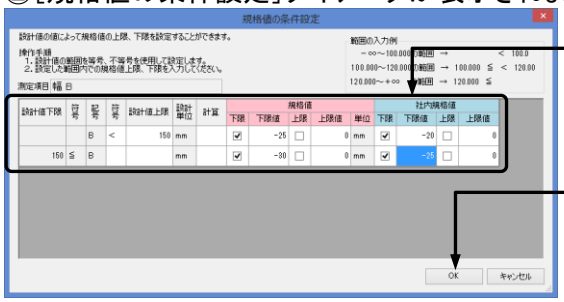


1．[範囲あり]をクリックしてチェックをつけます。チェックの有無で範囲設定の有効、無効を切り替えます。

2．範囲設定を有効にした状態で、[範囲設定]ボタンをクリックします。

■[範囲選択]ボタンは選択した行にのみ表示されます。

②[規格値の条件設定]ダイアログが表示されます。



1．規格値の条件を選択・入力します。

2．[OK]ボタンをクリックします。

■1行目に[符号]と[設計値上限]を入力すると、2行目には設計値下限が自動表示されます。

■設計値上限、下限の入力例

設計値下限	符号	記号	符号	設計値上限	設計単位
		B	＜	150	mm
150	≦	B			mm

1行目の符号と設計値上限を入力すると、2行目の設計値下限と符号は自動表示されます。

■規格上限値、下限値の入力例①
・＜150 の場合　下限値　–25mm（[計算]欄には何も入力しません）
・150≦の場合　下限値　-30mm（[計算]欄には何も入力しません）

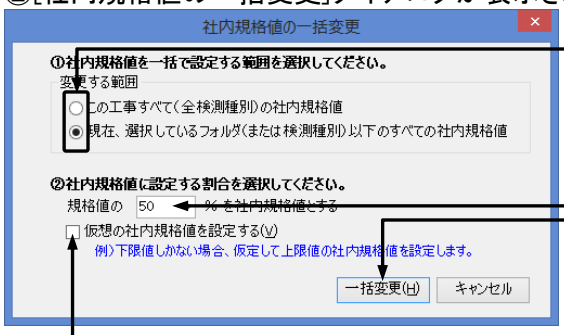
■規格上限値、下限値の入力例②
・＜100　の場合　下限値　設計値に対して　5%（[計算]欄で[%]を選択し、規格下限で「5」と入力します。例：2%＝2、10%＝10）
・100≦の場合　下限値　-5mm（[計算]欄には何も入力しません）

社内規格値の一括変更

社内規格値を一括で変更します。

①メニューの[データ]－[社内規格値の一括変更]をクリックします。

②[社内規格値の一括変更]ダイアログが表示されます。



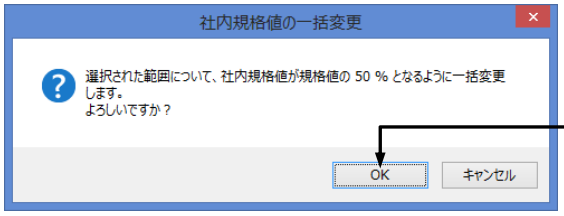
1．変更する範囲を選択します。

2．設定する割合を入力します。

3．[一括変更]ボタンをクリックします。

■[仮想の社内規格値を設定する]にチェックを入れると、規格値の上限・下限のうち一方が設定されている場合に、設定されていないもう一方にも仮想で社内規格値が設定されます。

③確認メッセージが表示されます。



[OK]ボタンをクリックします。

実測値入力

実測入力画面

設計値、実測値を入力します。

工事ツリーから検測種別フォルダを選択し、測点を選択します。

1．[実測入力]ボタンをクリックします。

2．実測値の入力画面が表示されますので、設計値、実測値を入力します。誤差は自動計算されます。また誤差を入力することで実測値を更新することもできます。

■誤差の計算方法についてはメニューの[ツール]－[オプション]の[入力]タブの計算方法で変更できます。（→P76「入力に関する設定」参照）

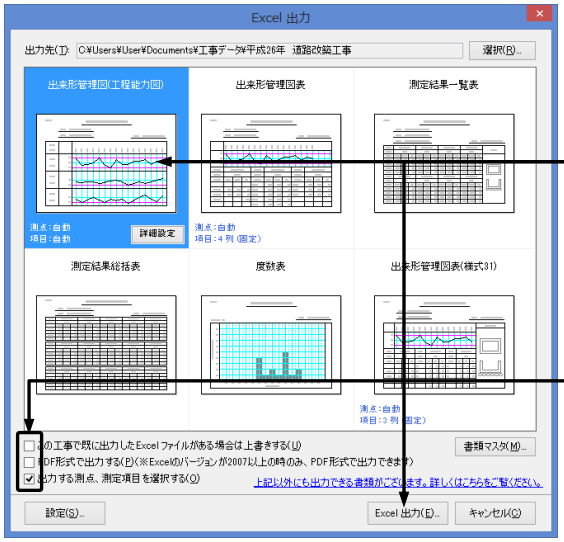
9. 印刷(Excel 出力)を行う

出来形管理図表等の印刷(Excel 出力)を行います。

Excel 出力

①[印刷(Excel 出力)]ボタンをクリックします。

②[Excel 出力]ダイアログが表示されます。

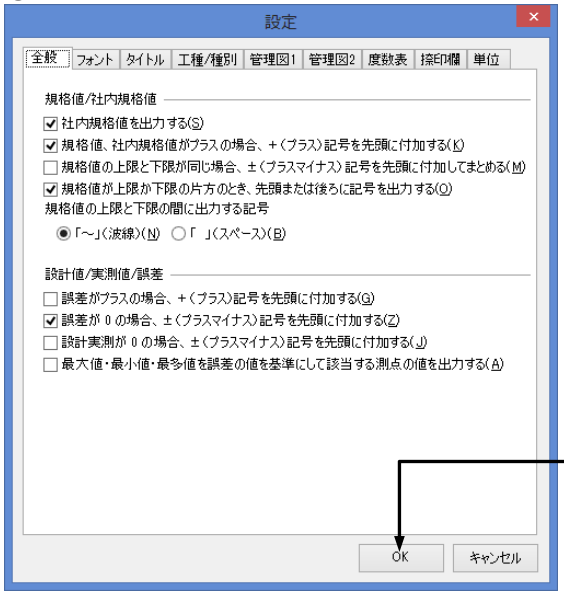


出力する書類を選択して、[Excel 出力]ボタンをクリックします。複数を選択することも可能です。

■出力に関する設定を行います。(→P75「出力設定」参照)

■追加オプションの都道府県構造物集をご利用いただくと都道府県の基準に沿った様式を Excel 出力していただけます。(P83「12. 構造物集を管理する」を参照)

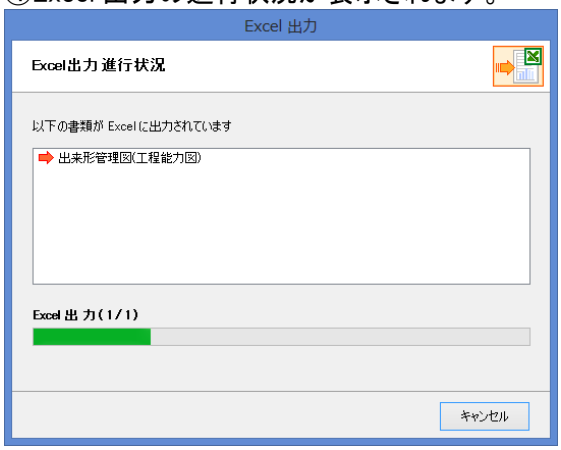
③[設定]ダイアログが表示されます。(→P70「設定(印刷)」参照)



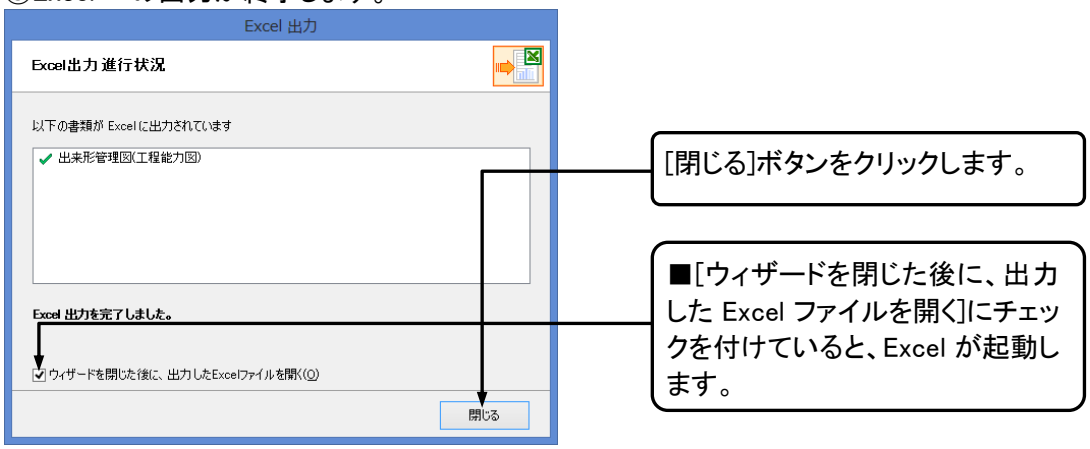
■[出力する測点、測定項目を選択する]にチェックを入れてある場合は、この後に[出力データ選択]ダイアログが表示されます。

設定を確認し、[OK]ボタンをクリックします。

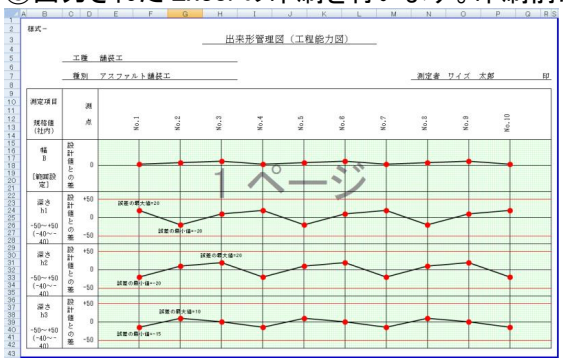
④Excel 出力の進行状況が表示されます。



⑤Excel への出力が終了します。



⑥出力された Excel の印刷を行います。印刷前に Excel 上でも、データを修正することができます。

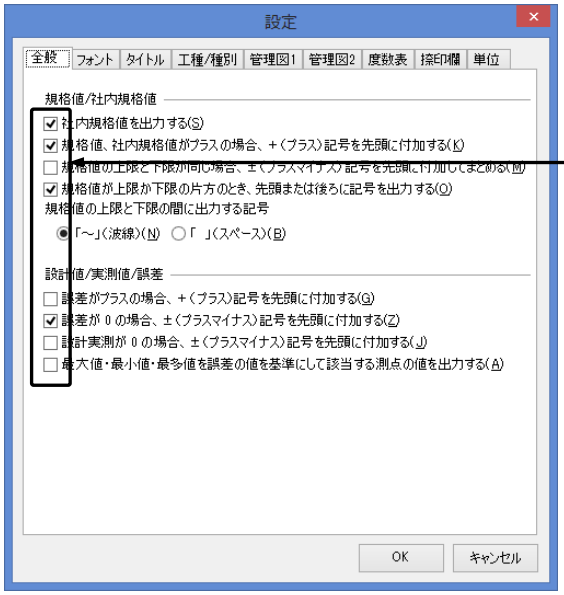


設定（印刷）

P22 の④、P68の②で[Excel 出力]ボタンをクリックすると、[設定]ダイアログが表示され様々な設定が行えます。タブにより設定画面を切り替えて設定を行います。

全般

[全般]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

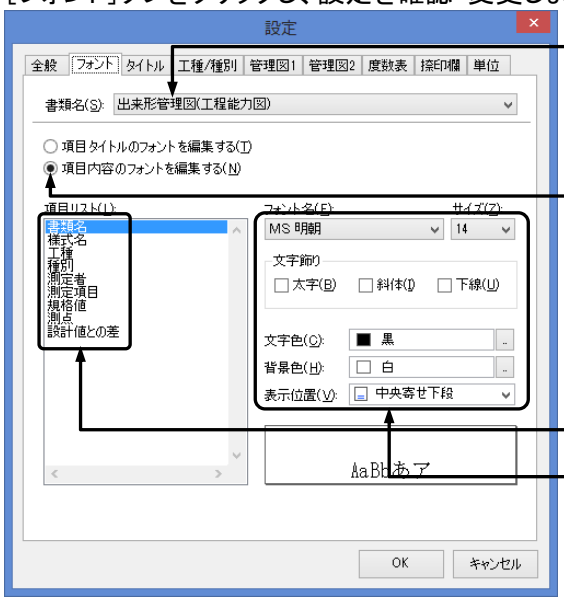


社内規格値の出力及び規格値、誤差、設計実測値の＋（プラス）記号、±（プラスマイナス）記号について設定します。

フォント

印刷する書類のフォントを設定します。

[フォント]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



1. フォントを変更する書類を書類名より選択します。

2. [項目タイトルのフォントを編集する]または[項目内容のフォントを編集する]のどちらかを選択します。

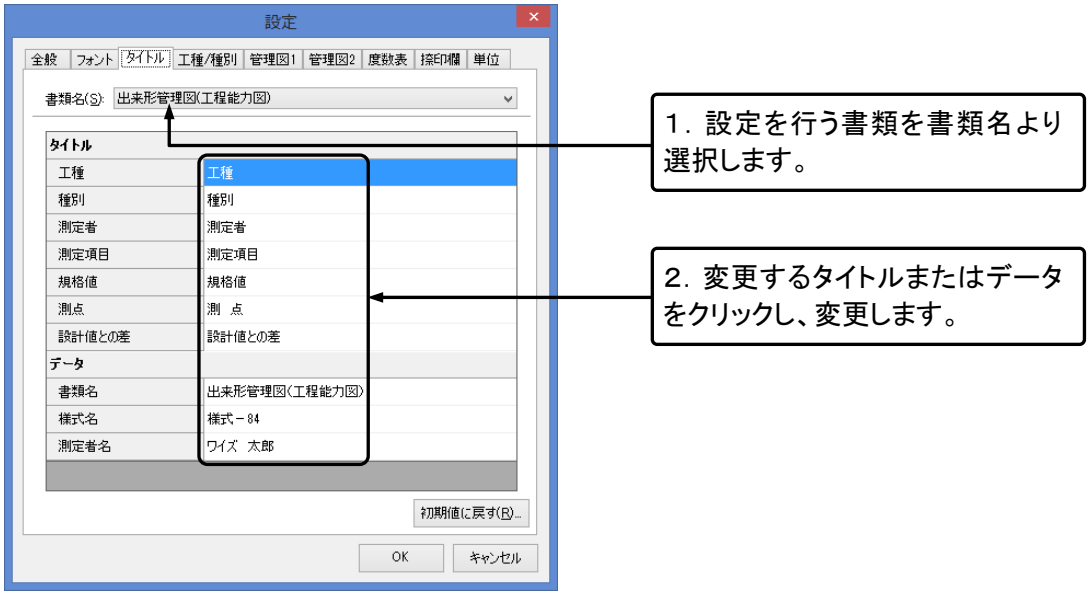
3. 項目リストからフォントの設定を行う項目を選択します。

4. フォント名・サイズ・色等を変更します。

タイトル

書類のタイトル及び測定者名等のデータを変更することができます。

[タイトル]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

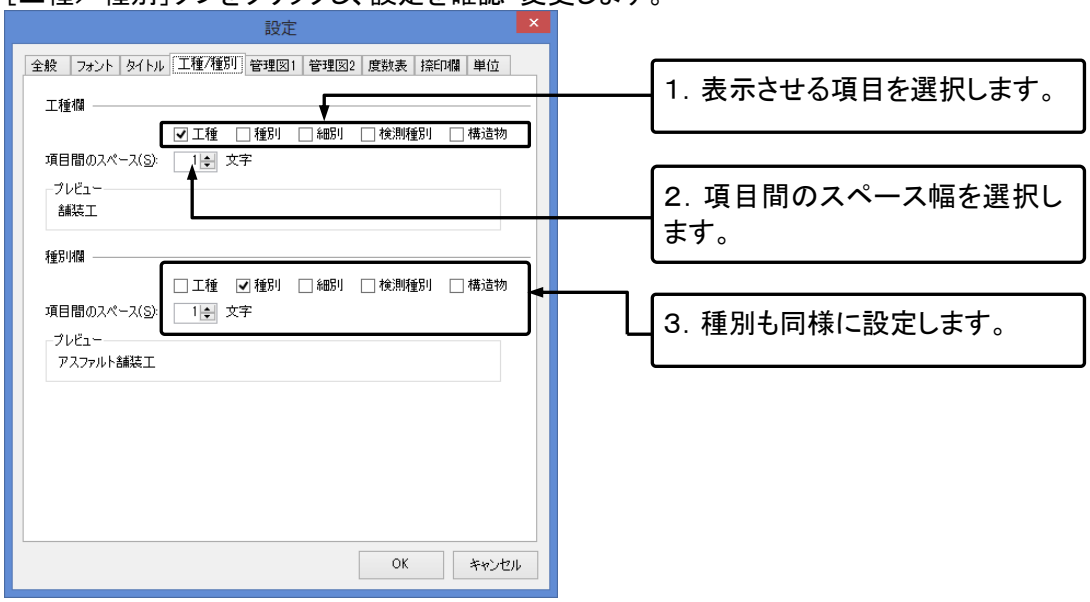


■測定者名は登録してある社員から選択することができます。

工種/種別

Excel に出力される工種・種別の設定を行います。

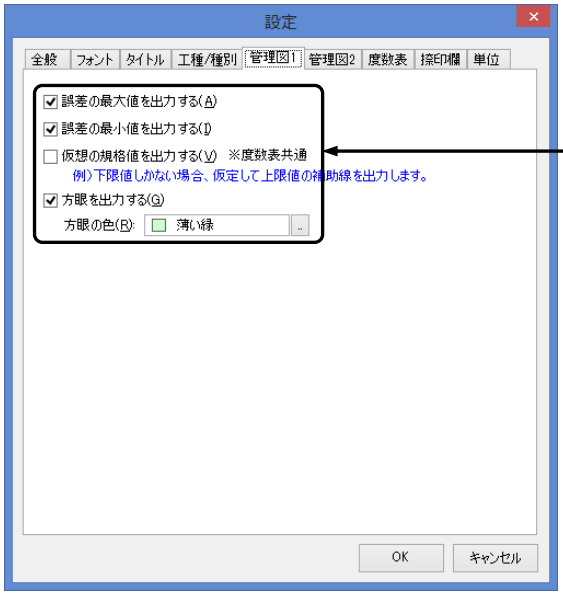
[工種／種別]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



管理図1

出来形管理図のグラフ上に出力されるデータについて設定します。

[管理図 1]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

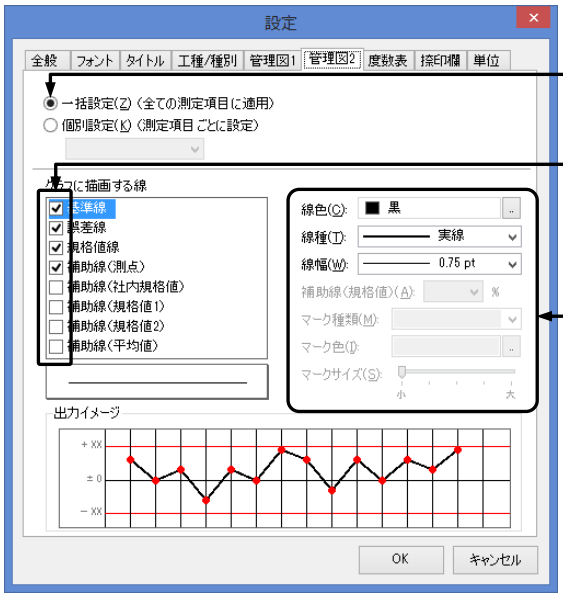


該当する項目にチェックを入れます。方眼の色を変更することもできます。

管理図2

出来形管理図のグラフ上に出力されるデータについて設定します。

[管理図2]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



1. [一括設定]または[個別設定]のどちらかを選択します。

2. グラフに描画する線を選択します。

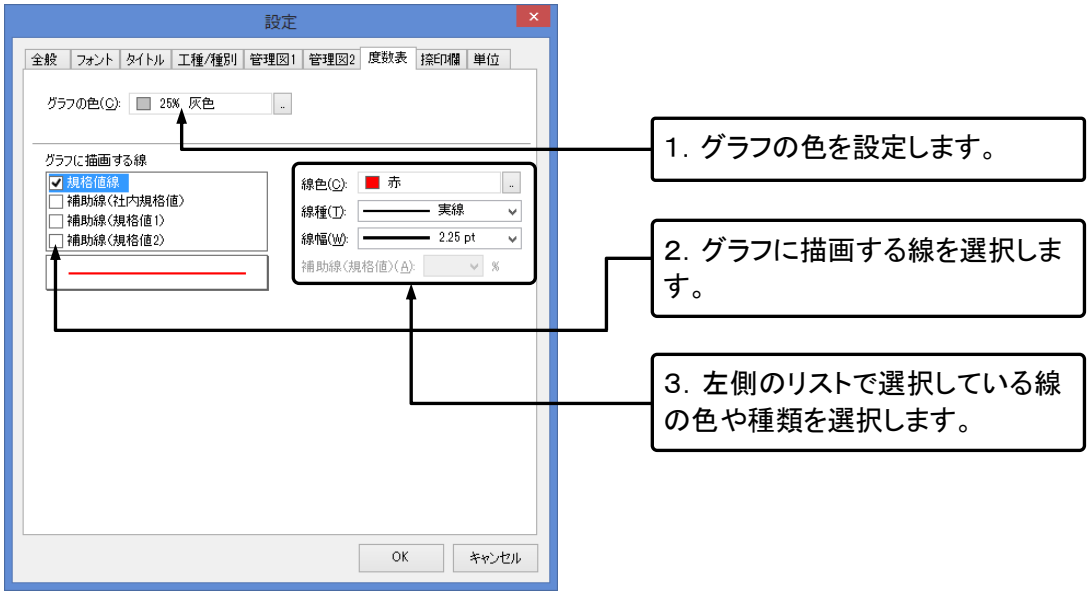
3. 左側のリストで選択している線の設定を行います。

■[一括設定]を選択すると、全ての測定項目に対して設定した内容が適用されます。[個別設定]を選択すると、選択した項目にのみ設定した内容が適用されます。

度数表

度数表の設定をします。

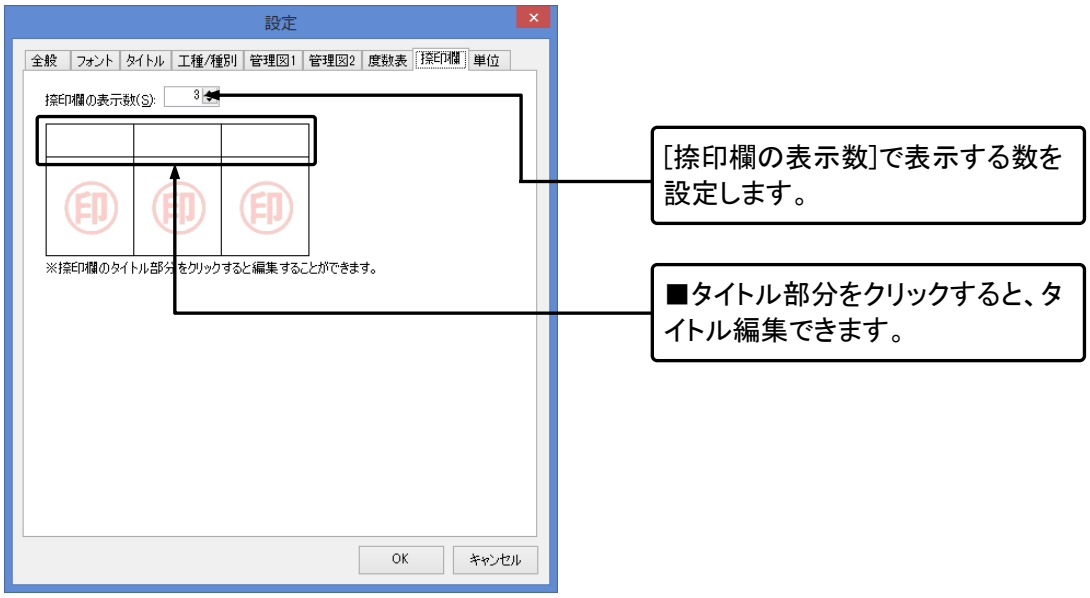
[度数表]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



捺印欄

捺印欄のタイトルを設定します。

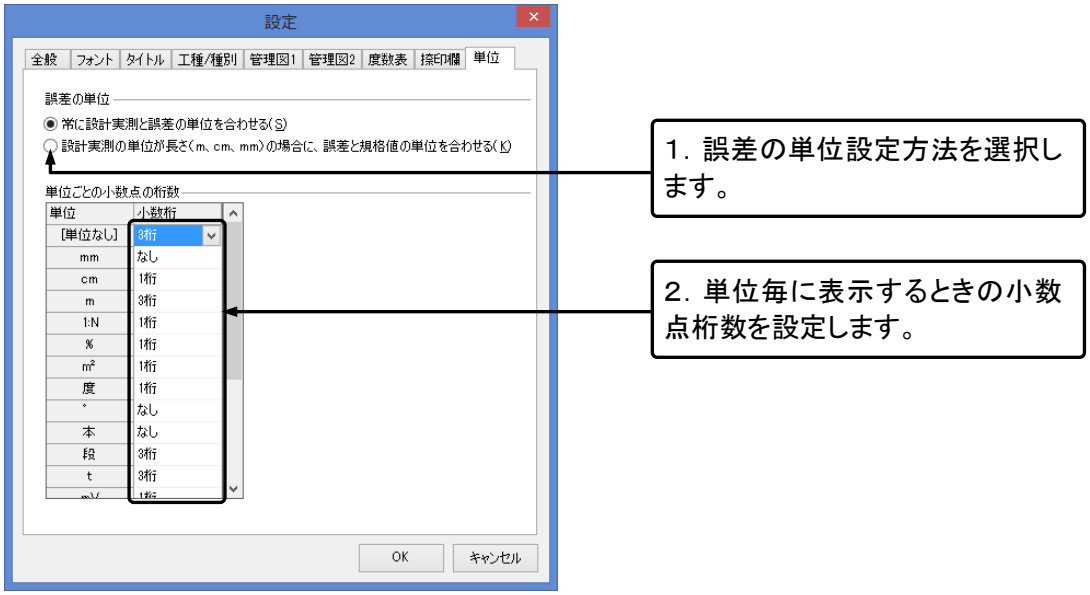
[捺印欄]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



単位

単位の設定をします。

[単位]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



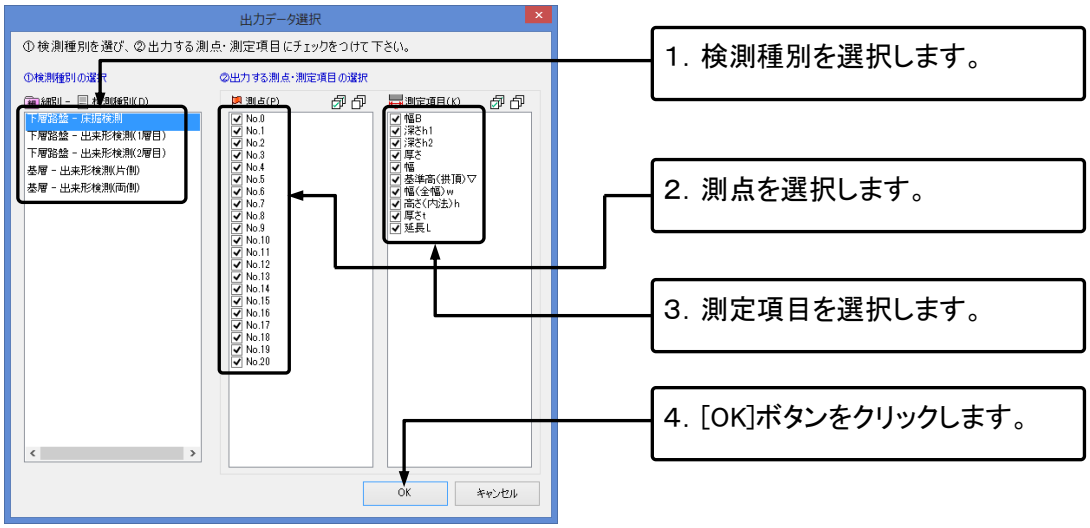
出力設定

[Excel 出力]ダイアログの下部にある 3 つの出力設定について解説します。

■[この工事で既に出力した Excel ファイルがある場合は上書きする]にチェックをいれると、以前に同工事のデータで出力した Excel ファイルがある場合に上書きします。

■[PDF 形式で出力する]にチェックをいれると、Excel ではなく PDF として出力されます。（※Excel のバージョンが 2007 以降の場合のみ有効。）

■[出力する測点、測定項目を選択する]にチェックを入れると、[設定]ダイアログの後に[出力データ選択]ダイアログが表示され、出力する測点・測定項目を選択することができます。

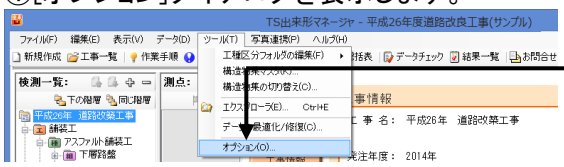


10. システムの設定を行う

[オプション]ダイアログから様々な TS 出来形マネージャの設定を行っていただけます。

オプションダイアログの表示

①[オプション]ダイアログを表示します。

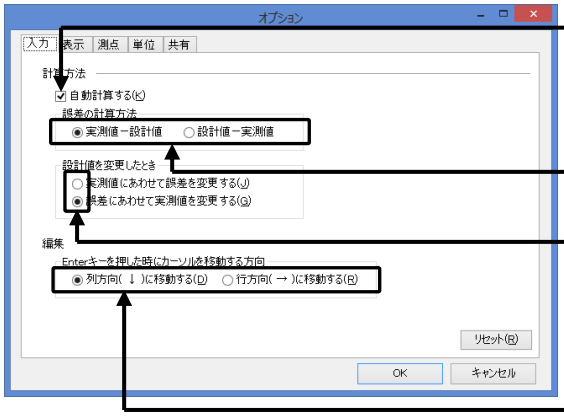


メニューの［ツール］－［オプション］をクリックします。

②タブを切り替えて設定を行い、設定が終了したら［OK］ボタンをクリックします。

入力に関する設定

［入力］タブをクリックし、設定を確認・変更します。



■自動計算をする場合は誤差と設計値を変更した場合の計算方法を選択します。

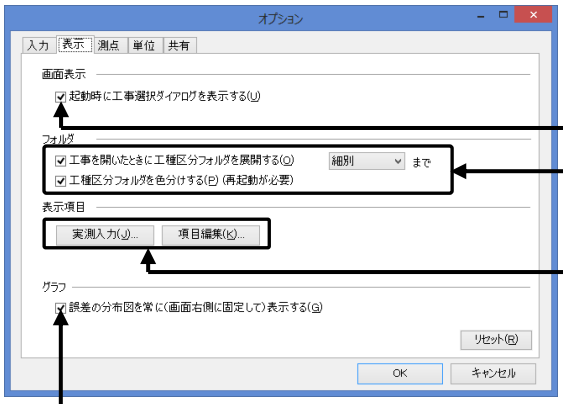
1. 誤差の計算方法を選択します。

2. 設計値を変更したときの計算方法を選択します。

3. Enterキーを押した時にカーソルを移動する方向を選択します。

表示に関する設定

[表示]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



1. システムを起動時に[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示する場合はチェックを入れます。

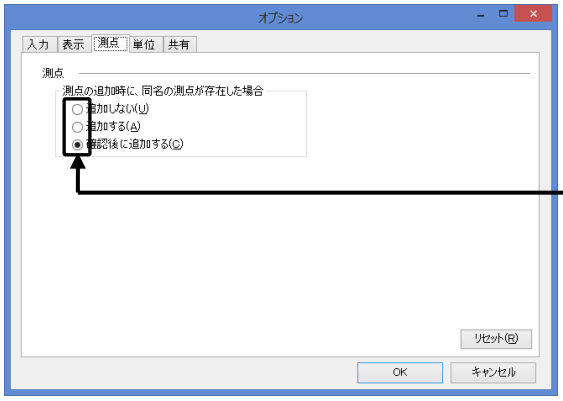
2. 工事を開いたときに工種区分フォルダの展開をする場合、工種区分フォルダを色分けする場合はチェックを入れます。

3. [実測入力]と[項目編集]で表示する項目を設定します。

4. 誤差の分布図を常に表示する場合はチェックを入れます。

測点に関する設定

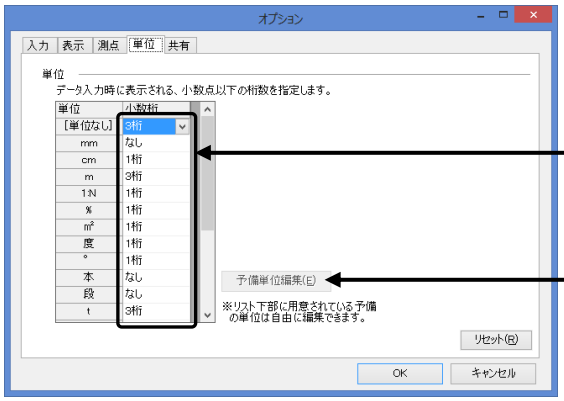
[測点]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



測点の追加時に同名の測点が存在した場合の設定を行います。

単位に関する設定

[単位]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



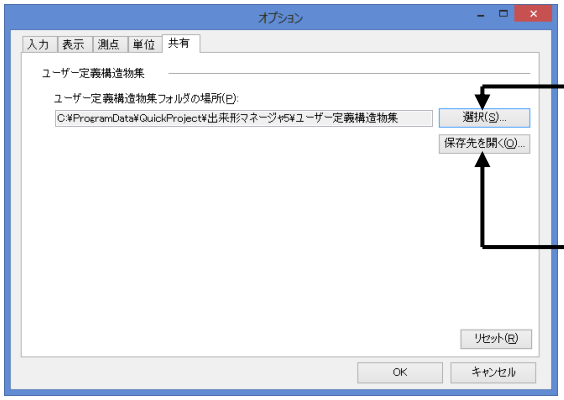
入力時に表示される、小数点以下の桁数を設定します。

■リスト下部の予備の単位を選択すると、[予備単位編集]ボタンから、単位名の編集が行えるようになります。

共有に関する設定

ユーザー定義構造物集は、複数のパソコンで共有してご使用いただけます。

[共有]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



ユーザー定義構造物集フォルダの場所を変更する場合は[選択]ボタンをクリックします。

■[保存先を開く]ボタンをクリックすると、現在のユーザー定義構造物集の保存先をエクスプローラーで開きます。

11. 出来形管理総括表

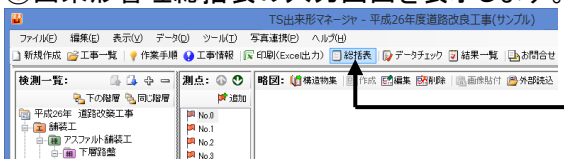
出来形管理総括表の入力データは、出来形管理書類作成で入力されたデータをそのまま使用することができます。

出来形管理総括表の入力

出来形管理総括表を印刷するためのデータを入力します。

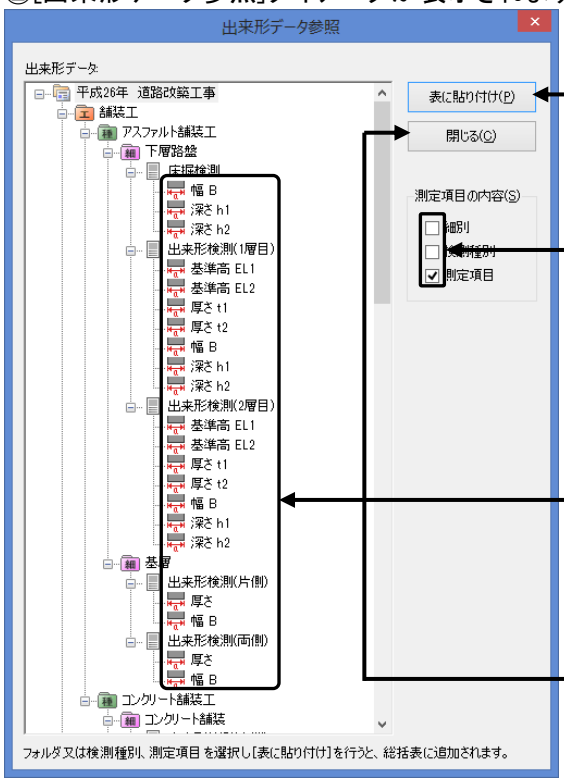
出来形管理総括表の表示

①出来形管理総括表の入力画面を表示します。



[総括表] ボタン又は、メニューの[ファイル]－[総括表の出力]をクリックします。

②[出来形データ参照]ダイアログが表示されます。



1. 測定項目に貼り付ける内容にチェックをつけます。

2. 表に貼り付ける項目を選択し、[表に貼り付け]ボタンをクリックします。

■項目名をダブルクリックすることでも表に貼り付けることができます。

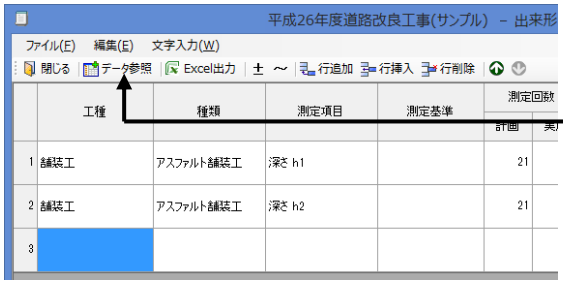
3. 1、2の操作を繰り返し、必要なデータを貼り付けます。

4. [閉じる]ボタンをクリックします。

③出来形管理総括表にデータが参照されます。

入力データを参照する

①出来形管理総括表画面を表示します。



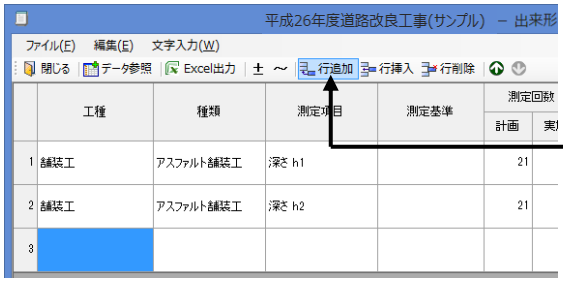
入力したいセルをクリックして選択した後、[データ参照]ボタンをクリックします。

②[出来形データ参照]ダイアログが表示されますので、必要項目を選択します。
前ページ参照。

出来形管理総括表の編集

行を追加する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。

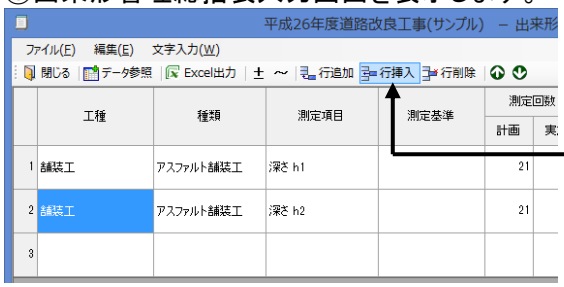


[行追加]ボタンをクリックします。

②最下行に行が追加されます。

行を挿入する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。

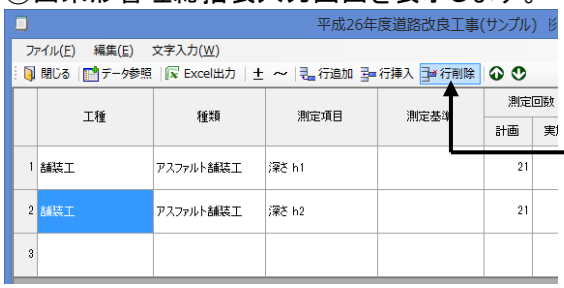


挿入したい行を選択し、[行挿入]ボタン又はメニューの[編集]－[行の挿入]をクリックします。

②選択した行と1つ前の行の間に新しい行が挿入されます。

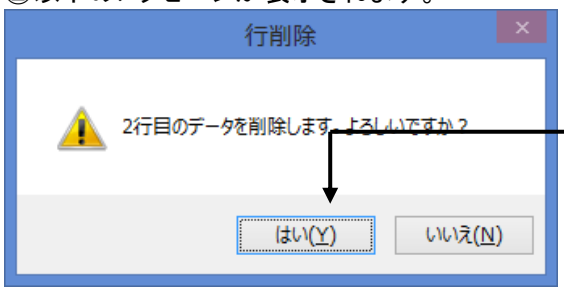
行を削除する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



削除したい行を選択し、[行削除]ボタン又はメニューの[編集]－[行削除]をクリックします。

②以下のメッセージが表示されます。

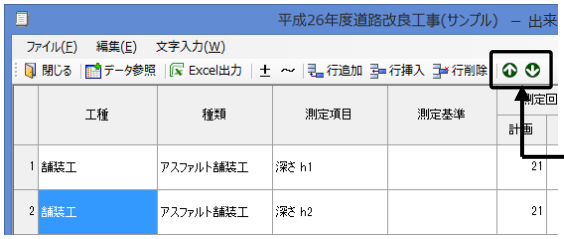


[はい]ボタンをクリックします。

③選択した行が削除されます。

データを移動する

出来形管理総括表入力画面を表示します。

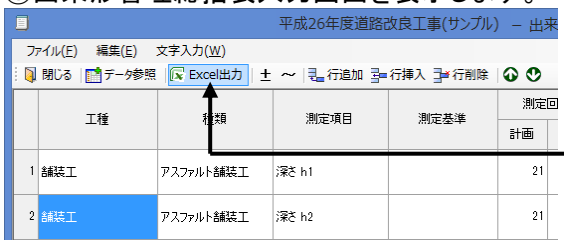


移動させる行を選択し、上に移動させる場合は、ボタン又はメニューの[編集]－[上に移動]をクリックします。下に移動させる場合は、ボタン又はメニューの[編集]－[下に移動]をクリックします。

印刷（Excel 出力）

出来形管理総括表を Excel へ出力します。

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



[Excel　出力]ボタン又は、メニューの[ファイル]－[Excelに出力]をクリックします。

②Excel が起動し、出力データが表示されます。[工事データ]フォルダ内の工事名の付いたフォルダ内に保存されています。
印刷が必要な場合は出力された Excel で印刷を行います。

出 来 形 管 理 総 括 表

工事名　平成21年度　道路改築工事　　測定者

工種	種類	測定項目	測定基準	測定回数 計画	測定回数 実施	規格値 (mm)	測定値 最大値	測定値 最小値	測定値 平均値	摘要
		基層 床掘検測 幅 B		75	75		5500	0	380	
		基層 床掘検測 深さ h1		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 幅 B		75	75		5500	0	380	
		基層 床掘検測 深さ h1		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 深さ h2		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 深さ h3		75	75		10	-15	-0.3	
		基層 出来形検測1 (層目)		76	76		0	0	0	
		基層 出来形検測1 (層目)		76	76		0	0	0	

12. 構造物集を管理する

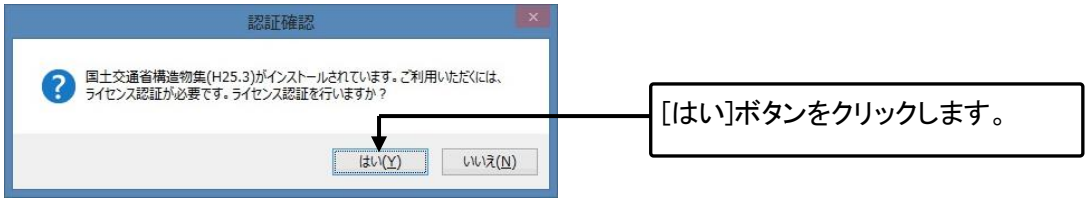
ご購入いただいた都道府県構造物集の使用方法や、ユーザー定義構造物集に構造物を追加・編集などを行う方法を解説します。

構造物集のライセンス認証

構造物集も本体と同様にライセンス認証手続きを行う必要があります。

①TS 出来形マネージャを起動します。

②インストール済みで、ライセンス認証をされていない構造物集がある場合、確認のメッセージが表示されます。



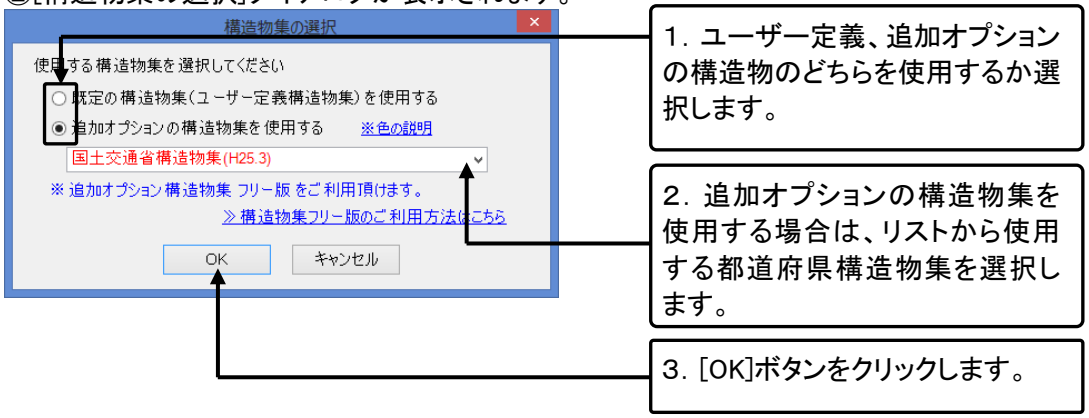
③ライセンス認証を行います。ライセンス認証の方法は本体附属のセットアップガイドをご覧ください。

構造物集の切り替え

ご購入された都道府県構造物集をご利用いただくには、ライセンス認証後に、構造物集の切り替えが必要となります。また追加オプションで購入された都道府県構造物集は編集ができませんので、編集を行う場合はユーザー定義構造物集に自動的に切り替わります。

①メニューの[ツール]-[構造物集の切り替え]をクリックします。

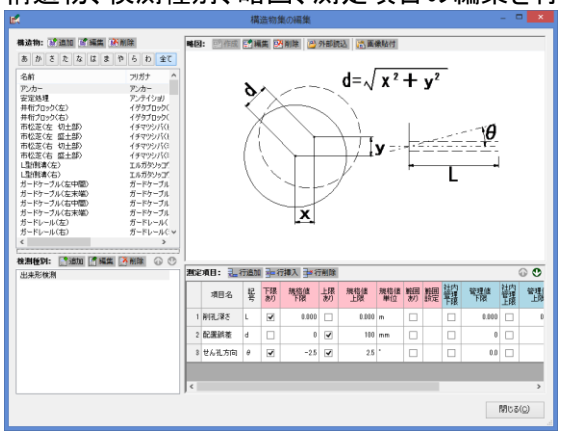
②[構造物集の選択]ダイアログが表示されます。



構造物集の編集画面の表示

①メニューの[ツール]－[構造物集マスタ]をクリックします。

②ユーザー定義構造物集の編集画面が表示されます。
構造物、検測種別、略図、測定項目の編集を行います。



■構造物集マスタはユーザー定義構造物集でのみ使用可能です。

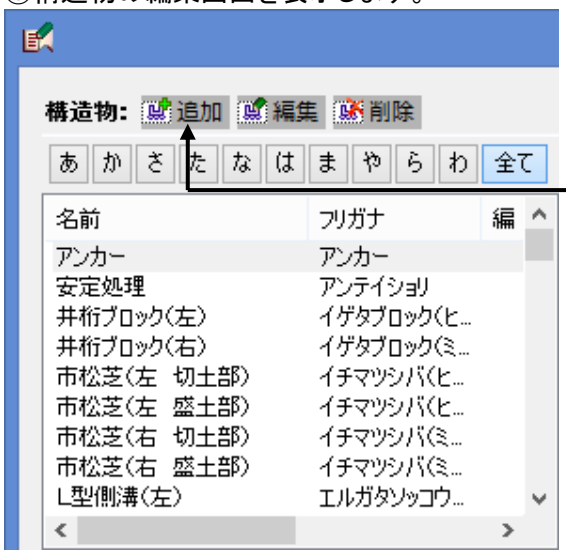
■ユーザー定義構造物集を共有している場合は、構造物集マスタの編集は、同時に 2 つ以上のパソコンからは行えません。

■追加オプションで購入された構造物集を選択されていた場合は、こちらのダイアログを表示すると自動的にユーザー定義構造物集に切り替わります。

構造物の管理

構造物の追加

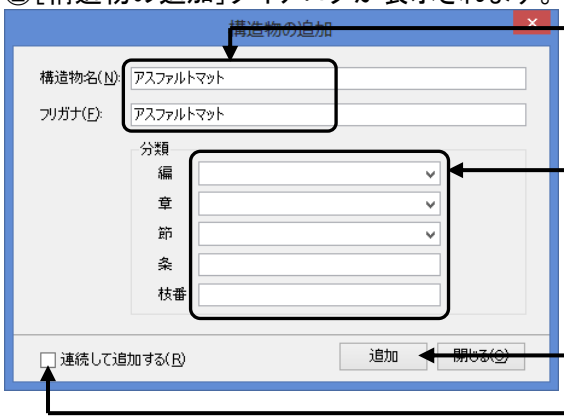
①構造物の編集画面を表示します。



[追加]ボタンをクリックします。

■任意の構造物を右クリックし、[構造物の追加]からでも、追加できます。

②[構造物の追加]ダイアログが表示されます。



1. 構造物名とフリガナを入力します。

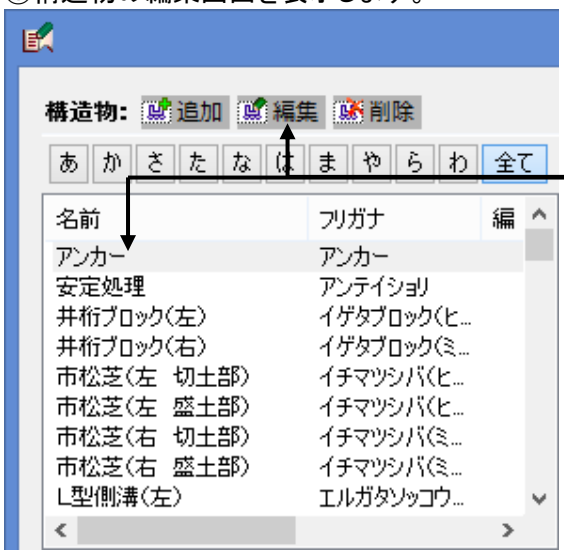
2. 分類がある場合は入力します。

3. [追加]ボタンをクリックします。

■連続して追加する場合は、「連続して追加する」のチェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

構造物の編集

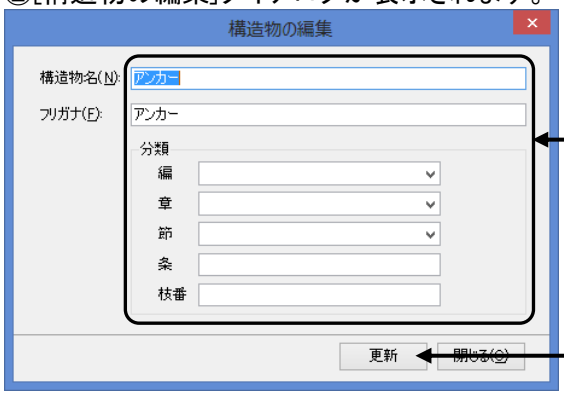
①構造物の編集画面を表示します。



編集を行う構造物を選択し、[編集]ボタンをクリックします。

■[編集]したい構造物を右クリックし、[構造物の編集]からでも、編集できます。

②[構造物の編集]ダイアログが表示されます。

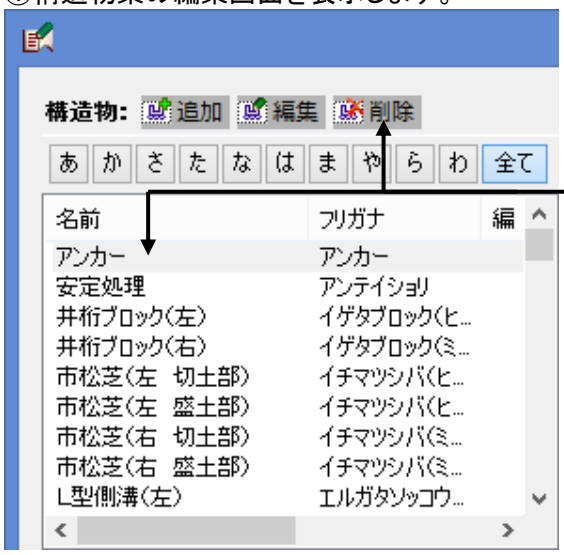


1. 構造物を編集します。

2. [更新]ボタンをクリックします。

構造物の削除

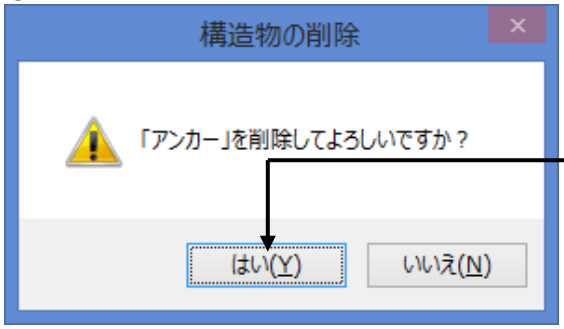
①構造物集の編集画面を表示します。



削除する構造物を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

■[削除]したい構造物を右クリックし、[構造物の削除]でも削除できます。

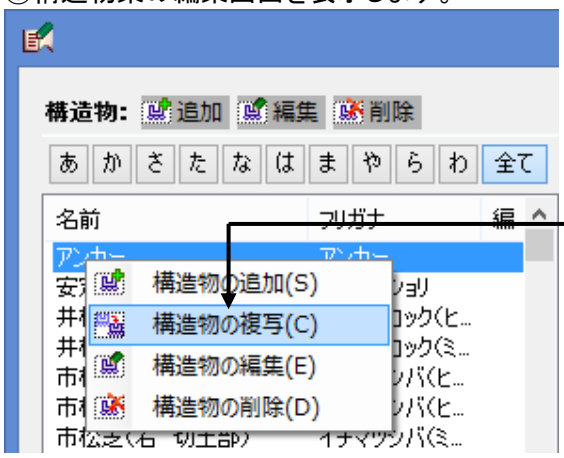
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

構造物の複写

①構造物集の編集画面を表示します。



複写したい構造物を右クリックし、[構造物の複写]をクリックします。

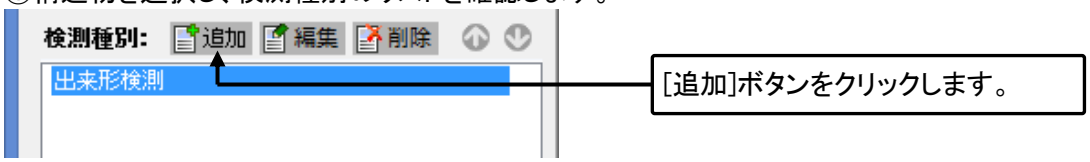
②リストの最終行に構造物が複写されます。

検測種別の管理

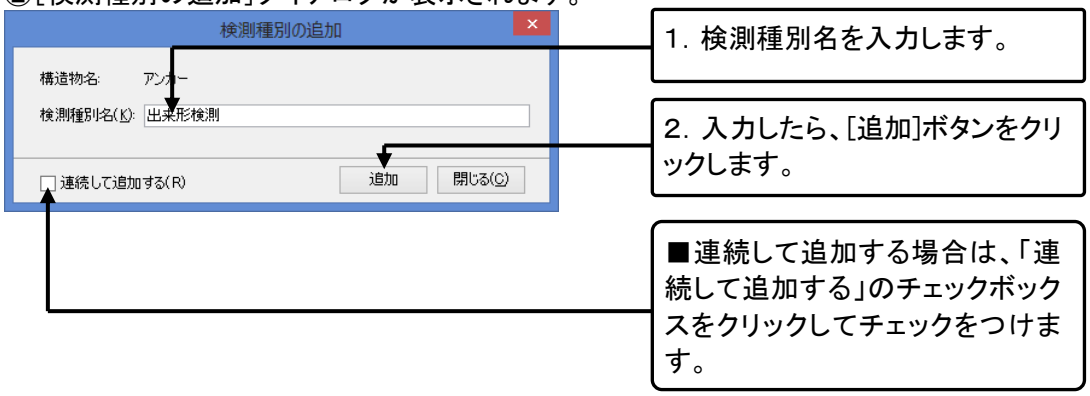
構造物ごとに検測種別を管理します。

検測種別の追加

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。

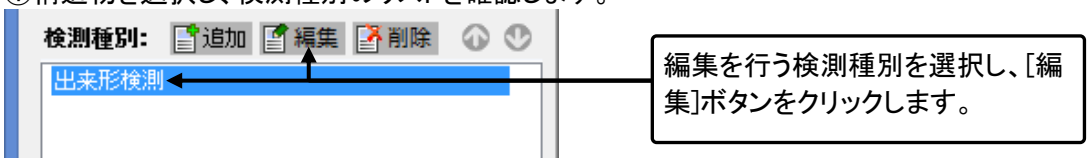


②[検測種別の追加]ダイアログが表示されます。



検測種別の編集

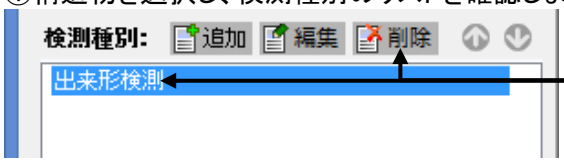
①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



②[検測種別の編集]ダイアログが表示されます。

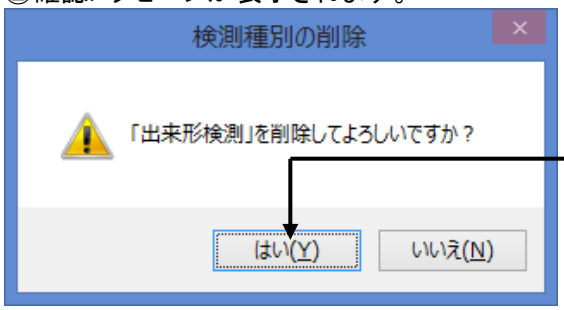
検測種別の削除

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



削除する検測種別を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

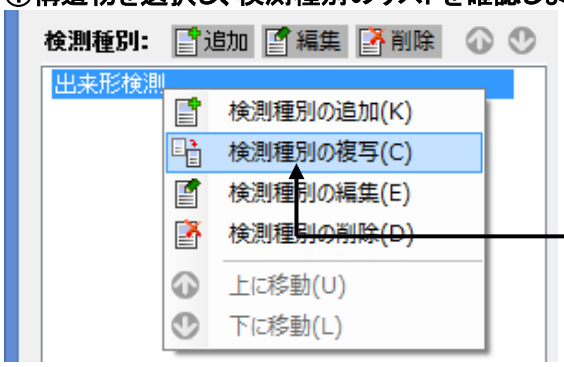
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

検測種別の複写

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。

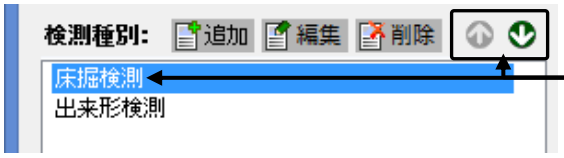


複写したい検測種別を右クリックし、[検測種別の複写]をクリックします。

②リストの最終行に検測種別が複写されます。

検測種別の並べ替え

構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



移動する検測種別を選択し、上に移動させる場合は、ボタンをクリックします。下に移動させる場合は、ボタンをクリックします。

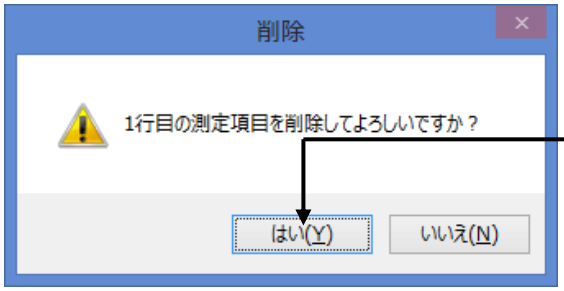
測定項目の管理

測定項目行の追加・挿入・削除

構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。

行を選択し、作業を選択します。

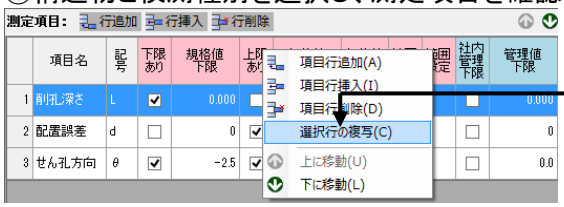
■削除の場合は、確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

測定項目行の複写

①構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。



行を右クリックし、[選択行の複写]をクリックします。

②測定項目の最後に行が複写されます。

測定項目行の並べ替え

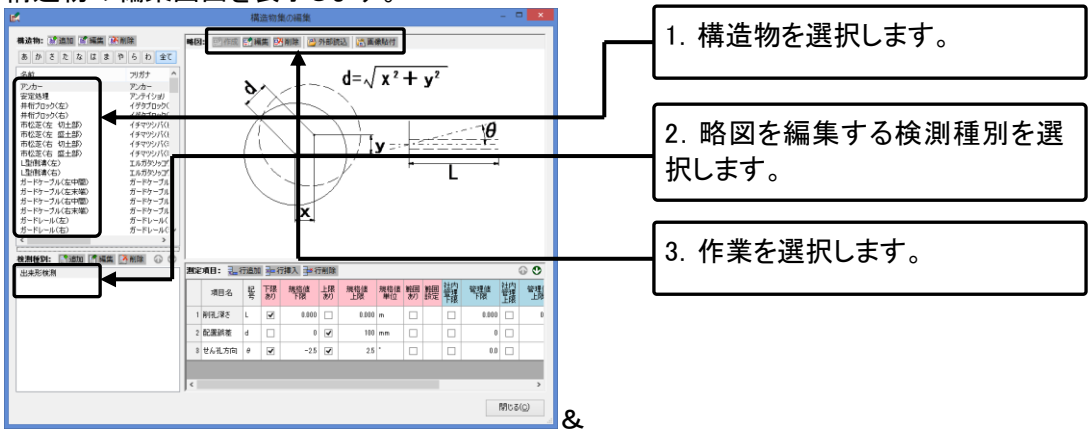
構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。

移動する行を選択し、上に移動させる場合は、ボタンをクリックします。下に移動させる場合は、ボタンをクリックします。

■行を右クリックし、[上に移動]・[下に移動]でも、並べ替えが可能です。

略図の作成、読み込み、編集、削除

構造物の編集画面を表示します。



&

■「作図システム」の操作方法については「作図システム」操作マニュアルを参照してください。

■各ボタンの機能は（→P58「8. 略図を追加する」）を参照してください。

13. データをチェックする

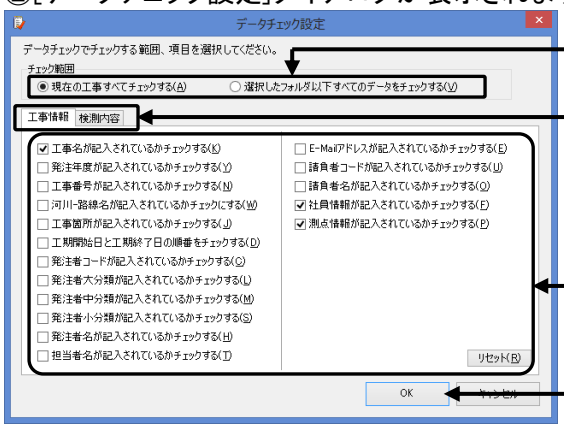
作成したデータに不備がないかチェックを行います。

データチェック設定

データチェックの設定を行います。

①メニューの[データ]－[データチェック設定]をクリックします。

②[データチェック設定]ダイアログが表示されます。



1. データをチェックする範囲を選択します。

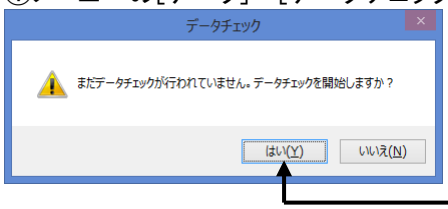
2. [工事情報]と[検測内容]を切り替えて、設定内容を確認します。

3. チェックが必要な項目を選択します。

4. [OK]ボタンをクリックします。

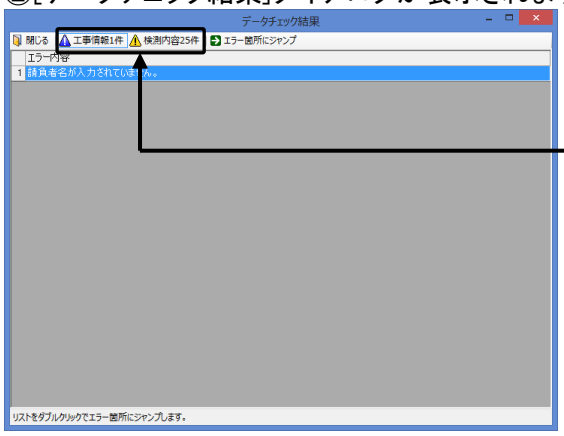
データチェック

①メニューの[データ]－[データチェック]をクリックします。



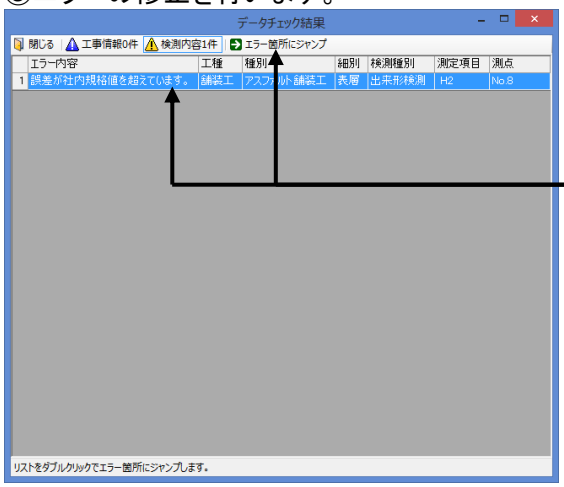
[はい]ボタンをクリックします。

②[データチェック結果]ダイアログが表示されます。



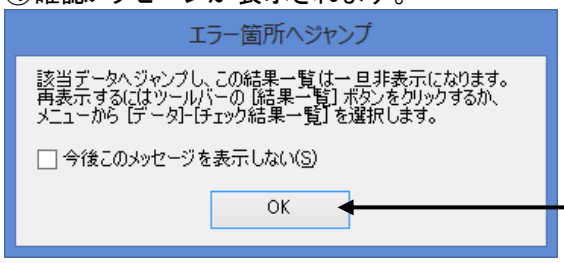
[工事情報]と[検測内容]を切り替えて、エラー内容を確認します。

③エラーの修正を行います。



修正したいエラーを選択し、[エラー箇所にジャンプ]ボタンをクリックします。

④確認メッセージが表示されます。



[OK]ボタンをクリックします。

⑤正箇所が表示されますので、修正を行います。

ご注意

1. このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。

2. このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

商標等

本製品の著作権は、株式会社ワイズにあります。

QuickProject は株式会社ワイズの商標です。

FlexGrid for Windows Forms Copyright (C) 2002-2010 ComponentOne LLC.

Windows は米 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

システム購入後のトラブル、操作方法についてのお問い合わせは

サポートダイヤル：050-5491-1112までお願いします。

お急ぎでない場合は、できるだけFAX（026-266-0845）またはe-mail（info@wise.co.jp）にてお問い合わせください。

またお問い合わせの際には、次のことをお知らせください。

①ご利用商品
②貴社名
③ご担当者様名
④お電話番号
⑤パソコンのシステム構成（使用OS、パソコンのメーカー名、機種名、印刷の不具合の場合はプリンタのメーカー名、機種名等）
⑥お問い合わせ内容（操作の手順、表示メッセージなどの詳しい状況）

QuickProject TS出来形マネージャ 操作マニュアル

平成26年10月 改訂

株式会社ワイズ
〒380-0803
長野県長野市三輪1丁目8番14号
TEL.026-266-0710㈹
FAX.026-266-0845
e-mail：info@wise.co.jp
http://www.wise.co.jp/